

議員のなり手不足対策に関する 検討経過報告書



奥州市議会マスコットキャラクター キジロク君

令和8年2月

奥州市議会 市政調査会

1 概要

奥州市議会では、令和4年に執行された市議会議員選挙において、立候補者数が議員定数と同数となり、無投票当選が生じたことを受け、議員のなり手不足を議会運営上の重要な課題として捉え、その要因及び対応策について検討を行ってきた。

本件については、一時的な現象ではなく、全国的にも同様の事例が増加している状況を踏まえ、構造的な課題として整理し、議会として中長期的な視点から対応する必要があるとの認識のもと、市政調査会を中心に調査研究を進めてきたものである。

検討に当たっては、全国、岩手県内及び東北地方における市議会議員選挙の動向分析を行うとともに、同規模自治体の議員定数及び議員報酬の状況、なり手不足対策の取組事例について調査を実施した。また、議員活動量調査や全議員を対象としたヒアリング調査、有識者を招いた研修会及び講演会を実施し、専門的知見の把握に努めた。

さらに、市民の意見を把握するため、市内5地域において市民フォーラムを開催し、議員定数及び議員報酬の在り方をはじめ、議会や議員活動に対する市民の受け止めについて意見交換を行った。

これらの調査・検討を踏まえ、議員間討議を重ねた結果、議員のなり手不足は、議員定数や議員報酬のみならず、議会活動の見えにくさ、議員活動に対する負担感、生活設計や将来不安、多様な人材が参画しにくい環境など、複数の要因が相互に影響し合っていることが整理された。

最終的な議員間討議の結果として、議員定数については現状を維持すべきとする意見が過半数を占め、議員報酬については引上げが必要とする意見が多数となった。一方で、議員定数を維持するのであれば議員報酬も現状維持とすべきとする意見も一定数示されたことから、総合的に判断し、令和8年3月の次期改選においては議員定数及び議員報酬ともに現状維持とする方向性が確認された。

併せて、広聴・広報活動の充実や市民参画の機会の拡大等について、継続的に取り組む必要性が共有された。

2 検討の背景と目的

近年、全国的に地方議会議員選挙における無投票当選や定員割れが増加しており、令和5年統一地方選挙においてもその傾向が顕著となっている。岩手県内においても、議員定数の削減や議員報酬の増額を実施した自治体であっても無投票当選が生じている事例が確認されており、単一の施策のみでは議員のなり手不足の解消に至らない状況が明らかとなっている。

奥州市議会においても、令和4年3月の市議会議員選挙において、議員定数28人に対し立候補者数が同数となり、無投票当選が生じた。これは、議会の構成や市民の多様な意見を反映するという観点からも看過できない状況であり、議員のなり手不足を一過性の事象ではなく、議会運営の持続性に関わる重要な課題として捉える必要性が顕在化したものである。

奥州市議会の議員定数は、平成26年以降28人で推移している。また、議員報酬については、平成30年に36万円へ改定が行われて以降、現在に至るまで見直しは行われておらず、その間における社会経済情勢の変化や議員活動を取り巻く環境の変化、近隣自治体との均衡等を踏まえた検証が十分に行われてきたとは言い難い状況にある。近隣自治体と比較した場合においても、必ずしも高水準とは言えない状況が継続している。

このような背景を踏まえ、議員のなり手不足の要因を多角的に整理するとともに、議会として取り組むべき対策及び議員定数・議員報酬の在り方について、これまでの検討経過や市民意見を踏まえながら総合的に検討することを目的として、本検討を開始したものである。

なお、奥州市議会における議員定数及び議員報酬の変遷は次ページの表1のとおりである。

令和6年3月 市政調査会資料より抜粋

3-2 議員活動量調査結果②-2

➤ 原価方式の算定モデルにて議員報酬を試算（正副議長を除く議員）

(議員の活動時間数) 998時間
(市長の職務遂行時間数) 2004時間

×市長の給料 826,000円 = 議員報酬額 411,351円

➤ 【参考】市長の活動時間数（令和4年度分）

分類	時間	適要
市議会関係	353時間40分	定例会、全協、一般質問打ち合わせ等
課題協議等	268時間53分	課題協議、事前説明、案件報告等
イベント関係 市長出席の会議	311時間25分	イベント参加 市長として出席する会議
決裁業務等	411時間	文書決裁、書類作成等
その他	659時間05分	姉妹都市行事、来客対応、式典出席等
合計	2004時間03分	

22

(表1) 奥州市議会における議員定数・議員報酬の変遷

年	概要	定数	報酬
平成18年(2006年)	市町村合併により奥州市が発足。 合併後の議員定数は合併特例に基づき41人でスタート。	41人	321,000円
平成22年(2010年)	合併特例終了に伴い、議員定数を34人へ削減。以降、段階的な定数見直しが行われる。	34人	321,000円
平成26年(2014年)	全国市議会の人口10万～20万人の平均議員数が27.4人であること、類似団体議員数が25人前後に集中し県内8市が削減したこと、人口減少と行財政改革の観点から小幅削減とし、議員定数を28人とする。この定数が以後、現在に至るまで維持されている。	28人	321,000円
平成30年(2018年)	議員報酬を改定し、月額360,000円とする。 近隣市との均衡等、多角的に比較検討した結果の見直し。	28人	360,000円
令和4年(2022年)	市議会議員選挙において、定数28人に対し立候補者28人となり、無投票当選が発生。 これを契機として、議員のなり手不足対策及び定数・報酬の在り方に関する本格的な検討を開始。	28人	360,000円

3 検討経過

検討の初期段階では、全国及び東北地方、岩手県内における市議会議員選挙の結果を分析し、無投票当選や定員割れの発生状況と、議員定数の削減や議員報酬の改定との関係性について整理を行った。その結果、定数削減や報酬増を実施した場合であっても、必ずしも立候補者数の増加につながらない事例が多いことが確認された。

次に、有識者による研修会や議員活動量調査、議員ヒアリング調査を通じ、議員のなり手不足は、「議員活動の負担感や責任の重さに対する不安」、「収入や生活設計への不安」、「議会活動の内容が市民に十分伝わっていないこと」、「多様な人材が参画しにくい制度や慣行」など、複数の要因が相互に影響し合っている構造的な課題であることが整理された。

令和6年12月に市内5地域で開催した市民フォーラムでは、延べ91名の市民が参加し、議員定数については「ちょうどよい」とする意見が多数を占めた。一方、議員報酬については「少ない」とする意見が6割を超え、特に現役世代や若年層が議員活動を行う上での生活面への不安が指摘された。また、議会や議員の活動内容が分かりにくいとの意見も多く、広報や対話の在り方に関する課題が示された。

これらの調査結果を踏まえて実施した議員間討議では、議員定数については現状維持とすべきとの意見が過半数を占め、市民意見の尊重や多様な声を市政に反映する観点が重視された。議員報酬については「引上げが必要」とする意見が多数となったものの、議員定数との関係性や、市民理解を得るための期間を確保することの重要性等を踏まえ、令和8年3月の次期改選においては現状維持とする判断に至った。

(表2) 主な検討、活動の経過

令和4年10月～令和5年9月	議員活動量調査
令和5年3月	なり手不足や議会の在り方に関する講演会
令和5年8月	なり手不足や議会の在り方に関する講演会
令和5年9～10月	議員ヒアリング調査
令和6年12月	市民フォーラムの開催（市内5地域）
令和7年2月	議員間討議
令和7年8月	市民フォーラムの開催

4 結論と今後の継続取組事項

これまでの調査研究、議員間討議及び市民フォーラム等を通じた検討の結果、議員のなり手不足については、議員定数や議員報酬の見直しのみをもって解消できる課題ではなく、議会活動の見える化、市民との対話機会の充実、多様な人材が参画しやすい環境整備等を含め、総合的かつ継続的に取り組む必要があるとの認識が共有された。

議員定数及び議員報酬については、次期改選においては、これまでの検討経過及び市民意見等を踏まえ、現状を維持することとする。これは、現時点における検討の結論として整理したものであり、議員定数及び議員報酬の在り方に関する検討を終了するものではない。

今後については、令和8年3月の次期改選後の任期において、速やかに議員定数及び議員報酬の在り方に関する検討に着手し、その議論の結果をもって令和12年3月の次々期改選を迎えるものとする。これまでに整理された課題や検討結果を踏まえるとともに、社会情勢の変化や市民意見を適切に把握しながら、必要な見直しについて検討を行っていく。

併せて、広聴・広報活動の継続的な実施、議会活動の見える化の推進、議会DXの取組強化、主権者教育や若年層との対話機会の充実等、議員のなり手不足の解消に資する取組については、今後も継続して実施していくものとする。



資料編目次

議員のなり手不足対策について（令和5年8月22日 市政調査会役員会）	1
議員のなり手不足対策について（令和5年9月28日 市政調査会役員会）	12
議員活動量調査結果（令和6年2月5日 市政調査会役員会）	18
議員ヒアリング結果（令和6年3月1日 市政調査会役員会）	22
議員のなり手不足対策について（令和6年3月1日 市政調査会役員会）	39
令和6年度 奥州市議会市民フォーラム報告書	62
議員間討議の結果について（令和7年3月27日 市政調査会全体会）	91
令和7年度 奥州市議会市民フォーラム報告書	97

議員のなり手不足対策について

令和5年8月22日

奥州市議会 市政調査会

1

1 なり手不足対策として取り組む内容

市政調査会におけるなり手不足対策として、当面『**計画策定**』と『**取組実践**』を同時並行で取り組みたい。

1-1 取組実行計画の策定

(1) 事例研究

- ① 同規模自治体の現状調査〔立候補状況・なり手不足対策の有無〕
- ② 同規模自治体の定数・報酬の現状調査
- ③ なり手不足対策の最前線調査

(2) 専門的知見の活用

- ① 学識経験者からの指導等
- ② 学識経験者による計画の評価と検証

(3) 各議員からの聴取調査と議員間討議

- ① 立候補の背景、支持基盤の有無などの影響、今後予定している対策等の聴取
- ② 活動実態調査の分析
- ③ 計画策定に係る議員間討議

(4) 市民との対話

- ① ワールドカフェでの計画説明と意見交換
- ② Googleアンケートを活用した意見聴取（パブリックコメント）

1-2 なり手解消に向けた取組実践…基本は各委員会での実践

(1) 議員間討議における実践希望(R5.3.8WCより)

ワールドカフェ・政治カフェ・模擬議会(若者・女性)、議会・選挙の仕組み勉強会・出前講座、議員活動・政策決定プロセス見える化、出張議会、モニター制、民意実現、職業としての議員PR、報酬増、参画しやすい環境整備(子育て・服装・時間等)、サポート窓口、DX推進

(2) 青森大学佐藤淳教授による『ループ図』解析

① 議会ができること

定数、報酬、仕事量の不安、業務負担、能力的不安、多様性、女性社会参加、家族理解度、批判誹謗中傷、政治家の魅力、サポート体制、選挙対策不安(手法・金)、議会活性化度、議会運営柔軟度、議会・議員への評価・関心度、住民福祉の向上実感、住民参画、国への働きかけ、新しい情報量、議会DX度

② 議会ができないこと

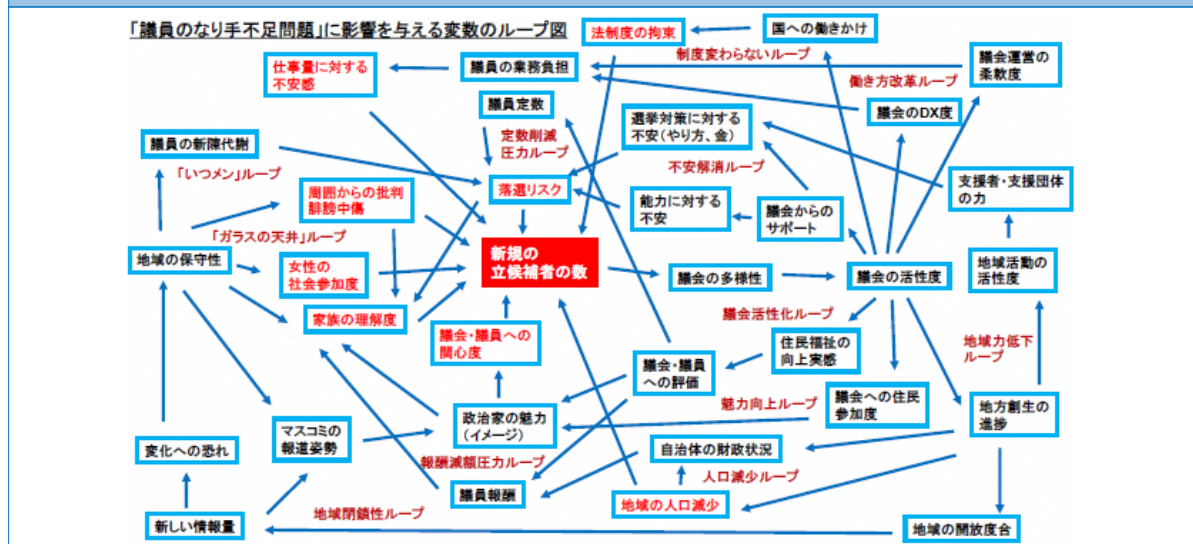
法制度の拘束、地方創生の進捗、支援者・団体力

③ 議会ができるか不明なこと

地域の開放度合・保守性、変化への恐れ、マスコミ報道姿勢、落選リスク、財政状況、人口減少

2

【参考】議員のなり手不足に係るループ図



【出典】奥州市議会市政調査会研修会資料（青森大学社会学部 佐藤淳教授 作成）



【参考】議長マニフェスト実行計画〔工程表〕との関係性

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
◆議会運営委員会	★議会基本条例PDCAサイクルシート・行動計画の実施(議員間討議・通年議会・DX等)	★議会基本条例の評価・検証	★議会基本条例見直し ★PDCAサイクルシート・行動計画の策定	
	★決算・予算審査連動の政策提言サイクルの調査・体制整備 ★オンライン本会議の調査・体制整備	★決算・予算審査連動の政策提言の実施 ★オンライン本会議実現時の本格運営		
◆常任委員会	★政策提言に向けた調査研究 ★提出済政策提言のフォローアップ	★政策提言の実施	★政策提言に向けた調査研究 ★提出済政策提言のフォローアップ	★政策提言の実施
◆議会改革検討委員会	★改革検討項目の抽出・計画	★改革検討項目の検討・実施		★改革検討実施結果の評価
◆議会広報委員会	★広聴機能追加 ★主権者教育検討 ★新広報「みち」	★小中高生・若者・女性との模擬議会・ワールドカフェの実施 ★議場・議会見学会の実施 ★新広報編集・発行		
◆市政調査会	★議員成り手不足の調査研究 ★議員定数・報酬の調査研究	★成り手不足対策の実施 ★定数・報酬に係る市民対話	★定数・報酬に係る結論と市民説明	

2 なり手不足対策として取り組むスケジュール（その1）〔令和4～5年度〕

取組スケジュールは、当面以下のとおりとして実施したい。（他委員会実践分は除く）

期日	計画策定・取組実践
R4年9月	〔研修会〕なり手不足とその対策(長内氏)
10月	活動実態調査開始(～R5.9月)
R5年2月	〔研修会〕ハラスメント映像・なり手不足実態
3月	〔研修会〕なり手不足ワールドカフェ(佐藤氏)
8月	〔役員会〕事例研究①(現状分析1:無投票、定数・報酬)、議員①聴取調査手法 〔研修会〕専門③『最新動向から読み解く地方議会の取組の本質』(江藤氏)
9月	〔役員会〕事例研究②(現状分析2:なり手対策と定数・報酬) 〔役員会〕事例研究③(なり手対策と定数・報酬ワールドカフェ)
10月	〔役員会〕事例研究④(現状分析3:なり手対策と定数・報酬)、議員②聴取調査分析 〔役員会〕事例研究⑤(現状分析4:なり手対策と定数・報酬会派照会事項)、議員③活動実態調査分析1
11月	〔役員会〕事例研究⑥(現状分析5:なり手対策と定数・報酬会派照会分析1)、議員④活動実態調査分析2 〔全体会〕事例研究⑦(なり手対策と定数・報酬ワールドカフェ)、各委員会等取組実践報告
12月	〔役員会〕事例研究⑧(現状分析6:なり手対策と定数・報酬会派照会分析2)、計画策定①:計画項目検討
1月	〔役員会〕事例研究⑨(現状分析7:なり手対策と定数・報酬)、計画策定②:計画案検討1
2月	〔役員会〕事例研究⑩(現状分析8:なり手対策と定数・報酬、計画策定③:計画案検討2) 〔全体会〕事例研究⑪(現状分析9:なり手対策と定数・報酬、計画策定④:計画案報告)、各委員会等取組実践報告 〔研修会〕専門④『なり手不足対策に求められるもの～効果的な計画にするために～』・計画第三者評価(佐藤氏)
3月	〔役員会〕任期まとめ・次期引継項目

5

2 なり手不足対策として取り組むスケジュール（その2）〔令和6年度〕

期日	計画策定・取組実践
R6年4月	〔役員会〕新任期役員取組事項確認 〔役員会〕取組実践①(なり手対策PR1)
5月	〔役員会〕取組実践②(なり手対策PR2) 〔役員会〕取組実践③(なり手対策PR3、定数・報酬方針検討1)
6月	〔役員会〕取組実践④(定数・報酬方針検討2) 〔全体会〕取組実践⑤(定数・報酬方針検討3) 〔役員会〕取組実践⑥(定数・報酬方針検討4)
7月	〔役員会〕取組実践⑦(定数・報酬方針検討5、市民懇談会・パブコメ内容検討1) 〔役員会〕取組実践⑧(市民懇談会・パブコメ内容検討2、なり手対策PR4) 〔全体会〕取組実践⑨(市民懇談会・パブコメ内容報告)、各委員会等取組実践状況報告
8月	〔役員会〕取組実践⑩(なり手対策PR5、市民懇談会ワールドカフェ6回開催) 〔役員会〕取組実践⑪(市民懇談会・パブコメまとめ)
9月	〔全体会〕取組実践⑫(市民懇談会・パブコメ報告)、各委員会等取組実践状況報告 〔役員会〕取組実践⑬(課題研究1)
10月	〔役員会〕取組実践⑭(課題研究2、なり手対策PR6) 〔役員会〕取組実践⑮(課題研究3)
11月	〔役員会〕取組実践⑯(課題研究4、なり手対策PR7) 〔全体会〕取組実践⑰(課題研究報告)、各委員会等取組実践状況報告 〔役員会〕取組実践⑱(市民懇談会・パブコメ内容検討1)
12月	〔役員会〕取組実践⑲(市民懇談会・パブコメ内容検討2) 〔全体会〕取組実践⑳(課題対応方針報告、市民懇談会・パブコメ内容報告) 〔役員会〕取組実践㉑(市民懇談会ワールドカフェ6回開催～1月まで)

6

2 なり手不足対策として取り組むスケジュール（その3）〔令和6～7年度〕

期日	計画策定・取組実践
R7年1月	{役員会} 取組実践②(市民懇談会ワールドカフェ6回開催(続き)、なり手対策PR8) {役員会} 取組実践③(市民懇談会・パブコメまとめ、定数・報酬最終方針検討1)
2月	{役員会} 取組実践④(定数・報酬最終方針検討2、なり手対策PR9) {全体会} 取組実践⑤(市民懇談会・パブコメまとめ報告、定数・報酬最終方針報告1)
3月	{役員会} 取組実践⑥(定数・報酬最終方針検討3) {全体会} 取組実践⑦(定数・報酬最終方針報告2) ※最終方針決定期限
4月	{役員会} 取組実践⑧(課題研究5、なり手対策PR10) {役員会} 取組実践⑨(課題研究6)
5月	{役員会} 取組実践⑩(課題研究7) {役員会} 取組実践⑪(課題研究8)
6月	{全体会} 取組実践⑫(課題研究報告)、各委員会等取組実践状況報告 ※条例改正時期限
7月	{役員会} 取組実践⑬(なり手対策PR11)
8月	{役員会} 取組実践⑭(なり手対策状況検討、なり手対策PR12)
9月	{役員会} 取組実践⑮(課題研究9) {全体会} 取組実践⑯(なり手対策状況報告)、各委員会等取組実践状況報告 ※不出馬表明期限
10月	{役員会} 取組実践⑰(課題研究10)
11月	{役員会} 取組実践⑱(課題研究11・任期まとめ1)
12月	{全体会} 取組実践⑲(課題研究報告・任期まとめ2)
R8年2月	市議会議員選挙告示
3月	市議会議員選挙投票

3 【計画策定】事例研究1-1 全国的な議員のなり手不足の現状〔全国〕

(1) 2023年統一地方選挙の結果

- 統一地方選挙後半戦に見る特徴
- ① 無投票当選の増加
- 294中**4.8%**の14市議選では237人が無投票当選（前回・前々回10市）
 - 373中**30.3%**の123町村議選では1250人が無投票当選で過去最高（前回93町村）
 - 北海道や長野県など20町村で定員割れで22人が欠員（前回比12町村増）
- ② 市議立候補者は全体数・女性数とも増加
- 市議選では定数6,636人に8,261人が立候補（前回比199人増）。女性候補は前回より305人多い1,699人で立候補者全体の20.6%を占め過去最高
 - 町村議選では定数4,126人に4,563人が立候補。前回を212人下回り過去最少も、女性候補は前回より95人多い671人で立候補者全体の14.7%を占め過去最高

2023年統一地方選挙 一般市議会議員選挙無投票団体数調

区分	団体数	無投票	無投票団体名
北海道	26	5	室蘭市、夕張市、名寄市、登別市、北斗市
東北	12	1	長井市
関東甲信越	106	4	勝浦市、都留市、岡谷市、加茂市
東海北陸	50	2	中津川市、小浜市
関西	44	0	
中国四国	17	0	
九州沖縄	39	2	杵築市、日南市
計	294	14	

【出典】総務省 第20回統一地方選挙発表資料

3【計画策定】事例研究1-2 県内の議員のなり手不足の現状

(2) 県内14市の最近の選挙結果

- 直近選挙では無投票は大幅増加、北上市は報酬増も無投票、釜石市、八幡平市は定数減も無投票
- 過去3回まで見ても、無投票が継続する市は無い

自治体名	人口	面積	前回				前々回				前々々回			
			定数	立候補	投票率	報酬	定数	立候補	投票率	報酬	定数	立候補	投票率	報酬
盛岡市	285,407	886.47	38	44	52.62	617,000	38	41	51.44	617,000	38	47	48.87	617,000
奥州市	111,632	993.30	28	28	無投票	360,000	28	30	64.24	360,000	28	32	67.70	321,000
一関市	109,709	1,256.42	26	27	58.62	360,000	30	32	62.68	360,000	30	34	65.22	360,000
花巻市	92,377	908.39	26	31	55.21	339,000	26	28	57.65	339,000	26	30	63.18	339,000
北上市	92,069	437.55	26	26	無投票	401,000	26	27	57.05	351,000	26	28	60.62	340,470
滝沢市	55,273	182.46	20	23	43.28	329,000	20	22	58.49	329,000	20	23	49.72	293,000
宮古市	48,038	1,259.15	22	23	54.07	320,000	22	24	59.57	320,000	28	28	無投票	320,000
大船渡市	33,540	322.51	20	21	65.71	320,000	20	24	75.70	320,000	20	27	78.63	320,000
久慈市	32,645	623.50	20	23	56.50	303,000	20	22	66.74	303,000	24	28	69.72	303,000
釜石市	30,635	440.35	18	18	無投票	313,000	20	22	64.57	313,000	20	22	68.11	313,000
二戸市	25,138	420.42	18	20	57.22	301,000	18	18	無投票	301,000	18	23	65.65	301,000
遠野市	25,058	825.97	17	19	69.84	302,000	18	22	74.56	302,000	18	19	74.70	302,000
八幡平市	23,975	862.30	18	18	無投票	300,000	20	22	67.25	300,000	22	24	70.68	271,000
陸前高田市	17,967	231.94	18	26	76.91	300,000	18	19	73.79	300,000	18	19	77.68	300,000

9

3【計画策定】事例研究1-2 東北の議員のなり手不足の現状〔青森・秋田・山形〕

(3) 東北管内の最近の選挙結果(その1)

- 青森、秋田、山形では、前回、前々回選挙での無投票は無い。無投票継続も無い
- 前回または前々回選挙時において半数が定数減、1/3が報酬増で臨む。うち両方同時実施は、前々回に無投票だった由利本荘市のみで、大仙市が時期をずらして両方実施

自治体名	人口	面積	前回				前々回				前々々回			
			定数	立候補	投票率	報酬	定数	立候補	投票率	報酬	定数	立候補	投票率	報酬
弘前市	164,243	524.20	28	34	42.92	517,000	28	36	47.93	517,000	28	36	47.88	490,000
十和田市	59,024	725.65	22	26	43.49	362,000	22	23	43.72	362,000	22	24	61.01	362,000
むつ市	53,884	119.39	22	25	57.37	340,000	26	30	63.00	340,000	26	30	64.60	340,000
五所川原市	51,641	404.20	22	25	62.63	352,000	22	27	68.54	352,000	26	27	66.55	352,000
横手市	84,294	692.80	26	27	63.51	384,000	26	29	68.30	384,000	26	29	68.72	384,000
大仙市	76,530	866.79	24	28	62.40	432,000	28	29	64.99	432,000	28	30	68.29	394,900
由利本荘市	72,753	1209.59	22	26	60.12	402,000	26	28	67.70	359,000	26	26	無投票	359,000
大館市	68,083	913.22	26	28	61.08	357,000	26	29	63.82	357,000	28	37	72.28	357,000
鶴岡市	120,398	1311.51	28	31	65.68	445,000	32	34	68.34	445,000	32	34	62.13	445,000
酒田市	97,395	602.98	25	30	66.27	450,000	28	35	57.74	450,000	28	29	54.36	450,000
米沢市	77,232	548.51	24	27	53.44	420,000	24	28	57.15	420,000	24	28	59.12	409,400
天童市	61,052	113.02	22	23	55.31	393,000	22	24	61.15	393,000	22	27	64.95	393,000

10

3【計画策定】事例研究1-2 東北の議員のなり手不足の現状〔宮城・福島〕

(3) 東北管内の最近の選挙結果(その2)

- 宮城、福島では、無投票は前回の多賀城市、前々回の須賀川市のみ。改めて岩手県の前回4団体が目立つ
- 2/5で定数減、多賀城市のみ報酬増で臨むも無投票。無投票の継続は無い

自治体名	人口	面積	前回				前々回				前々々回			
			定数	立候補	投票率	報酬	定数	立候補	投票率	報酬	定数	立候補	投票率	報酬
石巻市	136,822	554.55	30	43	51.34	444,000	30	38	51.77	444,000	30	35	52.82	444,000
大崎市	125,444	796.81	28	31	48.13	428,000	30	33	51.24	428,000	30	32	54.87	428,000
名取市	79,630	98.18	21	22	39.29	395,000	21	23	42.45	395,000	21	29	50.06	395,000
登米市	74,795	536.09	26	30	59.84	398,000	26	28	66.17	398,000	26	31	69.61	398,000
栗原市	63,299	805.00	24	27	68.73	401,000	26	28	70.13	401,000	26	29	72.67	401,000
多賀城市	62,204	19.69	18	18	無投票	394,000	18	21	43.91	384,000	18	21	47.76	384,000
気仙沼市	58,926	332.44	24	26	55.46	364,000	24	27	61.31	364,000	24	26	58.25	364,000
塩竈市	52,480	17.37	18	20	54.82	409,000	18	24	52.37	409,000	18	19	56.82	409,000
富谷市	52,399	49.18	18	21	48.72	319,000								
会津若松市	114,180	382.97	28	33	51.11	447,000	28	32	53.40	447,000	30	35	50.24	447,000
須賀川市	74,197	279.43	24	25	45.28	423,000	24	24	無投票	423,000	24	27	55.89	423,000
白河市	58,752	305.32	24	30	55.23	385,000	24	29	59.27	385,000	26	28	63.59	385,000
伊達市	57,605	265.12	16	17	61.30	385,000	18	21	58.41	385,000				
南相馬市	57,533	398.58	22	26	56.37	385,000	22	24	55.91	385,000	22	25	59.10	385,000
二本松市	52,162	344.42	22	23	60.68	375,000	22	23	64.96	375,000	26	27	68.08	375,000

11

4 なり手不足対策の先進事例（その1）

今年の統一地方選挙において、前回無投票の先進の議会・議員が自ら取り組んだなり手不足対策は次のとおり。

市町村	定数 /立候補	取組実践例
北海道 栗山町	11人 /14人	町議会が今年2～3月に「議員の学校」を開講。計6回の講座に18人が参加し、議員から直接やりがい を聞くなどした。過去2回無投票が続いたが町議選には定数11に対し、14人が立候補。講座参加者からは 3人が立候補し、いずれも初当選した。当選者の一人は「講座に参加するまで、議会の仕組みがわかって いなかった。議会が何をしているかが町民に伝われば、なり手不足は解消できると思う」と語った。なお、 同学校参加者からは隣町の由仁町議会にも1人の当選者を輩出している。 ●栗山町議会 https://www.town.kuriyama.hokkaido.jp/site/gikai/20310.html ●NHK北海道放送局 https://www.nhk.or.jp/hokkaido/articles/slug-nddaf7801c14d
長野県 木祖村	9人 /10人	前年12月議会後、現職10人が村議選に対する態度を一斉表明。2人が立候補しないと明言し、同村議選 は今回から定数を9に減らしたが、早めに不出馬議員の数を明らかにすることで、新人の立候補を後押し。 新人2人を含む計10人が立候補を届け出て、選挙戦になった。初当選した一人は「現職の態度表明は、立 候補のきっかけになった。若手や女性が少ない状況を知り、議員になろうと決意できた」と振り返る。 ●木祖村議会 https://www.vill.kiso.nagano.jp/gyoseijoho/gikai/documents/gikaihou/180.pdf
愛知県 幸田町	16人 /22人	「議会だより」で計7回「議員のなり手不足解消に向けて」と題した特集を掲載。議会への関心を高め ようと、議員の仕事や立候補から投票までの流れを説明した。定数16に対し、現職11、新人11の計22人 が立候補した。前々回、前回選と無投票が続き、前回選は立候補者が15人で「定数割れ」だった。初当選 した一人は「議会だよりを何度も読み返した。立候補にはどのような準備が必要かよくわかった」と話す。 ●幸田町議会 https://www.town.kota.lg.jp/site/gikai/list11-79.html ●CBCニュース https://www.youtube.com/watch?v=GrXuzlvzoZY

【出典】読売新聞オンライン、NHKオンライン

12

4 なり手不足対策の先進事例（その2）

その他の先進の議会・議員が自ら取り組んだなり手不足対策の映像集は次のとおり。

地域	取組実践例
女性 若者	地方議会に変化と多様性を 議員を目指す女性や若者の選挙戦に密着取材 - NHK クローズアップ現代 全記録 ●NHKクローズアップ現代
北海道	都会から移住 20代女性が初当選 パートと掛け持ちの議員も なり手不足…地方議会の挑戦 - YouTube ●STVニュース北海道
埼玉県 富士見市	市議会議員の仕事の成果とは？～市政一般質問で政策を実現する！～ - YouTube 加賀ななえ オフィシャルサイト 富士見市議会議員 (nanae.site)
神奈川県 横須賀市	過密スケジュール！？市議会議員のリアルな一週間！～横須賀市議会議員 堀りょういち - YouTube 【横須賀市議会議員】 - 堀りょういち公式サイト (horiryouchi.net)
愛知県	【地方議員】なり手不足の解消は「議員の定数減」が有効か 専門家「報酬も増え、やる気も高まる」【専門家が解説】 (2023年4月24日) - YouTube ●テレビ愛知公式チャンネル
岡山県 笠岡市	議員のなり手不足解消目的で増額も…笠岡市の議員報酬 月額5万円引き下げの条例改正案が可決【岡山】 (23/08/07 18:00) - YouTube ●OHK公式チャンネル
愛媛県 松山市	【トランスジェンダー市議】トイレに困惑も…議員“初登庁”の1日に密着 愛媛 NNNセレクション - YouTube ●日テレNEWS
福岡県	【ドローカル議会】福岡 地方議員と情報発信【アサデス。】 - YouTube ●福岡・佐賀KBC NEWS
大分県 佐伯市	地方議員「なり手不足」対策 定数減で報酬アップの動き 佐伯市 定数25→22に 大分 (23/07/05 18:40) - YouTube ●TOSテレビ大分ニュース

13

【資料】『議会』として取り組みたいこと1-1 〔R5.3.8 ワールドカフェ個人ワークから〕

区分	取組希望項目
広聴	➤ 市民と議員のワールドカフェの継続（もっと気軽に参加できる出張型・固定した場所での開催） ➤ 市民とのキャッチボールを密にするべきでは ➤ 市民との対話も継続したい。ただし、議会の自己満足になってしまわないように、無理な開催や強要はしない方がよい ➤ 高校生への働きかけ（政策提言だけではなく、調査と一緒に、代わりに一般質問をしたりなど） ➤ 多世代とのワールドカフェ ➤ 取手市議会が行っているような若者の声を聴く取り組みは、本市議会でも取り組めると思う。そのアピールが議会に対するイメージアップになると思われる ➤ 市民と方々とのなり手不足についての意見交換会を行う ➤ 市民との懇談会の回数増・地域でも（過去の市民と議員との懇談会、市政懇談会では、参加者が男性で、60歳以上が多いので、その対極の女性、子供たちを意識していく） ➤ 政治に触れる場の創出（若者・女性などとの懇談） ➤ 市民とふれあう場を設けて、身近に議会を感じてもらうことが必要ではないでしょうか（議員カフェなどで気軽に懇談する機会をつくるなど） ➤ 若い人をターゲットにしたワールドカフェを粘り強く進める

14

【資料】『議会』として取り組みたいこと1-2 〔R5.3.8 ワールドカフェ個人ワークから〕

区分	取組希望項目
広報	➤ 市議選の仕組みについて勉強会を市民向けに開催 ➤ 誰が、何をやっているのかを知ってもらう ➤ 議員活動の見える化 ➤ 議会は何をしているところなのかについて、様々な方法で広く市民に周知する ➤ 広聴広報機能の強化（情報共有により身近に感じてもらうため） ➤ 公共施設での本日の審議内容のデジタル掲示板の設置 ➤ 政策決定プロセスの見える化 ➤ SNSをくだけた感じで発信したら若者から議会の権威が損なわれると言われたので、どうしたらよいか悩む ➤ 市民理解、意識向上・醸成を図るため、議員間討議等の対応状況の可視化の情報発信（新聞等）を行うべき。（市民は関心を持っている。関心事の情報を伝えることで議会への興味を促す） ➤ 小中学生の模擬議会、社会公民の授業に合わせた中高生への出前講座、女性への出前講座 ➤ 議会の公開性を強める（出前議会等） ➤ 議会が元気に活動している姿を見せていく ➤ 難しい課題だけでなく良くなったことも積極的に広報していく（議員のやりがいを知らせていく） ➤ 議会に興味を持ってもらう場 ➤ 議会として議員のなり手不足の解消に向け取り組んでいることを全市的に情報発信すべきである。 ➤ 議会の役割、権能、重要性を知っていただくことが必要と思われる

15

【資料】『議会』として取り組みたいこと1-3 〔R5.3.8 ワールドカフェ個人ワークから〕

区分	取組希望項目
参画	➤ 高校生の議会傍聴はある程度の刺激になっているのではないか ➤ 模擬議会の開催や議会モニター制を活用した市民参画と市政への反映できる仕組みづくり（市政参画）
施策実現	➤ 学生・女性などの模擬議会（要望を施策に反映させるのは必須） ➤ 問題は市民の要求・願いが実現する議会になること ➤ 地域の諸課題も議会で行き届く ➤ 市民、とりわけ若者の意見・提案について常任委員会で取り上げ、解決に向けて活動する ➤ 市民意見を起点とした政策の実現 ➤ 小中高生との話し合いでいただいた意見・提案を議会として実現させることも大事
職業	➤ 議会の仕事の広報 ➤ 議員になりませんかのPR ➤ 中高生への出前授業
討議	➤ 議員個人では分からないこと、会派の中だけでは議論が十分にしきれないことが多いので、今回のようなワールドカフェや研修会を継続したい

16

【資料】『議会』として取り組みたいこと1-4 〔R5.3.8 ワールドカフェ個人ワークから〕

区分	取組希望項目
制度	➤ 議員の老後生活安定のため、議員年金は復活させた方がよい ➤ 登庁せずとも会議に参加できるようにした方がよい。タブレットのさらなる活用 ➤ 議員報酬アップへの働きかけ（併せて議員定数の削減） ➤ 出産・育児に伴う欠席や休暇制度の創設（女性議員を増やす） ➤ 夜間や休日会議の開催 ➤ 夜の議会開催（市民参画の促進） ➤ 議会を身近に感じてもらうため議場コンサートを開催 ➤ 次世代の生活を維持できる報酬設定 ➤ 議員年金の復活に向けた取組 ➤ 多様な人材が参画しやすい環境整備（バリアフリー化、子育て支援、会議規則の見直し） ➤ 議会での服装の在り方 ➤ 選挙の法律が面倒 ➤ ポスター掲示場の整理（選管） ➤ 無投票でも選挙をすべきでは ➤ 本会議の改善（時間、服装等） ➤ 議員定数・報酬・年金の問題
地域	➤ オール奥州での選挙のカベ

17

【資料】『議会』として取り組みたいこと1-5 〔R5.3.8 ワールドカフェ個人ワークから〕

区分	取組希望項目
体制	➤ 立候補したい方のサポート窓口の設置 ➤ 兼業へのサポート（お金とかではなく、時間とか…） ➤ 事務局の充実 ➤ 会社員が議員になりやすいように企業側と交渉をする ➤ 「議員の予備校」のようなものができたらよい ➤ 関心のある人が気軽に相談できる窓口を（HPで周知し、議会事務局に）設置する ➤ 浦幌町の個人研修の取組に奥州市の協働のまちづくりアカデミーと議員が連携し、なりたい人の発見と疑問の解決を手助けしたい。（市議会だよりでの周知） ➤ 奥州市議会はよくやっている（広聴広報活動、政策提言、SNSによる発信など） ➤ 議会におけるDX推進 ➤ 議会・委員会として、人がいる場所に出向く ➤ 立候補的な方々へのサポート窓口の設置 ➤ 選挙の仕組みの学習会 ➤ 常任委員会を分散して開催する（総合支所の活用等で地域の方が傍聴できるように） ➤ 議場を使つてのコンサート、政治カフェを開催するなど、時には議会を楽しみながら活動することも大事

18

【資料】『個人』として取り組みたいこと2-1 〔R5.3.8 ワールドカフェ個人ワークから〕

区分	取組希望項目
環境	➤ 議会のイメージを柔らかいものにしたたり、アットホームな雰囲気にしたたり、身近に感じてもらうこと→発信・次なる担い手の発掘
施策 実現	➤ 市民の要望を市政に反映させるように活動する ➤ 議員として市全体を考え、行動する姿を示したい。 ➤ 市民参加のため課題を設定し、関心を得る努力をする ➤ 住民福祉の向上の取組
広聴	➤ 客観的なデータ提供による市民の素の意見の聞き取り ➤ 行政⇄市民のパイプ役（情報共有） ➤ どんなことでも話し合ったり相談できる「政治カフェ」を開催する ➤ 市民・住民の声、組織や団体のやっていることや要望をよく聞くこと、調査すること（広聴活動） ➤ 普段の活動と市民との接点づくりに努めたい ➤ 市民とのふれあい（議員がフツウの人と思ってもらえるように） ➤ 日頃から市民の話をよく聴く ➤ なり手不足1本に絞って懇談会を開催する

19

【資料】『個人』として取り組みたいこと2-2 〔R5.3.8 ワールドカフェ個人ワークから〕

区分	取組希望項目
広報	➤ 日頃から議員活動を発信（SNS・報告会・チラシなど） ➤ 地域報告会の開催 ➤ 議会報告会、市政報告会をやる（特に、楽しい話題、夢のある話題に限って話す） ➤ 選挙の時だけ市民と接するのはよくないとの思いから、通信の発行・配布と報告会の開催を自分に課している（大変ですが、事後の充実感があります） ➤ 支持者に偏りがちな市政報告会を会派のメンバーのエリアでも開催する ➤ 市民と議会との橋渡しの役割。報告会等の実施により現状を伝え、市民の考え等情報収集につなげる ➤ 地域に入り、議会の取組の報告会をマメに行う。その中で困りごとの聞き取りをする。 ➤ 議会で起きていること、自分がやってきたことを報告する活動（議会報告活動） ➤ 議会報告会をこまめに開く ➤ 問題に対する態度をはっきりさせ、賛同を得る ➤ 議員になりませんかのPR ➤ 講演会・支持者への市政・議会報告会 ➤ 地域の方と活動の情報共有、伝えること、話し合いを ➤ 市政報告会にて自分の市政に対する思い、考え方を広く市民に知ってもらうことが、ひいては議会の理解につなげられるのではないかと、そのことがなり手不足解消になると思う。

20

【資料】『個人』として取り組みたいこと2-3 〔R5.3.8 ワールドカフェ個人ワークから〕

区分	取組希望項目
職業	➤ 議員の魅力を発信していく ➤ 地域代表の在り方を考えていきたい ➤ 議会は市民生活や事業者の活動に深く関与している重要な役割を持っている機関であり、その議会を構成しているのが議員である。やりがいのある仕事であることを友人、知人等に機会を捉えて話していくこと＝適任者の発掘・説得 ➤ 仕事のアピール ➤ 議員に立候補してみてくださいと様々な場面で声をかけてみる ➤ 議員として魅力、存在感を ➤ 議員の必要性を訴える
地域	➤ 地区の係活動を分散させ、若者中心に多数の地区民が多方向で地区を見直せる体制をつくる（個人の考え方を変える） ➤ 地域活動が縮小していることから、議員側が行動する ➤ 振興会、地区センターへの顔出し ➤ 地区振興会への参画と情報共有

21

【資料】『個人』として取り組みたいこと2-4 〔R5.3.8 ワールドカフェ個人ワークから〕

区分	取組希望項目
後継者	➤ 地域の議員のなり手を探す→見つけた人材に少しずつ議員のなり手としての意識付けをする→将来議員になってもらう ➤ 候補者の一本釣り ➤ 次の候補者の一本釣り ➤ 後輩たちへの声かけ ➤ 素のまま（誰でも手を挙げられる） ➤ 人材育成 ➤ 特にないが、当面なりたい方を探す ➤ 不足している若い人・女性へのアプローチと巻き込みで地域への関心、議会への関心につなげたい ➤ 必死になって後継者（なり手）を探す ➤ 個人・有権者への働きかけ ➤ 改選に向け自分自身が議員選出に向け取り組む ➤ 地域の方々と一緒になって後継者を見つける ➤ なんとか後継者を探す

22

議員のなり手不足対策について

令和5年9月28日
奥州市議会 市政調査会

1

1 議員報酬と定数の関わり(1) ～8つの原則～

なり手不足問題に関わって深く関係する議員報酬と定数については、8月29日の市政調査会研修会で講演いただいた大正大学社会強制学部江藤教授が、8つの原則を述べているので再確認したい。

① 議会のポリシーを示す

答えのないテーマであり、自治体がそのポリシーを示す。議員定数は、それぞれの自治体が自らの責任で決めることになった。また、そもそも報酬は（一般的には特別職報酬等審議会の答申を経て）条例で定めることになっている。したがって、それぞれの自治体、とりわけ**議会がそのポリシーを示さなければならない**。

② 議員報酬と定数は別

議員報酬と定数は別の論理。**報酬と定数は、それぞれを独自の論理で説明しなければならない**。

③ 行革と議会改革は別

行政改革の論理とはまったく異なる議会改革の論理。**行政改革は削減を優先させ、効率性を重視する**。それに対して、**議会改革は地域民主主義の実現**である。住民自治をどのように創り出すかということから出発しなければならない。議員報酬・定数を考える場合も、**住民自治を充実させるための条件として議論**しなければならない。また、この**議会改革が執行機関の行政改革を促進**することを再認識すべきである。

2

1 議員報酬と定数の関わり(2) ～8つの原則～

④ 持続的な地域民主主義の条件

持続的な地域民主主義の条件として考える。議員報酬・定数を考えることは、新しい議会を創り出すために必要である。同時に、これは現在の議会のためだけではなく、**多くの多様な住民が将来議員になりやすく、また活動しやすくする条件**である。

⑤ 住民の力を借りた議会力維持

増加できないあるいは削減の場合は、住民による支援が不可欠。財政的問題から本来議員報酬・定数を考えるべきではないが、どうしても危機的状況から考えなければならないこともある。増加させたくともできない、あるいは**削減せざるを得ない場合**もないわけではない。この場合には、**議会力をダウンさせないために**、議会事務局の充実や、住民と議員とが一緒になって地域課題について調査研究するなど（長野県飯綱町など）、**住民による政策提言・監視の支援を制度化すべき**である。

⑥ 議会は住民のもの

住民と考える議員報酬・定数。これが必要なのは、住民からの批判が多いテーマへの**説明責任という意味**がある。それ以上に重要なことは、議員報酬・定数は新しい議会運営の条件であり、さらにその**議会運営は住民自治に不可欠**なものである。

3

1 議員報酬と定数の関わり(3) ～8つの原則～

⑦ 議会知見のある委員による議員報酬審議

特別職報酬等審議会委員の**委嘱にあたって、議会を熟知している者を要請**する。一度も議会を傍聴したことのない者では十分な審議ができない。また、審議会が動き始めたら委員と議会は懇談をすることも重要である。議会の現状を知ってもらう良い機会である。

⑧ 選挙1年前の制度設計

「後出し」ではなく周知する十分な期間が必要。**選挙の2年前、遅くとも1年前には周知できるように準備を進めるべきである。**

4

2 議員報酬・定数の変遷(1)

(1) 旧 5 市町村と奥州市の議員報酬

① 旧 5 市町村の状況

- 市部・町村部、人口規模に応じた報酬額の傾向
- 各市町村で報酬審議会にて報酬額を決定。いずれも、決定の際には県内周辺市町村や全国の類似団体（人口、産業構造、都市形態により国が区分した団体）の動向を確認しながら決定

② 奥州市の状況

- 5 市合併協議会にて類似団体平均としつつも、のちに財政健全化のため他の特別職とともに平均からさらに10%を下げた額で決定
- 平成24年度に議員報酬・定数について市民と議員の懇談会等を実施し、次期任期に向けた検討がされるも、行革で市職員が給与削減される中、現状維持やむなしの声多数で見送り
- 平成29年度には近隣類似団体の一関市同等とし、若い子育て世代も立候補できる経済基盤をとして増額を市長に対して要望

議員報酬の変遷

(単位:千円)

区分		H17	H18	H30
奥州市 112,129人	議長		399	447
	副議長		345	386
	議員		321	360
旧水沢市 60,153人	議長	430		
	副議長	368		
	議員	345		
旧江刺市 33,414人	議長	409		
	副議長	354		
	議員	329		
旧前沢町 15,206人	議長	276		
	副議長	224		
	議員	209		
旧胆沢町 17,565人	議長	283		
	副議長	230		
	議員	215		
旧衣川村 5,113人	議長	267		
	副議長	213	(人口)奥州市H18.9月末 旧市町村H17.9月末	
	議員	196		

5

2 議員報酬・定数の変遷(2)

(2) 旧 5 市町村と奥州市の議員定数

① 旧 5 市町村の状況

- 市部・町村部、人口規模に応じた報酬額の傾向
- 当時は、地方自治法での法定上限あり
人口 5万人未満市 26人 1万～2万町村 22人
10 “ 30人 5千～1万町村 18人
- 定数は議会が法定内で自主的に定めるもの

② 奥州市の状況

- 最初の選挙は合併特例で選挙区を設定し41人に、その後は法定上限(10～20万市)の34人に
- 平成24年度に議員報酬・定数について、翌年度には定数に限定して市民と議員の懇談会等を実施
- この間、18～24人、16人、現状維持の請願等3件
- 全国市議会の人口10～20万人の平均議員数27.4人であること、類似団体議員数が25人前後に集中し県内 8 市が削減したこと、人口減少と行財政改革の観点から小幅削減(34人→28人)とした。

議員定数の変遷

(単位:人)

区分	H17	H18	H22	H26
奥州市 112,129人		41	34	28
旧水沢市 60,153人	26 〔法30〕	(17)		
旧江刺市 33,414人	22 〔法26〕	(10)		
旧前沢町 15,206人	20 〔法22〕	(5)		
旧胆沢町 17,565人	20 〔法22〕	(6)		
旧衣川村 5,113人	16 〔法18〕	(3)	(人口)奥州市H18.9月末 旧市町村H17.9月末	

6

2 議員報酬・定数の変遷(3)

(3) 県内・東北地方5～20万市の議員報酬・定数

- 議員報酬と定数は別物としても、定数28人(緑線囲み)では奥州市が最低の報酬額
- 逆に、議員報酬36万円±1万円(赤字)では最高の定員

(報酬:千円)

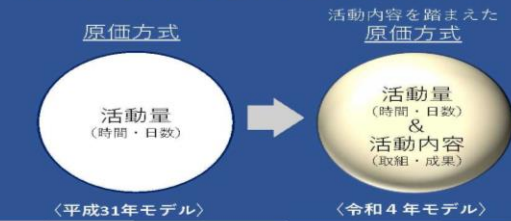
自治体名	人口	面積	定数	報酬	自治体名	人口	面積	定数	報酬	自治体名	人口	面積	定数	報酬
盛岡市	285,407	886.47	38	617	弘前市	164,243	524.20	28	517	石巻市	136,822	554.55	30	444
奥州市	111,632	993.30	28	360	十和田市	59,024	725.65	22	362	大崎市	125,444	796.81	28	428
一関市	109,709	1,256.42	26	360	むつ市	53,884	119.39	22	340	名取市	79,630	98.18	21	395
花巻市	92,377	908.39	26	339	五所川原市	51,641	404.20	22	352	登米市	74,795	536.09	26	398
北上市	92,069	437.55	26	401	横手市	84,294	692.80	26	384	栗原市	63,299	805.00	24	401
滝沢市	55,273	182.46	20	329	大仙市	76,530	866.79	24	432	多賀城市	62,204	19.69	18	394
宮古市	48,038	1,259.15	22	320	由利本荘市	72,753	1209.59	22	402	気仙沼市	58,926	332.44	24	364
大船渡市	33,540	322.51	20	320	大館市	68,083	913.22	26	357	塩竈市	52,480	17.37	18	409
久慈市	32,645	623.50	20	303	鶴岡市	120,398	1311.51	28	445	富谷市	52,399	49.18	18	319
釜石市	30,635	440.35	18	313	酒田市	97,395	602.98	25	450	会津若松市	114,180	382.97	28	447
二戸市	25,138	420.42	18	301	米沢市	77,232	548.51	24	420	須賀川市	74,197	279.43	24	423
遠野市	25,058	825.97	17	302	天童市	61,052	113.02	22	393	白河市	58,752	305.32	24	385
八幡平市	23,975	862.30	18	300						伊達市	57,605	265.12	16	385
陸前高田市	17,967	231.94	18	300						南相馬市	57,533	398.58	22	385
										二本松市	52,162	344.42	22	375

直近3回選挙のいずれかで無投票

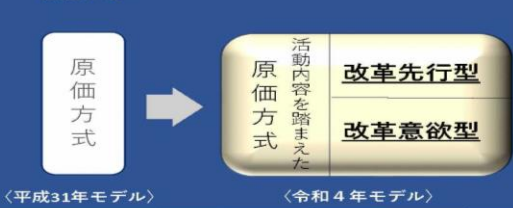
3 適正な議員報酬とは(1) ～原価方式の算定モデル（令和4年モデル）から～

3. 原価方式の新たな論点 ～原価方式の深化に向けた提案～

1 活動量だけでなく活動内容にまで踏み込む



2 議会改革の進捗度に応じた原価方式の2つの型を提起する



3 「表に現れない活動」を数値化する基準を示す



4 原価方式から議員報酬の適正水準を考える



5 議員報酬・政務活動費は住民福祉を向上させるための条件であることを再確認する

3 適正な議員報酬とは(2) ～原価方式の算定モデル（令和4年モデル）から～

1-1. 議員報酬額確定の手法

原価方式

議員の活動量を首長の活動量と比較し、その割合を首長の給料に乗じて議員報酬額を算定する方式



- 議会改革による活動の転換は、報酬額の増額につながる
- 活動量を基本の数値として活用するが内容（住民福祉の向上）が問われる

1-2. 議員報酬の性格と内包される生活給的な要素

- 議員報酬は「役務の対価」であり「給与」ではない
- 議員はボランティアではできないと考える議員が多数
- 活動量の増大は生活給的な要素を内包（兼業の困難化）

〈参考〉

町村議会議員報酬	勤労者世帯の世帯主定期収入	差額
21.6万円	33.0万円	▲11.4万円
町村議会議員報酬	市議会議員報酬(5万人未満)	差額
21.6万円	33.3万円	▲11.7万円
町村議会議員報酬	新規卒卒者(大卒)賃金	差額
21.6万円	22.6万円	▲1.0万円

1-3. 議会改革に適合した議員報酬額確定の手法

活動内容を踏まえた原価方式

議員の活動量を住民に示す中で議会・議員が住民自治をどう進め、住民福祉の向上に役立っているかの活動内容を同時に示す

改革先行型 現在の議会・議員活動を踏まえ原価を算出

議員活動調査→首長の活動量・給料との比較→暫定的議員報酬額の確定→特別職報酬等審議会（住民参加）→議会へ提案

改革意欲型 今後の議会・議員活動を明確にして原価を算出

今後の議会・議員活動の明確化（期待値含む）→議員活動調査→首長の活動量・給料との比較→暫定的議員報酬額の確定→特別職報酬等審議会（住民参加）→議会へ提案

4

3 適正な議員報酬とは(3) ～原価方式の算定モデル（令和4年モデル）から～

1-3. 議会改革に適合した議員報酬額確定の手法（報酬増額につながる取組み）

議会・議員活動を豊富化する

議会改革を実践している議会は、それに適した議員報酬が不可欠である逆に、こうした議会改革は議会・議員の活動量に運動するので議員報酬増額の根拠になる

監視力・政策提言力アップ

議案審議	議会基本条例の制定・運用、議決事件の追加、参考人の招致、専門的知見の活用、一般質問の充実、議員間の自由討議、議員派遣の充実、協議調整の場の積極活用、政務活動費の交付
会議日数	通年会期の導入（運用を含む）、休日・夜間議会
委員会審査	委員会による政策提言、閉会中審査・所管事務調査の拡充、委員派遣の充実、常任委員会の複数所属、特別委員会の増設
活動の検証	議会白書、議会のあり方研究、調査報告書等の発刊
研修	政策立案に係る専門的研修、議員の資質向上に係る研修

地域・住民との連携強化

住民対話	議会報告会、出前議会、ワークショップ、住民懇談会
住民参画	公聴会、政策リポーター、議会モニター、議会アドバイザー
地域連携	産官学との連携、各種団体との意見交換
啓発活動	模擬議会、小中高生との対話、議会主催の講演会
広報広聴	HP・広報紙の充実、議会のデジタル化、広報モニターの活用

その他

国等への要請	意見書提出権の積極的活用
防災・災害対策	議会BCP計画策定、議会災害対策マニュアルの作成

会期日数を再考する

- 町村議会の会期は、兼業議員が多いことや議員が少数なこと、委員会への議案付託が少ないなどの要因により短い傾向にある

- しかしながら、今日の議会・議員活動は・日常的な活動が要請されている・議案審議の重要性が指摘されている



慎重な審議のため会期日数を再考する時期に来ている

- ① 会期を長期にとり、委員会付託をして充実した議論を行う。人数が少なくとも本会議での十分な議論を行うことも必要
- ② 参考人、公聴会を積極的に活用する
- ③ 議案等検討日を設け弾力的な会期日程とする
- ④ 委員会の所管事務調査も積極的に実施する

年間（そして任期4年間）を通じた議員・議会活動を示す必要

5

3 適正な議員報酬とは(4) ～原価方式の算定モデル（令和4年モデル）から～

1-4. 原価方式の算定モデル（令和4年モデル）

議員報酬額の算定式				
(1) 議会・議員の活動日数	日	×	(3) 首長の給料	円
(2) 首長の職務遂行日数	モデル：305日			
→ 首長の給料実額を採用				
= (4) 議員報酬額				
円				

(1) 議会・議員の活動日数の積算（①+②+③の合計）

議会活動		議員活動	
① 本会議・委員会・協議調整の場・派遣（※）	日	③ 日常の議員活動（※※）	日
ア本会議、イ常任委員会、ウ特別委員会、エ議会運営委員会、オ協議調整の場（全員協議会等）、カ議員派遣、キ委員派遣		ア①②に付随する活動（議案の精読、議案の作成・提出、一般質問・質疑・討論準備、各種報告書の作成、議会活動に係る調査・研究等）、イ議員としての住民対話（請願・陳情対応、住民からの相談対応、情報収集、広報活動等）、ウ公的行事への出席、エその他	
② 法定外会議・住民との対話等（※）	日		
ア法定外会議（任意協議会、会派代表者会議、議員懇談会等）イ議会としての住民対話（議会報告会、住民懇談会、意見交換会等）、ウ研修会、エ視察受入れ、オその他			
※ 実際の活動日数（①・②は会議等の合計、③は活動日数の1人あたり平均）を記入（同日の重複カウントはしない）			
※ 議員の活動調査により時間単位で積算後、日数換算（1日8時間）して1人あたりの平均を算出			

(2) 首長の職務遂行日数（モデル：305日）

○ 年間305日の職務遂行日数をモデル値として設定
首長の職務遂行の実態を踏まえ法定休日の半分程度を公務につくものと推定し、モデル値を算出
365日 - (土曜日・日曜日：104日 + 国民の祝日：16日) × 1/2 = 305日（※¹）
※¹ 首長の実際の職務遂行日数を把握できない場合のモデル値である。実際の職務遂行日数を用いてもよい

6

3 適正な議員報酬とは(5) ～原価方式の算定モデル（令和4年モデル）から～

(3) 報酬額算定にあたっての留意点

○ 議長など役職者としての活動部分は活動日数に算入しない（別途加算）	○ 表に現れない議員活動も住民に説明できるものは、割りとさず全てカウント	○ 住民説明の際には、数値（議員報酬額）だけでなく活動内容の提示も必要	○ 現行の報酬額と大きく乖離した場合の段階的増額、住民の合意が得られない場合の条例適用の先送り等、報酬額適正化の弾力的な運用も検討
------------------------------------	--------------------------------------	-------------------------------------	---

1-5. 議長など役職者の報酬額の算定

役職者の議員報酬の実態（令和元年）	議員	常任委員長	議運委員長	副議長	議長	首長
	215,656円	221,714円	221,912円	237,600円	293,073円	721,648円
		↑1.03倍	↑1.03倍	↑1.10倍	↑1.36倍	↑3.35倍

役職者加算の手法

原価方式を当てはめる手法
活動内容を踏まえた原価方式を役職者の活動にも当てはめる手法 報酬増額の根拠が明確になるが、詳細なデータが必要なこと、サンプル数が少ないため、役職者が交代する度に修正が必要
活動量の予測値に基づき算出する手法
役職者の職責を踏まえて活動量の予測値を立て、加算率を算出する方法 議員報酬との単純比較ではなく、活動量の比較による加算率であることに留意

議長・副議長・委員長の活動

役職	役職者の権限・活動（例示）
議長	議場の秩序保持、議事整理、議会事務統理、議会代表権等の法定の職務権限（自治法第104条等）に基づく活動や議会を代表する活動等 ○ 本会議や全員協議会等の準備、○ 議会内や執行部との調整、○ 各種行事への出席、○ 全国町村議会議長会・各都道府県町村議会議長会等の各種会議への出席や要請活動など議長の出張等
副議長	議長の職務を代行する活動（自治法第106条①）や副議長としての活動等（議長の活動と重なる場合が多い）
委員長	委員会の議事整理、秩序保持権に基づく活動や委員長としての活動等 ○ 委員会の準備、○ 委員会報告書の作成・提出、○ 委員会視察の準備、○ 正副委員長会議、○ 議長・他の委員長・議会事務局との打合せや執行部との調整、○ 各種行事への出席等

7

議員活動量調査結果（速報）

令和6年2月5日
奥州市議会 市政調査会

1

議員活動量調査結果（速報）

➤ 集計対象：全議員

領域	領域の内容	一人当たり 1か月平均（時間）	一人当たり 年換算（時間）	合計
A	議会活動のうち 本会議・委員会・協議調整の 場・派遣 など	42時間33分	510時間38分	奥州市議会及び議員と しての活動時間数 約 1007時間
B	議会活動のうち 法定外会議・会派活動・公的 行事への出席など	8時間39分	103時間49分	
C	日常の議員活動	32時間42分	392時間32分	
D	政党活動や選挙活動	14時間48分	177時間39分	
E	兼業・アンペイトワークなど	52時間42分	632時間29分	

2

議員活動量調査結果（速報）

➤ 原価方式の算定モデルにて試算（全議員）

(議員の活動時間数) 1007時間
(市長の職務遂行時間数) 2004時間

× 市長の給料 826,000円 = 議員報酬額 415,060円

➤ 【参考】市長の活動時間数（令和4年度分）

分類	時間	適要
市議会関係	353時間40分	定例会、全協、一般質問打ち合わせ等
課題協議等	268時間53分	課題協議、事前説明、案件報告等
イベント関係 市長出席の会議	311時間25分	イベント参加 市長として出席する会議
決裁業務等	411時間	文書決裁、書類作成等
その他	659時間05分	姉妹都市行事、来客対応、式典出席等
合計	2004時間03分	

3

議員活動量調査結果（速報）

➤ 集計対象：正副議長を除く議員

領域	領域の内容	一人当たり 1か月平均（時間）	一人当たり 年換算（時間）	合計
A	議会活動のうち 本会議・委員会・協議調整の 場・派遣 など	39時間28分	473時間47分	奥州市議会及び議員と しての活動時間数 約 998時間
B	議会活動のうち 法定外会議・会派活動・公的 行事への出席など	8時間58分	107時間37分	
C	日常の議員活動	34時間44分	416時間50分	
D	政党活動や選挙活動	16時間14分	194時間57分	
E	兼業・アンペイトワークなど	54時間38分	655時間45分	

4

議員活動量調査結果（速報）

➤ 原価方式の算定モデルにて試算（正副議長を除く議員）

(議員の活動時間数) 998時間

× 市長の給料 826,000円

= 議員報酬額 411,351円

(市長の職務遂行時間数) 2004時間

➤ 【参考】市長の活動時間数（令和4年度分）

分類	時間	適要
市議会関係	353時間40分	定例会、全協、一般質問打ち合わせ等
課題協議等	268時間53分	課題協議、事前説明、案件報告等
イベント関係 市長出席の会議	311時間25分	イベント参加 市長として出席する会議
決裁業務等	411時間	文書決裁、書類作成等
その他	659時間05分	姉妹都市行事、来客対応、式典出席等
合計	2004時間03分	

5

議員活動量調査結果（速報）

➤ 近隣市の原価算定モデルでの試算

- 一関市は、通年議会の採用等による議員活動量の増加も報酬引き上げの要因の一つ
- 北上市、会津若松市、丹波市はいずれも首長給料額の約49％程度の試算結果

市	議員の活動時間	首長の活動時間	首長の給料	議員報酬額
一関市	近隣市町村の報酬の上げ幅、市民所得の上昇幅の割合などを勘案し「5万円程度のアップ」から議論が始まったため、具体的な活動量から算出したものではない。			410,000円
北上市	1057時間	2306時間	877,000円	401,999円 (現報酬額 401,000円)
福島県会津若松市	1352時間	2760時間	937,000円	458,994円 (現報酬額 447,000円)
兵庫県丹波市	992時間	2032時間	877,000円	428,141円 (現報酬額 346,000円)

※活動時間の集計方法や前提条件等に相違があるため参考程度としていただきたい

6

議員活動量調査結果（速報）

＞ 近隣市の定数・報酬の変遷

- ＞ 一関市、会津若松市は議員報酬増と定数減を組み合わせている
- ＞ 北上市は、報酬増後の選挙は無投票。今後は若者世代への取組ヘシフト
- ＞ 丹波市は、議員一人当たり人口を基準に定数を削減、報酬は現状維持

自治体名	人口	面積	現在		前回			前々回		
			定数	報酬	定数	立候補	報酬	定数	立候補	報酬
奥州市	109,747	993.30	28	360,000	28	28	360,000	28	30	360,000
一関市	107,382	1,256.42	26	410,000	26	27	360,000	30	32	360,000
北上市	91,554	437.55	26	401,000	26	26	401,000	26	27	351,000
福島県 会津若松市	112,573	382.97	28	447,000	28	33	447,000	28 (30)	32	447,000
兵庫県丹波市	60,897	493.21	18	346,000	20	23	346,000	20 (24)	28	330,000

※表内 () はその前の定数

議員ヒアリング結果 (自由意見等要約版)

令和6年3月1日
奥州市議会 市政調査会

1

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
1	現在の定数は妥当か。	多い：9	少ない：2	妥当：16

- 人口減少にも関わらず議員定数が変わらなければ、市民の理解が得られない。
- 議員定数の適正値が不明で、その判断基準が存在しない。
- 他地域と比較して奥州市の議員数は多いが、これが適正かどうかは判断が難しい。
- 議会の役割や業務量を考えると、現状の議員定数は必要である。
- 常任委員会の業務量が増えているため、現在の議員数は必要である。
- 地区センターの数と同じ30人が議員定数であるべきである。
- 人口減少を考慮すると、議員定数は26人程度が妥当である。
- 議員定数を減らすと、地域の声が届かなくなる可能性がある。
- 議員定数を減らすと、多様な意見が出なくなる可能性がある。
- 「議員＝地区の代表」ではなくなりつつあり、地区にとられない若者が立候補しやすくなってきている。

2

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
2	現在の報酬は妥当か。	多い：0	少ない：18	妥当：9

- 若い世代や子育て世代が議員となる場合、現行の議員報酬では少ない。
- 民間企業出身の議員にとっては、議員になる前と比較して報酬が少ない。
- 議員の仕事をしっかりとこなすことが前提ならば、現在の報酬は妥当である。
- 議員定数を減らして報酬を上げるべきである。
- 年額700万円程度が報酬額として妥当である。
- 月額40万円程度が報酬額として妥当である。
- 若い議員が議員報酬だけで生活できるようにする必要がある。
- 議員は専門職としての性格も持つべきであり、そのための報酬が必要である。
- 報酬の増額については市民の理解を得る必要がある。
- 議員報酬を増額すれば議員のなり手が増えるとは限らない。
- 政務活動費も増額するべきである。

3

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
3	多様な人材の確保や生活面での心配の軽減のために、厚生年金加入は必要である。	思う：22	思わない：1	どちらとも言えない：4

- 安心して議員の仕事をするためには、厚生年金の制度は必要である。特に一家の大黒柱となっている議員の場合には、年金制度が必要である。
- 以前は議員年金が存在していたが、現在は廃止されており補償がない。
- 市民の中には、今でも議員が議員年金を受給できると誤解している人もいる。
- 若い世代が議員を目指すためには、年金制度が必要である。
- 議員の厚生年金への加入は議員年金と同じことになるため、市民からの批判も予想される。
- 厚生年金保険料を議員が全額負担すれば、市民からの理解は得られるかもしれない。
- 年金制度への加入については、議員個々が選択できる環境が必要である
- 議員のなり手不足の対策として、年金制度は重要である。
- 健康保険も必要である。

4

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
4	議会は議員の多様化が進んでいる。	思う：17	思わない：5	どちらとも言えない：5

- 平成30年の改選期と比較して、議員の多様化が進んでいる。
- 性別、年齢、党派など、多様な背景を持つ人が議員になっている。
- 現行の議員定数だからこそ、多様性が生まれている。
- 女性議員はまだ少なく、もっと増えるべきである。
- 若い世代の議員が増えてきている。
- 今回の改選で新人議員が増え、その中には多様な背景を持つ人が含まれている。
- 議員全体で見ると、平均年齢は高く、定年退職後に議員になる人が多い。
- 子育て中の議員が少ない。
- 地域推薦の議員が多い。
- 農業者の議員が多い。

5

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
5	議会のさらなる活性化が必要である。	思う：20	思わない：4	どちらとも言えない：3

- 市民の福祉向上のために、議会改革を継続する必要がある。
- 議会改革は常に進化し続け、市民の利益につながるものでなければならない。
- 市民と議会がより近い関係になることが必要である。
- 議会改革のランキングは全国レベルにあるが、実態が伴っていない。
- 現在の取り組みや手法は適切であり、これ以上活動量が増加すると対応できない。
- 市民参加の機会が少ないため、議会を休日や夕方に開催するべきである。
- 全員協議会での質問内容などについて、改善すべき面がある。
- 議会改革検討委員会は全会一致が原則で、一つの会派でも反対すれば改革を進めることができない現状にある。
- 議員間の討論や議論がもっと必要で、反対や賛成だけでなく、より深い議論が必要である。
- 議員有志によるプロジェクト、予算、決算の分科会方式など、新しい試みを行うことで議会活性化が進む。

6

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
6	立候補に伴うリスク軽減の観点から、立候補を理由とした解雇や配置転換など不利益な取り扱いを防ぐ手段が必要である。	思う：11	思わない：3	どちらとも言えない：13

- 多様性を担保するために、立候補しやすい環境への変革が必要である。
- サラリーマンも立候補できるように、制度の改正が必要である。現状では、議員になるためには仕事を辞める必要がある。
- 休暇や休職で立候補できる制度の導入が必要である。
- 立候補により会社や周りの社員に影響が生じる。
- 会社員と議員との兼職は難しい。
- 会社員のまま議員となることで、その後の癒着の懸念もある。
- 立候補する人は強い志や覚悟を持って挑戦すべきである。
- 立候補しやすい環境の提供は、国の役割である。

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
7	議員になりやすい環境として、兼業や個人の請負に関する規制をさらに緩和をすることが必要である。	思う：12	思わない：7	どちらとも言えない：8

- 立候補したいと思う人を増やすために規制緩和が必要だが、どの程度まで行うべきかという問題がある。
- 規制緩和することが議員のなり手不足に資するかは不明である。
- 善良な人であれば問題ないが、悪意がある人だと癒着の恐れがある。
- 選挙の仕組みを変える必要がある。例えば、振興会から議員を選出してもよいのではないか。
- 立候補する人は強い意志を持って挑戦すべきである。

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
8	多様な人材の確保の観点から、公務員の立候補制限や議員との兼職禁止の緩和が必要である。	思う：8	思わない：10	どちらとも言えない：9

- 異なる経験やスキル、専門知識を持つ多様な人材が政治に参加できる機会が必要である。
- 公務員と議員の兼職は利害関係が生じる可能性があるため、現実的には難しい。
- 公務員は公務に専念すべきで、兼職は身分の面でも難しい。
- 議員の任期中は休職扱いとして、議員退任後は復職できるような制度の導入が必要である。
- 立候補する人は強い意志を持って挑戦すべきである。

9

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
9	なり手不足解消のため、法制度の変更などについて国への働きかけが必要である。	思う：21	思わない：3	どちらとも言えない：3

- 法改正が必要なものについては、省庁への働きかけが必要である。
- 議員の厚生年金加入など、法制度の変更が必要である。
- 議員年金制度の廃止に伴い、代わりの制度が必要である。
- 公職選挙法が現代に合わない内容になっている。

10

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
10	選挙における落選のリスクはなり手不足に影響する。	思う：18	思わない：8	どちらとも言えない：1

- 現在の職を辞して立候補する場合、落選のリスクは大きい。
- 落選リスクは現職の議員にとっても大きな問題。落選の場合、その後の生活に影響がある。
- 定年退職した人であれば、落選しても影響が少ない。
- 落選のリスクを受け入れて、立候補する必要がある。
- 落選した場合、個人の社会的な活動が停滞する可能性も生じる。
- 特に若い世代にとってはリスクが大きい。
- 自営業や農業の候補者は議員の仕事と両立が可能で、リスクが少ない。
- 立候補する人は、「議員になる」という強い意志を持って挑戦すべきである。
- 資金の面でもリスクがあるが、今は、SNS等を活用して選挙活動を行う時代である。

11

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
11	議会権能の強化や、事務局体制の強化が必要である。	思う：14	思わない：1	どちらとも言えない：12

- 権能については、現状維持でよい。
- 議決事項の増加は、市当局側の負担となる。
- 権能を強化することにより、議員自身のやりがいアップするのであれば、なり手不足解消につながる。
- 議会事務局の業務は拡大しており、事務局職員を増員すべきである。
- 必要な人材を市職員で配置できない場合は、プロパー職員を雇用することを考えるべきである。
- 事務局体制の強化が必要であり、以前の併任書記のような職員を増やすべきである。

12

議員ヒアリング結果（速報）

NO	設問	回答結果		
12	議員としての能力に不安を覚えている。	思う：17	思わない：5	どちらとも言えない：5

- 議員として何をどう進めたら良いのかについて不安がある。自身の力をもっとつけていかなければならない。
- 全ての分野に精通していない。
- 質問能力に不安がある。
- 言語力や言葉力が不足している。
- 市民の声を聞くことが不足している。
- 市民と近づくことが必要であるが、そのための実践ができていない。
- 議員の活動について全てを把握しておらず、他の議員が話していることを理解するのが難しい時がある。
- 必要な知識は日々の積み重ねや勉強、経験、同僚議員との情報共有などで蓄積している。

13

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
13	業務、仕事量に不安や負担を感じている。	思う：11	思わない：10	どちらとも言えない：6

- 全ての分野に精通するのは難しく、得意分野を増やしたいと考えている。
- 議員としての仕事量が予想以上に多い。
- 議員になった時と比較し、全員協議会の案件数、常任委員会等の業務が増えている。
- 議員としての活動と家業、家事などのバランスを取るのが難しい。農繁期や子育て期における両立は大変である。
- 現在は自分が思うとおりの活動ができていますが、2年毎の各種委員会の所属が変わる際に不安を感じる。
- 報告書作成や書類整理に時間がかかる。

14

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
14	議員として批判や誹謗中傷を受けたことがある。	ある：17	ない：5	どちらとも言えない：5

- 議員になると誰でも批判を受ける可能性がある。
- SNS上での批判や絡みに対しては静観しているが、それでも許せない内容もある。
- 議会での発言が正反対の内容で流布されたり、意見が合わないと批判されたりすることがある。
- 重要案件の議案への賛否で市民から批判を受けることもある。
- 議員として市全体のことを考えて活動、行動しているが、地元への貢献を求められることがある。

15

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
15	デジタル化などによる更なる議会改革が必要と感じている。	思う：16	思わない：8	どちらとも言えない：3

- 時代の流れに沿った議会改革が必要である。
- デジタル化により仕事が効率的になり、シニア世代も含めた全世代がついていけるようにすることが重要である。
- 委員会の中継や電子採決を検討すべきである。
- 議会関係の各種届出もオンライン化し、ペーパーレス化を進めるべきである。
- アナログな議員も存在して良い。それも多様性の一部である。
- デジタル化が、議員になりたい人の足かせになってはいけない。
- タブレットの活用や字幕システムの導入など、既に進行しているデジタル化は評価できる。
- DX化は進めてきているが、市民にどれだけプラスになっているのか、どの程度還元されているのか疑問である。
- 全てをデジタル化してしまうことには疑問がある。

16

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
16	実際議員になってみて、その魅力を感じている。	思う：13	思わない：6	どちらとも言えない：8

- 議員活動に対して、市民からの感謝の声をいただくことがある。
- 自身の提案や質問が市の政策に影響を与え、実現することにやりがいと魅力を感じる。
- 市の政策に関わることや自分の考えを、市長に直接伝えることができる点を魅力と感じる。
- 自分の意見や質問によって、改善されていくことにやりがいを感じる。
- 議員になる前のイメージと実際の議員の仕事は大きく異なる。
- 議員としての使命感を強く感じており、常にきちんとした行動を心掛けている。
- 議員としての責任や義務感が大きい一方で、市民からの評価は定かではない。
- 自分から議員になりたかったわけではなく、周囲から推されて議員になった。

17

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
17	市民の議会や議員への評価や関心度が上がっていると感じる。	思う：8	思わない：11	どちらとも言えない：8

- 「市議会だより」の内容について、市民からアドバイスや感想を受け取ることがある。
- 報道などを通じて市民の議会に対する関心度が上がっていると感じる。
- 重要案件に対する市民の関心は上がっている。
- 全体的には関心度は上がっていないと感じている。
- 市議会議員選挙の投票率が下がっていることに懸念がある。
- 「議会改革度ランキング」や「マニフェスト大賞」での評価があるが、市民全体の関心はまだ低い。
- 市民からの声を一般質問などで取り上げることがあるが、議会と市民はもっと近い関係になるべきである。
- 「議会は難しい」「議会は面倒くさい」と感じている市民が多い。
- 地域の会合で議員として発言する機会が減っている。議員のことを知らない人が増えていると感じる。

18

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
18	議員活動により住民福祉の向上を実感している。	思う：14	思わない：3	どちらとも言えない：10

- 地域からの問い合わせを当局につなげ、それが実現するときに達成感を感じる。
- 一般質問等で取り上げたことが契機となり、政策が実現した際に感じる。
- 議員活動に対して、市民から感謝された際に感じる。
- 政策提言を通じて市民生活の改善に寄与していると考えている。
- 市の業務を深く理解し、市が各種取り組みに注力していることを知ることで、住民福祉の向上を実感する。
- まだまだ議員の活動としては不足していると感じている。

19

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
19	会派や同僚議員からのサポートなど、議員活動のサポート体制がしっかりしていると感じる。	思う：16	思わない：6	どちらとも言えない：5

- 一般質問が終わった後、会派の先輩議員から助言を得ている。
- 物事の見え方や相手を納得させる話し方などについて、アドバイスを受けている。
- 重要案件について、会派内で情報共有を行い、見識を深めている。
- 会派の代表として、所属議員をサポートしていく。
- 会派を超えた、議会全体としての広い視点においてはサポートを受けていると感じている。
- 他会派の議員ともつながりがあり、学習の機会がある。
- 多くのサポートを受けているが、より丁寧な指導であればよい。
- 相談しても、否定される雰囲気がある。
- 議員の業務量が増加しており、事務局にはさらなるサポートをお願いしたい。

20

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
20	議員に立候補したときに支援者や支援団体があった。また今もその体制が続いている。	ある：23	ない：1	どちらとも言えない：3

- 地元や地域が主体の後援会組織がある。
- 以前の職場の同僚や同級生からサポートを受けている。
- 地域の前議員の組織がベースとなった組織がある。
- 地元の体制に加えて政党のバックアップもある。
- 地元中心の組織からの支援を受けており、定期的に報告会を実施している。
- 組織がない状態で立候補し、現在も組織は存在しない。
- 支援組織の役員が高齢化しており、体制が崩れつつある。

21

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
21	選挙対策について不安があった(選挙活動の手法や資金面等)。	ある：16	ない：8	どちらとも言えない：3

- 不安や迷いが多く、選挙のノウハウや地域での調整などについて理解を深める必要があった。
- 得票数や資金面の準備について不安が大きかった。
- バックアップ体制が整うかどうかなど、選挙運動に関する心配事があった。
- 選対組織に参加した経験がなく、周囲の人から情報を得ながら選挙活動を進めた。
- 選挙の際は、自身の考えをスタッフに伝えて取り組んでいる。
- 自分なりの選挙活動のイメージはあった。
- 選挙活動の支えとなる組織が存在し、体制が整っていたため、活動に不安はなかった。
- 資金面では、お金のかからない選挙活動を実践した。
- 選挙資金については、退職金や貯金を活用した。
- 事務所や車がなくても選挙活動ができる時代になっている。
- 公職選挙法の範囲内で選挙活動ができているかどうか不安があった。
- 選挙対策本部の役員への就任依頼など、地域から立候補する場合は多くの困難がある。その一方で、地域の方々と一緒に地域を良くしたいという思いを持っている。

22

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
22	議員活動に対して家族から理解は得られている。	思う：20	思わない：2	どちらとも言えない：5

- 立候補の際には家族から反対されたが、現在はある程度理解を得られている。
- 配偶者の理解が特に必要であり、その理解があったからこそ議員活動を続けることができている。
- 家族からは反対されている。
- 議員活動は家族にとって大きな負担がある。選挙期間中は特に。
- 家族から、議会活動に伴う会食の機会の多さについて指摘を受けている。
- 家族間がギクシャクすることもある。

23

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
23	議員活動と私生活との両立ができている。	思う：18	思わない：3	どちらとも言えない：6

- 家業との両立が大変だが、何とか両立できている。
- 議会活動の空き時間などに家業の活動を行うなど、工夫して両立させている。
- 議員の活動、家業の活動、それぞれを犠牲にしながら続けてきた。
- 子育てや介護があると両立が大変である。
- 農業を営んでいる議員は特に大変だと思う。
- 一日の時間が足りないと感じており、眠る時間を削って活動をしている。
- 会食の機会が増えたのが負担。金銭面、時間面でマイナスである。
- 可能な限り家族との時間を大事にしている。
- 議員は本来、専門職であるべきと考える。

24

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
24	議会や議員活動に対するマスコミの報道姿勢は良いと感じている。	良い：15	悪い：0	どちらとも言えない：12

- 一般質問の予定、また結果について報道してくれる。
- 報道に偏りがある。特に市長に関する報道が多いと感じている。
- 他自治体に関する情報が多い。
- 報道のされ方が正しいかどうか判断しかねることがある。
- 新聞社により報道の方法が異なる場合がある。
- 議会としてもマスコミを活用する必要がある。
- 政策提言により施策が進展したものは、背景や経過をマスコミに説明することで、議会の成果を知ってもらうことができる。
- 議員になってからは新聞記事をよく読んで勉強している。

25

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
25	主権者教育を進めるために、教育関係機関と連携した取組が必要である。	思う：21	思わない：1	どちらとも言えない：5

- 中学校の段階から主権者教育の取組を始めるべき。身近な問題について議論することが重要である。
- 選挙管理委員会でも注力してほしいが、議会としても取組を進めるべきである。
- 議会が無理に取り組む必要性があるのか、疑問がある。
- 学校の社会の時間などで、国や地方自治体の役割を教え、参政権を行使することの大切さを学ぶ機会を提供する必要がある。
- 学校での取組は現実的に対応が可能なのか。教職員の負担にならないかなどの検討が必要である。
- 議会傍聴や出前授業、学校訪問などを通じて議会活動を紹介していく必要がある。
- 高校生の模擬議会の開催や、企業など社会人を対象とした取組も必要である。

26

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
26	情報発信を充実させて、市民の議会に対する信頼や関心を高める必要がある。	思う：23	思わない：2	どちらとも言えない：2

- 市民と議会が近い関係になるためには情報発信が重要。市民も参画できるような情報発信にすべきである。
- 議会がないときの活動も含めて、市民への情報発信が必要である。
- 行事等で議会をアピールしていく必要がある。
- 効果的な情報発信が必要である。
- 議会の取組によって市政が変わり、そのことが市民にどのような利益をもたらしたかを丁寧に説明すべき。その結果として議会に関心を持ってもらえるようになる。
- 市民が議会のことをどう思っているのかを把握する必要がある。
- 役職を持っている人ではなく、一般市民の声を聴くことが重要である。
- 市民側からも市政について議員に聞いてもらう機会があるとよい。
- 情報発信は既に進んでいるが、さらに努めるべき。一方、広聴広報委員会は活動量が増えて大変である。
- 若い世代向けにはYouTubeを活用した情報発信が必要であり、そのためには専任の事務局職員の配置も検討すべき。
- 「一日議員」的な取組も、議員の仕事や活動を知ってもらうために良いと考えている。

27

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
27	居住している地域では、女性の社会参加が進んでいる。	思う：8	思わない：11	どちらとも言えない：8

- 女性の参加が増えてきており、徐々に進歩が見られる。
- 風習にとらわれず、意見を述べる女性が増えてきた。
- 一部の地域や団体では、女性が積極的に役職を担っている。
- 女性が出る機会は増えてきているが、さらなる参加が望ましい。
- 行政区長や自治会長などの役職、また意思決定の場における女性の参加はまだまだ少ない。
- 役職が固定化している現状があり、女性の参画が進んでいない面もある。

28

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
28	居住している地域では、価値観や物事に対して、保守的で新しいことや変化を好んでいないと感じる。	思う：12	思わない：9	どちらとも言えない：6

- 地域の役員構成は保守的で、70代や80代の方々がまだ役員を務めている。
- 新しい事を提案すると、高齢の役員から却下される風潮があり、若い人たちはやる気をなくしている。
- 世代によって考え方が違う。
- 公共施設の存廃問題などでは、現状維持を望む意見が多い。
- 奥州市民は保守的であると思う。
- 「自分さえよければ」の考え方が増え、リーダー不在の閉鎖的な傾向がある。
- 「協働のまちづくりアカデミー」受講生など、新しいことにチャレンジしている人もいる。
- 特に若い年齢層の女性などが新しい取り組みを行っており、変化を求める原動力となる人材は存在している。
- 地域全体としては高齢化が進んでいるが、徐々に変化していることも認められる。

29

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
29	居住している地域では、慣習にこだわらず新しいことにチャレンジしていると感じる。	思う：12	思わない：7	どちらとも言えない：8

- 地元の振興会組織は、活発に活動している。
- 「協働のまちづくりアカデミー」受講生の中にも新しいことにチャレンジしている人がいる。
- 新型コロナウイルス感染症の5類移行後、行事が再開される際には従来のやり方を見直す機運がある。
- 地域の規模が小さければ、自分たちで何とかしなければという思いが生じる傾向がある。
- 前例踏襲の傾向がまだ強い。

30

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
30	議場外での住民参加の取組を進めるなど、議会と市民のさらなる意思疎通が必要である。	思う：25	思わない：1	どちらとも言えない：1

- 議会広聴広報委員会でも取組を進めているが、新たな手法の検討も必要である。
- イベント等で市議会のブースを設置し、市民と議員が直接会話できる場を提供してはどうか。
- 議会モニターを導入し、議会や議会だよりへの評価を市民に求めているかどうか。
- 「市民と議員の懇談会」は若者や女性が参加しやすい時間帯に開催すべきである。
- ワールドカフェの取り組みは良いが、もっと回数を増やすべきである。
- 以前実施していた各地区を回る報告会は実施しない方が良い。
- 以前実施していた報告会は実施すべき。市民と議論すべき。市民の思いを知る機会である。
- 個人の議員報告会を定期的に行っている。
- 市当局と議会の意思疎通も必要である。

31

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
31	地域住民の力や活力は上がってきていると思う。	思う：4	思わない：14	どちらとも言えない：9

- 新型コロナウイルス感染症の影響で、地域のお祭りなどへの積極性が失われている。
- 人口減少と個人主義の影響により、地域行事が行われなくなっている。
- 地域活動の低下とともに、ニュースや新聞で地域の出来事が取り上げられる機会が減っている。
- 地域の人口減少と高齢化により、活力が上がりにくくなっている。
- 高齢化が進んでいるものの、地域の力が上がっていると感じる。
- 地域イベントやまつりに積極的に取り組んでいる地域がある。
- 公共施設廃止の市の方針に対して、住民が団体を組織し行動している。
- 一部の地域では新しい住民が増え、若年層からの活力も見え始めている。

32

議員ヒアリング結果

NO	設問	回答結果		
32	人口減少は議員のなり手不足問題に影響を与えていると感じる。	思う：22	思わない：4	どちらとも言えない：1

- 人口が多いほど議員になりたいと思う人が出てくる可能性が高まる。
- 人口減少の影響で、各分野において後継者や役職を担う人材が不足している。
- 地域コミュニティが薄れ、人が集まる場面が減少している。
- 自治会でもなり手不足が深刻で、一人が複数の役職を兼ねる状況が生じている。
- 人口減少が直接的な原因ではなく、地域の未来が見えない状況が人材不足の主たる原因である。
- 自営業者は議員になりやすいが、サラリーマンは議員になることを躊躇する傾向がある。

議員のなり手不足対策について

～取組実行計画の概要～

令和6年3月1日
奥州市議会 市政調査会

1

構成

1 事例研究

- ① 議員報酬・定数の変遷
- ② 近隣、同規模自治体等のなり手不足の現状
- ③ なり手不足対策の先進事例

2 専門的知見の活用

- ① なり手不足に影響を与えている原因

3 各議員からの聴取調査と議員間討議

- ① 議員へのヒアリング調査結果
- ② 議員活動量調査の結果
- ③ 計画策定に係る議員間討議結果

4 なり手不足に対して取り組む内容

- ① 取り組む項目
- ② 具体的な取り組み内容

5 取組の進め方

2

1 事例研究 議員報酬・定数の変遷①

(1) 旧 5 市町村と奥州市の議員報酬

① 旧 5 市町村の状況

- 市部・町村部、人口規模に応じた報酬額の傾向
- 各市町村で報酬審議会にて報酬額を決定。いずれも、決定の際には県内周辺市町村や全国の類似団体（人口、産業構造、都市形態により国が区分した団体）の動向を確認しながら決定

② 奥州市の状況

- 5 市合併協議会にて類似団体平均としつつも、のちに財政健全化のため他の特別職とともに平均からさらに10%を下げた額で決定
- 平成24年度に議員報酬・定数について市民と議員の懇談会等を実施し、次期任期に向けた検討がされるも、行革で市職員が給与削減される中、現状維持やむなしの声多数で見送り
- 平成29年度には近隣類似団体の一関市同等とし、若い子育て世代も立候補できる経済基盤をとして増額を市長に対して要望

議員報酬の変遷

(単位:千円)

区分		H17	H18	H30
奥州市 112,129人	議長		399	447
	副議長		345	386
	議員		321	360
旧水沢市 60,153人	議長	430		
	副議長	368		
	議員	345		
旧江刺市 33,414人	議長	409		
	副議長	354		
	議員	329		
旧前沢町 15,206人	議長	276		
	副議長	224		
	議員	209		
旧胆沢町 17,565人	議長	283		
	副議長	230		
	議員	215		
旧衣川村 5,113人	議長	267		
	副議長	213	(人口)奥州市H18.9月末 旧市町村H17.9月末	
	議員	196		

3

1 事例研究 議員報酬・定数の変遷②

(2) 旧 5 市町村と奥州市の議員定数

① 旧 5 市町村の状況

- 市部・町村部、人口規模に応じた報酬額の傾向
- 当時は、地方自治法での法定上限あり
人口 5万人未満市 26人 1万～2万町村 22人
10 “ 30人 5千～1万町村 18人
- 定数は議会が法定内で自主的に定めるもの

② 奥州市の状況

- 最初の選挙は合併特例で選挙区を設定し41人に、その後は法定上限(10～20万市)の34人に
- 平成24年度に議員報酬・定数について、翌年度には定数に限定して市民と議員の懇談会等を実施
- この間、18～24人、16人、現状維持の請願等3件
- 全国市議会の人口10～20万人の平均議員数27.4人であること、類似団体議員数が25人前後に集中し県内 8 市が削減したこと、人口減少と行財政改革の観点から小幅削減(34人→28人)とした。

議員定数の変遷

(単位:人)

区分	H17	H18	H22	H26
奥州市 112,129人		41	34	28
旧水沢市 60,153人	26 〔法30〕	(17)		
旧江刺市 33,414人	22 〔法26〕	(10)		
旧前沢町 15,206人	20 〔法22〕	(5)		
旧胆沢町 17,565人	20 〔法22〕	(6)		
旧衣川村 5,113人	16 〔法18〕	(3)	(人口)奥州市H18.9月末 旧市町村H17.9月末	

4

1 事例研究 議員報酬・定数の変遷③

(3) 県内・東北地方5～20万市の議員報酬・定数

- 議員報酬と定数は別物としても、定数28人(緑線囲み)では奥州市が最低の報酬額
➤ 逆に、議員報酬36万円±1万円(赤字)では最高の定員

(報酬:千円)

自治体名	人口	面積	定数	報酬	自治体名	人口	面積	定数	報酬	自治体名	人口	面積	定数	報酬
盛岡市	285,407	886.47	38	617	弘前市	164,243	524.20	28	517	石巻市	136,822	554.55	30	444
奥州市	111,632	993.30	28	360	十和田市	59,024	725.65	22	362	大崎市	125,444	796.81	28	428
一関市	109,709	1,256.42	26	360	むつ市	53,884	119.39	22	340	名取市	79,630	98.18	21	395
花巻市	92,377	908.39	26	339	五所川原市	51,641	404.20	22	352	登米市	74,795	536.09	26	398
北上市	92,069	437.55	26	401	横手市	84,294	692.80	26	384	栗原市	63,299	805.00	24	401
滝沢市	55,273	182.46	20	329	大仙市	76,530	866.79	24	432	多賀城市	62,204	19.69	18	394
宮古市	48,038	1,259.15	22	320	由利本荘市	72,753	1209.59	22	402	気仙沼市	58,926	332.44	24	364
大船渡市	33,540	322.51	20	320	大館市	68,083	913.22	26	357	塩竈市	52,480	17.37	18	409
久慈市	32,645	623.50	20	303	鶴岡市	120,398	1311.51	28	445	富谷市	52,399	49.18	18	319
釜石市	30,635	440.35	18	313	酒田市	97,395	602.98	25	450	会津若松市	114,180	382.97	28	447
二戸市	25,138	420.42	18	301	米沢市	77,232	548.51	24	420	須賀川市	74,197	279.43	24	423
遠野市	25,058	825.97	17	302	天童市	61,052	113.02	22	393	白河市	58,752	305.32	24	385
八幡平市	23,975	862.30	18	300						伊達市	57,605	265.12	16	385
陸前高田市	17,967	231.94	18	300						南相馬市	57,533	398.58	22	385
										二本松市	52,162	344.42	22	375

直近3回選挙のいずれかで無投票

5

1 事例研究 県内の議員のなり手不足の現状〔岩手〕

(2) 県内14市の最近の選挙結果

- 直近選挙では無投票は大幅増加、北上市は報酬増も無投票、釜石市、八幡平市は定数減も無投票
➤ 過去3回まで見ても、無投票が継続する市は無い

自治体名	人口	面積	前回				前々回				前前々回			
			定数	立候補	投票率	報酬	定数	立候補	投票率	報酬	定数	立候補	投票率	報酬
盛岡市	285,407	886.47	38	44	52.62	617,000	38	41	51.44	617,000	38	47	48.87	617,000
奥州市	111,632	993.30	28	28	無投票	360,000	28	30	64.24	360,000	28	32	67.70	321,000
一関市	109,709	1,256.42	26	27	58.62	360,000	30	32	62.68	360,000	30	34	65.22	360,000
花巻市	92,377	908.39	26	31	55.21	339,000	26	28	57.65	339,000	26	30	63.18	339,000
北上市	92,069	437.55	26	26	無投票	401,000	26	27	57.05	351,000	26	28	60.62	340,470
滝沢市	55,273	182.46	20	23	43.28	329,000	20	22	58.49	329,000	20	23	49.72	293,000
宮古市	48,038	1,259.15	22	23	54.07	320,000	22	24	59.57	320,000	28	28	無投票	320,000
大船渡市	33,540	322.51	20	21	65.71	320,000	20	24	75.70	320,000	20	27	78.63	320,000
久慈市	32,645	623.50	20	23	56.50	303,000	20	22	66.74	303,000	24	28	69.72	303,000
釜石市	30,635	440.35	18	18	無投票	313,000	20	22	64.57	313,000	20	22	68.11	313,000
二戸市	25,138	420.42	18	20	57.22	301,000	18	18	無投票	301,000	18	23	65.65	301,000
遠野市	25,058	825.97	17	19	69.84	302,000	18	22	74.56	302,000	18	19	74.70	302,000
八幡平市	23,975	862.30	18	18	無投票	300,000	20	22	67.25	300,000	22	24	70.68	271,000
陸前高田市	17,967	231.94	18	26	76.91	300,000	18	19	73.79	300,000	18	19	77.68	300,000

6

1 事例研究 東北の議員のなり手不足の現状〔青森・秋田・山形〕

(3) 東北管内の最近の選挙結果(その1)

- 青森、秋田、山形では、前回、前々回選挙での無投票は無い。無投票継続も無い
- 前回または前々回選挙時において半数が定数減、1/3が報酬増で臨む。うち両方同時実施は、前々回に無投票だった由利本荘市のみで、大仙市が時期をずらして両方実施

自治体名	人口	面積	前回				前々回				前前々回			
			定数	立候補	投票率	報酬	定数	立候補	投票率	報酬	定数	立候補	投票率	報酬
弘前市	164,243	524.20	28	34	42.92	517,000	28	36	47.93	517,000	28	36	47.88	490,000
十和田市	59,024	725.65	22	26	43.49	362,000	22	23	43.72	362,000	22	24	61.01	362,000
むつ市	53,884	119.39	22	25	57.37	340,000	26	30	63.00	340,000	26	30	64.60	340,000
五所川原市	51,641	404.20	22	25	62.63	352,000	22	27	68.54	352,000	26	27	66.55	352,000
横手市	84,294	692.80	26	27	63.51	384,000	26	29	68.30	384,000	26	29	68.72	384,000
大仙市	76,530	866.79	24	28	62.40	432,000	28	29	64.99	432,000	28	30	68.29	394,900
由利本荘市	72,753	1209.59	22	26	60.12	402,000	26	28	67.70	359,000	26	26	無投票	359,000
大館市	68,083	913.22	26	28	61.08	357,000	26	29	63.82	357,000	28	37	72.28	357,000
鶴岡市	120,398	1311.51	28	31	65.68	445,000	32	34	68.34	445,000	32	34	62.13	445,000
酒田市	97,395	602.98	25	30	66.27	450,000	28	35	57.74	450,000	28	29	54.36	450,000
米沢市	77,232	548.51	24	27	53.44	420,000	24	28	57.15	420,000	24	28	59.12	409,400
天童市	61,052	113.02	22	23	55.31	393,000	22	24	61.15	393,000	22	27	64.95	393,000

7

1 事例研究 東北の議員のなり手不足の現状〔宮城・福島〕

(3) 東北管内の最近の選挙結果(その2)

- 宮城、福島では、無投票は前回の多賀城市、前々回の須賀川市のみ。改めて岩手県の前回4団体が目立つ
- 2/5で定数減、多賀城市のみ報酬増で臨むも無投票。無投票の継続は無い

自治体名	人口	面積	前回				前々回				前前々回			
			定数	立候補	投票率	報酬	定数	立候補	投票率	報酬	定数	立候補	投票率	報酬
石巻市	136,822	554.55	30	43	51.34	444,000	30	38	51.77	444,000	30	35	52.82	444,000
大崎市	125,444	796.81	28	31	48.13	428,000	30	33	51.24	428,000	30	32	54.87	428,000
名取市	79,630	98.18	21	22	39.29	395,000	21	23	42.45	395,000	21	29	50.06	395,000
登米市	74,795	536.09	26	30	59.84	398,000	26	28	66.17	398,000	26	31	69.61	398,000
栗原市	63,299	805.00	24	27	68.73	401,000	26	28	70.13	401,000	26	29	72.67	401,000
多賀城市	62,204	19.69	18	18	無投票	394,000	18	21	43.91	384,000	18	21	47.76	384,000
気仙沼市	58,926	332.44	24	26	55.46	364,000	24	27	61.31	364,000	24	26	58.25	364,000
塩竈市	52,480	17.37	18	20	54.82	409,000	18	24	52.37	409,000	18	19	56.82	409,000
富谷市	52,399	49.18	18	21	48.72	319,000								
会津若松市	114,180	382.97	28	33	51.11	447,000	28	32	53.40	447,000	30	35	50.24	447,000
須賀川市	74,197	279.43	24	25	45.28	423,000	24	24	無投票	423,000	24	27	55.89	423,000
白河市	58,752	305.32	24	30	56.25	385,000	24	29	59.27	385,000	26	28	63.59	385,000
伊達市	57,605	265.12	16	17	61.30	385,000	18	21	58.41	385,000				
南相馬市	57,533	398.58	22	26	56.37	385,000	22	24	55.91	385,000	22	25	59.10	385,000
二本松市	52,162	344.42	22	23	60.68	375,000	22	23	64.96	375,000	26	27	68.08	375,000

8

1 事例研究 県内の議員のなり手不足の現状〔奥州市〕

(4) 奥州市の最近の選挙結果

- 全体の投票率は減少傾向も、旧町村部で歯止めの傾向がみられる。
- 人口減少により定数に対する1人当たりの有権者数平均も減少傾向にある。

地域名	2022年(R4)						2018年(H30)						2014年(H26)					
	有権者	投票者	投票率	想定当選者			有権者	投票者	投票率	想定当選者			有権者	投票者	投票率	想定当選者		
				対有権	対投票					対有権	対投票					対有権	対投票	
水沢	46,495	25,228	54.26	13.46	12.89		47,535	28,212	59.35	13.22	12.21		47,033	29,600	62.93	12.95	12.03	
江刺	23,440	13,149	56.10	6.79	6.72		24,750	16,642	64.24	6.88	7.20		25,526	17,435	68.30	7.03	7.09	
前沢	10,938	6,922	63.28	3.17	3.54		11,486	8,097	62.68	3.19	3.50		11,765	8,771	74.55	3.24	3.56	
胆沢	12,584	7,385	58.69	3.64	3.77		13,308	9,248	57.65	3.7	4.00		13,593	10,226	75.23	3.74	4.16	
衣川	3,268	2,108	64.50	0.95	1.08		3,613	2,494	57.05	1.00	1.08		3,801	2,858	75.19	1.05	1.16	
合計	96,725	54,792	56.65	28	28		100,692	64,693	58.49	28	28		101,718	68,890	67.73	28	28	
1人 当たり	3,454	1,957					3,596	2,310					3,633	2,460				

1 事例研究 県内の議員のなり手不足の現状〔奥州市〕

(5) 奥州市の将来の選挙予測(その1)

- 将来的な人口推計(平場・中山間・山間減少率モデル＝市人口ビジョン)で2022年投票率を固定した場合の数値
- 相対的な人口減少により、地域別の想定当選者数の変化はあまりない。工業団地従事世帯の増は加味せず。

地域名	2025年(R7)						2030年(R12)						2035年(R17)					
	有権者	投票者	投票率 2022年	想定当選者			有権者	投票者	投票率 2022年	想定当選者			有権者	投票者	投票率 2022年	想定当選者		
				対有権	対投票					対有権	対投票					対有権	対投票	
水沢	43,996	23,872	54.26	13.22	12.66		41,540	22,540	54.26	13.28	12.71		39,115	21,224	54.26	13.33	12.76	
江刺	22,592	12,674	56.10	6.79	6.72		20,932	11,743	56.10	6.69	6.62		19,372	10,868	56.10	6.6	6.53	
前沢	10,773	6,817	63.28	3.24	3.61		1,019	6,453	63.28	3.26	3.64		9,630	6,094	63.28	3.28	3.66	
胆沢	12,626	7,410	58.69	3.80	3.93		12,037	7,065	58.69	3.85	3.98		11,419	6,702	58.69	3.89	4.03	
衣川	3,168	2,043	64.50	0.95	1.08		2,863	1,847	64.50	0.92	1.04		2,604	1,680	64.50	0.89	1.01	
合計	93,155	52,816	56.65	28	28		87,570	49,648	56.65	28	28		82,140	46,568	56.65	28	28	
1人 当たり	3,327	1,886					3,128	1,773					2,934	1,663				

1 事例研究 県内の議員のなり手不足の現状〔奥州市〕

(5) 奥州市の将来の選挙予測(その2)・1人当たり有権者比較

- 定数1人当たりの有権者数は減少しており、これを前回選挙時レベルでキープすると2040年には定数22人に。
➤ また、定数を26人に変更した2014年(1人当たり有権者3633人) 比較では、次回選挙時定数26人が想定。

地域名	2040年(R22)					区分	有権者	投票者	1人当たり 有権者 (定数28人)	1人当たり 有権者 2022年同数 レベル時定数 (2022年を 28人とした 場合の推移)	1人当たり 有権者 2014年同数 レベル時定数 (2014年を 28人とした 場合の推移)
	有権者	投票者	投票率 2022年	想定当選者 対有権 対投票							
水沢	36,761	19,947	54.26	13.41	12.84	2022年	96,725	54,792	3,454	28	27
江刺	17,878	10,030	56.10	6.52	6.45	2025年	93,155	52,816	3,327	27	26
前沢	9,021	5,708	63.28	3.29	3.67	2030年	87,570	49,648	3,128	25	24
胆沢	10,737	6,302	58.69	3.92	4.06	2035年	82,140	46,568	2,934	24	23
衣川	2,366	1,526	64.50	0.86	0.98	2040年	76,763	43,513	2,742	22	21
合計	76,763	43,513	56.65	28	28						
1人 当たり	2,742	1,554									

11

1 事例研究 県内の議員のなり手不足の現状〔奥州市〕

(6) 奥州市の人件費・議員報酬予測

- 仮に定数28人のままで報酬5万円アップだと25,863千円の人件費増だが、
➤ 定数26人に減じて報酬5万円アップだと939千円の人件費増にとどまる

(単位：円)

区分	内訳	議長	副議長	議員	月額計	年額計
2024年(R6) 定数28人	議員報酬	447,000	386,000	360,000×26	10,193,000	122,316,000
	期末手当	1,747,768	1,509,260	1,407,600×26		39,855,000
	共済会負担金	1,278,760	1,278,760	1,278,760×26		35,806,000
	小計					197,977,000
2026年(R8) 定数28人 報酬5万円 アップ	議員報酬	497,000	436,000	410,000×26	11,593,000	139,116,000
	期末手当	1,886,115	1,654,620	1,555,950×26		43,996,000
	共済会負担金	1,454,560	1,454,560	1,454,560×26		40,728,000
	小計					223,840,000
2026年(R8) 定数26人 報酬5万円 アップ	議員報酬	497,000	436,000	410,000×24	10,773,000	129,276,000
	期末手当	1,886,115	1,654,620	1,555,950×24		36,743,000
	共済会負担金	1,454,560	1,454,560	1,454,560×24		32,897,000
	小計					198,916,000

12

1 事例研究 なり手不足対策の先進事例（その1）

令和5年の統一地方選挙において、前回無投票の先進の議会・議員が取り組んだなり手不足対策は次のとおり。

市町村	定数 /立候補	取組実践例
北海道 栗山町	11人 /14人	町議会が今年2～3月に「議員の学校」を開講。計6回の講座に18人が参加し、議員から直接やりがい を聞くなどした。過去2回無投票が続いたが町議選には定数11に対し、14人が立候補。講座参加者からは 3人が立候補し、いずれも初当選した。当選者の一人は「講座に参加するまで、議会の仕組みがわかって いなかった。議会が何をしているかが町民に伝われば、なり手不足は解消できると思う」と語った。なお、 同学校参加者からは隣の由仁町議会にも1人の当選者を輩出している。 ●栗山町議会 https://www.town.kuriyama.hokkaido.jp/site/gikai/20310.html ●NHK北海道放送局 https://www.nhk.or.jp/hokkaido/articles/slug-nddaf7801c14d
長野県 木祖村	9人 /10人	前年12月議会後、現職10人が村議選に対する態度を一斉表明。2人が立候補しないと明言し、同村議選 は今回から定数を9に減らしたが、早めに不出馬議員の数を明らかにすることで、新人の立候補を後押し。 新人2人を含む計10人が立候補を届け出て、選挙戦になった。初当選した一人は「現職の態度表明は、立 候補のきっかけになった。若手や女性が少ない状況を知り、議員になろうと決意できた」と振り返る。 ●木祖村議会 https://www.vill.kiso.nagano.jp/gyoseijoho/gikai/documents/gikaihou/180_.pdf
愛知県 幸田町	16人 /22人	「議会だより」で計7回「議員のなり手不足解消に向けて」と題した特集を掲載。議会への関心を高め ようと、議員の仕事や立候補から投票までの流れを説明した。定数16に対し、現職11、新人11の計22人 が立候補した。前回回、前回選と無投票が続き、前回選は立候補者が15人で「定数割れ」だった。初当選 した一人は「議会だよりを何度も読み返した。立候補にはどのような準備が必要がよくわかった」と話す。 ●幸田町議会 https://www.town.kota.lg.jp/site/gikai/list11-79.html ●CBCニュース https://www.youtube.com/watch?v=GrXuzlvzozY

【出典】読売新聞オンライン、NHKオンライン

13

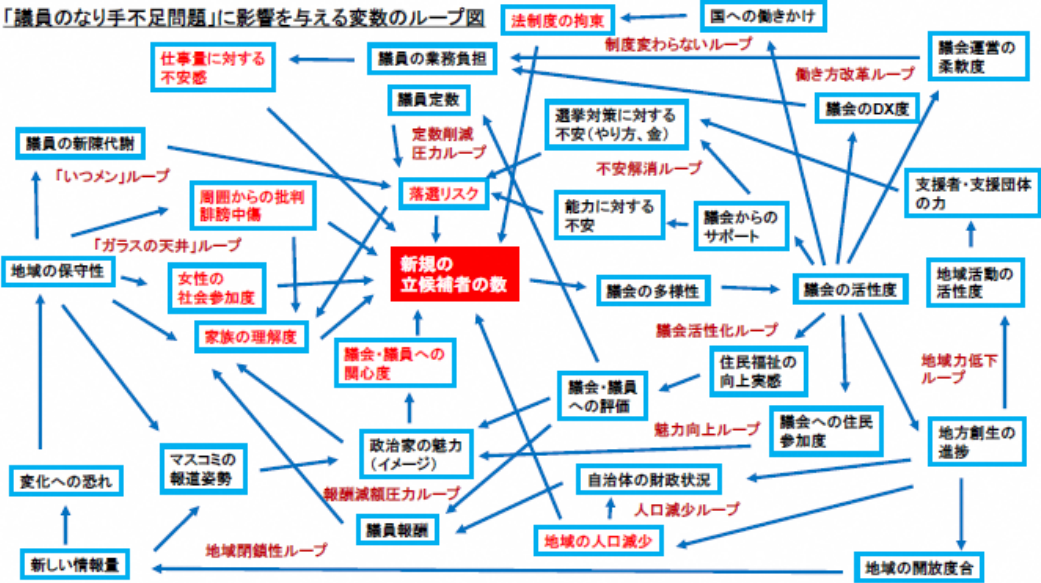
1 事例研究 なり手不足対策の先進事例（その2）

その他の先進の議会・議員が自ら取り組んだなり手不足対策の映像集は次のとおり。

地域	取組実践例
女性 若者	地方議会に変化と多様性を 議員を目指す女性や若者の選挙戦に密着取材 - NHK クローズアップ現代 全記録 ●NHKクローズアップ現代
北海道	都会から移住 20代女性が初当選 パートと掛け持ちの議員も なり手不足…地方議会の挑戦 - YouTube ●STVニュース北海道
埼玉県 富士見市	市議会議員の仕事の成果とは？～市政一般質問で政策を実現する！～ - YouTube 加賀ななえ オフィシャルサイト 富士見市議会議員 (nanae.site)
神奈川県 横須賀市	過密スケジュール！？市議会議員のリアルな一週間！～横須賀市議会議員 堀りょういち - YouTube 【横須賀市議会議員】 - 堀りょういち公式サイト (horiryouchi.net)
愛知県	【地方議員】なり手不足の解消は「議員の定数減」が有効か 専門家「報酬も増え、やる気も高まる」【専門家が 解説】(2023年4月24日) - YouTube ●テレビ愛知公式チャンネル
岡山県 笠岡市	議員のなり手不足解消目的で増額も…笠岡市の議員報酬 月額5万円引き下げの条例改正案が可決【岡山】 (23/08/07 18:00) - YouTube ●OHK公式チャンネル
愛媛県 松山市	【トランスジェンダー市議】トイレに困惑も…議員“初登庁”の1日に密着 愛媛 NNNセクション - YouTube ●日テレNEWS
福岡県	【ドローカル議会】福岡 地方議員と情報発信【アサデス。】 - YouTube ●福岡・佐賀KBC NEWS
大分県 佐伯市	地方議員「なり手不足」対策 定数減で報酬アップの動き 佐伯市 定数25→22に 大分 (23/07/05 18:40) - YouTube ●TOSテレビ大分ニュース

14

2 専門的知見の活用 複雑に絡み合う議員のなり手不足に影響を与えている原因



3-1 議員へのヒアリング調査結果①

➤ 設問及び回答の集計値（自由記載や聞き取りした個別具体的な内容は除く）

NO	設問	回答結果		
1	現在の定数は妥当か。	多い：9	少ない：2	妥当：16
2	現在の報酬は妥当か。	多い：0	少ない：18	妥当：9
3	多様な人材の確保や生活面での心配の軽減のために、厚生年金加入は必要である。	思う：22	思わない：1	どちらとも言えない：4
4	議会は議員の多様化が進んでいる。	思う：17	思わない：5	どちらとも言えない：5
5	議会のさらなる活性化が必要である。	思う：20	思わない：4	どちらとも言えない：3
6	立候補に伴うリスク軽減の観点から、立候補を理由とした解雇や配置転換など不利益な取り扱いを防ぐ手段が必要である。	思う：11	思わない：3	どちらとも言えない：13
7	議員になりやすい環境として、兼業や個人の請負に関する規制をさらに緩和をすることが必要である。	思う：12	思わない：7	どちらとも言えない：8
8	多様な人材の確保の観点から、公務員の立候補制限や議員との兼職禁止の緩和が必要である。	思う：8	思わない：10	どちらとも言えない：9
9	なり手不足解消のため、法制度の変更などについて国への働きかけが必要である。	思う：21	思わない：3	どちらとも言えない：3
10	選挙における落選のリスクはなり手不足に影響する。	思う：18	思わない：8	どちらとも言えない：1

3-1 議員へのヒアリング調査結果②

➤ 設問及び回答の集計値（自由記載や聞き取りした個別具体的な内容は除く）

NO	設問	回答結果		
11	議会権能の強化や、事務局体制の強化が必要である。	思う：14	思わない：1	どちらとも言えない：12
12	議員としての能力に不安を覚えている。	思う：17	思わない：5	どちらとも言えない：5
13	業務、仕事量に不安や負担を感じている。	思う：11	思わない：10	どちらとも言えない：6
14	議員として批判や誹謗中傷を受けたことがある。	ある：17	ない：5	どちらとも言えない：5
15	デジタル化などによる更なる議会改革が必要と感じている。	思う：16	思わない：8	どちらとも言えない：3
16	実際議員になってみて、その魅力を感じている。	思う：13	思わない：6	どちらとも言えない：8
17	市民の議会や議員への評価や関心度が上がっていると感じる。	思う：8	思わない：11	どちらとも言えない：8
18	議員活動により住民福祉の向上を実感している。	思う：14	思わない：3	どちらとも言えない：10
19	会派や同僚議員からのサポートなど、議員活動のサポート体制がしっかりしていると感じる。	思う：16	思わない：6	どちらとも言えない：5
20	議員に立候補したときに支援者や支援団体があった。また今もその体制が続いている。	ある：23	ない：1	どちらとも言えない：3

17

3-1 議員へのヒアリング調査結果③

➤ 設問及び回答の集計値（自由記載や聞き取りした個別具体的な内容は除く）

NO	設問	回答結果		
21	選挙対策について不安があった(選挙活動の手法や資金面等)。	ある：16	ない：8	どちらとも言えない：3
22	議員活動に対して家族から理解は得られている。	思う：20	思わない：2	どちらとも言えない：5
23	議員活動と私生活との両立ができています。	思う：18	思わない：3	どちらとも言えない：6
24	議会や議員活動に対するマスコミの報道姿勢は良いと感じている。	良い：15	悪い：0	どちらとも言えない：12
25	主権者教育を進めるために、教育関係機関と連携した取組が必要である。	思う：21	思わない：1	どちらとも言えない：5
26	情報発信を充実させて、市民の議会に対する信頼や関心を高める必要がある。	思う：23	思わない：2	どちらとも言えない：2
27	居住している地域では、女性の社会参加が進んでいる。	思う：8	思わない：11	どちらとも言えない：8
28	居住している地域では、価値観や物事に対して、保守的で新しいことや変化を好んでいないと感じる。	思う：12	思わない：9	どちらとも言えない：6
29	居住している地域では、慣習にこだわらず新しいことにチャレンジしていると感じる。	思う：12	思わない：7	どちらとも言えない：8
30	議場外での住民参加の取組を進めるなど、議会と市民のさらなる意思疎通が必要である。	思う：25	思わない：1	どちらとも言えない：1

18

3－2 議員活動量調査結果①- 1

➤ 集計対象：全議員

領域	領域の内容	一人当たり 1か月平均（時間）	一人当たり 年換算（時間）	合計
A	議会活動のうち 本会議・委員会・協議調整の 場・派遣 など	42時間33分	510時間38分	奥州市議会及び議員と しての活動時間数 約 1007時間
B	議会活動のうち 法定外会議・会派活動・公的 行事への出席など	8時間39分	103時間49分	
C	日常の議員活動	32時間42分	392時間32分	
D	政党活動や選挙活動	14時間48分	177時間39分	
E	兼業・アンバイトワークなど	52時間42分	632時間29分	

19

3－2 議員活動量調査結果①- 2

➤ 原価方式の算定モデルにて議員報酬を試算（全議員）

(議員の活動時間数) 1007時間
× 市長の給料 826,000円 = 議員報酬額 415,060円
(市長の職務遂行時間数) 2004時間

➤ 【参考】市長の活動時間数（令和4年度分）

分類	時間	適要
市議会関係	353時間40分	定例会、全協、一般質問打ち合わせ等
課題協議等	268時間53分	課題協議、事前説明、案件報告等
イベント関係 市長出席の会議	311時間25分	イベント参加 市長として出席する会議
決裁業務等	411時間	文書決裁、書類作成等
その他	659時間05分	姉妹都市行事、来客対応、式典出席等
合計	2004時間03分	

20

3-2 議員活動量調査結果②-1

➤ 集計対象：正副議長を除く議員

領域	領域の内容	一人当たり 1か月平均（時間）	一人当たり 年換算（時間）	合計
A	議会活動のうち 本会議・委員会・協議調整の 場・派遣 など	39時間28分	473時間47分	奥州市議会及び議員と しての活動時間数 約 998時間
B	議会活動のうち 法定外会議・会派活動・公的 行事への出席など	8時間58分	107時間37分	
C	日常の議員活動	34時間44分	416時間50分	
D	政党活動や選挙活動	16時間14分	194時間57分	
E	兼業・アンバイトワークなど	54時間38分	655時間45分	

21

3-2 議員活動量調査結果②-2

➤ 原価方式の算定モデルにて議員報酬を試算（正副議長を除く議員）

(議員の活動時間数) 998時間
× 市長の給料 826,000円 = 議員報酬額 411,351円
(市長の職務遂行時間数) 2004時間

➤ 【参考】市長の活動時間数（令和4年度分）

分類	時間	適要
市議会関係	353時間40分	定例会、全協、一般質問打ち合わせ等
課題協議等	268時間53分	課題協議、事前説明、案件報告等
イベント関係 市長出席の会議	311時間25分	イベント参加 市長として出席する会議
決裁業務等	411時間	文書決裁、書類作成等
その他	659時間05分	姉妹都市行事、来客対応、式典出席等
合計	2004時間03分	

22

3-2 議員活動量調査結果③

近隣市の原価算定モデルでの試算

- 一関市は、通年議会の採用等による議員活動量の増加も報酬引き上げの要因の一つ
- 北上市、会津若松市、丹波市はいずれも首長給料額の約49%程度の試算結果

市	議員の活動時間	首長の活動時間	首長の給料	議員報酬額
一関市	近隣市町村の報酬の上げ幅、市民所得の上昇幅の割合などを勘案し「5万円程度のアップ」から議論が始まったため、具体的な活動量から算出したものではない。			410,000円
北上市	1057時間	2306時間	877,000円	401,999円 (現報酬額 401,000円)
福島県会津若松市	1352時間	2760時間	937,000円	458,994円 (現報酬額 447,000円)
兵庫県丹波市	992時間	2032時間	877,000円	428,141円 (現報酬額 346,000円)

※活動時間の集計方法や前提条件等に相違があるため参考程度としていただきたい

23

3-2 議員活動量調査結果④

近隣市の定数・報酬の変遷

- 一関市、会津若松市は議員報酬増と定数減を組み合わせている
- 北上市は、報酬増後の選挙は無投票。今後は若者世代への取組へシフト
- 丹波市は、議員一人当たり人口を基準に定数を削減、報酬は現状維持

自治体名	人口	面積	現在		前回			前々回		
			定数	報酬	定数	立候補	報酬	定数	立候補	報酬
奥州市	109,747	993.30	28	360,000	28	28	360,000	28	30	360,000
一関市	107,382	1,256.42	26	410,000	26	27	360,000	30	32	360,000
北上市	91,554	437.55	26	401,000	26	26	401,000	26	27	351,000
福島県 会津若松市	112,573	382.97	28	447,000	28	33	447,000	28 (30)	32	447,000
兵庫県丹波市	60,897	493.21	18	346,000	20	23	346,000	20 (24)	28	330,000

※表内 () はその前の定数

24

3-3 計画策定に係る議員間討議 『議会』として取り組みたいこと① 〔R5.3.8 ワールドカフェ個人ワークから〕

区分	取組希望項目
広聴	➤ 市民と議員のワールドカフェの継続（もっと気軽に参加できる出張型・固定した場所での開催） ➤ 市民とのキャッチボールを密にするべきでは ➤ 市民との対話も継続したい。ただし、議会の自己満足になってしまわないように、無理な開催や強要はしない方がよい ➤ 高校生への働きかけ（政策提言だけではなく、調査と一緒に、代わりに一般質問をしたりなど） ➤ 多世代とのワールドカフェ ➤ 取手市議会が行っているような若者の声を聴く取り組みは、本市議会でも取り組めると思う。そのアピールが議会に対するイメージアップになると思われる ➤ 市民と方々とのなり手不足についての意見交換会を行う ➤ 市民との懇談会の回数増・地域でも（過去の市民と議員との懇談会、市政懇談会では、参加者が男性で、60歳以上が多いので、その対極の女性、子供たちを意識していく） ➤ 政治に触れる場の創出（若者・女性などとの懇談） ➤ 市民とふれあう場を設けて、身近に議会を感じてもらうことが必要ではないでしょうか（議員カフェなどで気軽に懇談する機会をつくるなど） ➤ 若い人をターゲットにしたワールドカフェを粘り強く進める

25

3-3 計画策定に係る議員間討議 『議会』として取り組みたいこと② 〔R5.3.8 ワールドカフェ個人ワークから〕

区分	取組希望項目
広報	➤ 市議選の仕組みについて勉強会を市民向けに開催 ➤ 誰が、何をやっているのかを知ってもらう ➤ 議員活動の見える化 ➤ 議会は何をしているところなのかについて、様々な方法で広く市民に周知する ➤ 広聴広報機能の強化（情報共有により身近に感じてもらうため） ➤ 公共施設での本日の審議内容のデジタル掲示板の設置 ➤ 政策決定プロセスの見える化 ➤ SNSをくだけた感じで発信したら若者から議会の権威が損なわれると言われたので悩む ➤ 市民理解、意識向上・醸成を図るため、議員間討議等の対応状況の可視化の情報発信（新聞等）を行うべき。（市民は関心を持っている。関心事の情報を伝えることで議会への興味を促す） ➤ 小中学生の模擬議会、社会公民の授業に合わせた中高生への出前講座、女性への出前講座 ➤ 議会の公開性を強める（出前議会等） ➤ 議会が元気に活動している姿を見せていく ➤ 難しい課題だけでなく良くなったことも積極的に広報していく（議員のやりがいを知らせていく） ➤ 議会に興味を持ってもらう場 ➤ 議会として議員のなり手不足の解消に向け取り組んでいることを全市的に情報発信すべきである。 ➤ 議会の役割、権能、重要性を知っていただくことが必要と思われる

26

3-3 計画策定に係る議員間討議 『議会』として取り組みたいこと③ 〔R5.3.8 ワールドカフェ個人ワークから〕

区分	取組希望項目
参画	➤ 高校生の議会傍聴はある程度の刺激になっているのではないか ➤ 模擬議会の開催や議会モニター制を活用した市民参画と市政への反映できる仕組みづくり（市政参画）
施策実現	➤ 学生・女性などの模擬議会（要望を施策に反映させるのは必須） ➤ 問題は市民の要求・願いが実現する議会になること ➤ 地域の諸課題も議会で行き届く ➤ 市民、とりわけ若者の意見・提案について常任委員会で取り上げ、解決に向けて活動する ➤ 市民意見を起点とした政策の実現 ➤ 小中高生との話し合いでいただいた意見・提案を議会として実現させることも大事
職業	➤ 議会の仕事の広報 ➤ 議員になりませんかのPR ➤ 中高生への出前授業
討議	➤ 議員個人では分からないこと、会派の中だけでは議論が十分にしきれないことが多いので、今回のようなワールドカフェや研修会を継続したい

27

3-3 計画策定に係る議員間討議 『議会』として取り組みたいこと④ 〔R5.3.8 ワールドカフェ個人ワークから〕

区分	取組希望項目
制度	➤ 議員の老後生活安定のため、議員年金は復活させた方がよい ➤ 登庁せずとも会議に参加できるようにした方がよい。タブレットのさらなる活用 ➤ 議員報酬アップへの働きかけ（併せて議員定数の削減） ➤ 出産・育児に伴う欠席や休暇制度の創設（女性議員を増やす） ➤ 夜間や休日会議の開催 ➤ 夜の議会開催（市民参画の促進） ➤ 議会を身近に感じてもらうため議場コンサートを開催 ➤ 次世代の生活を維持できる報酬設定 ➤ 議員年金の復活に向けた取組 ➤ 多様な人材が参画しやすい環境整備（バリアフリー化、子育て支援、会議規則の見直し） ➤ 議会での服装の在り方 ➤ 選挙の法律が面倒 ➤ ポスター掲示場の整理（選管） ➤ 無投票でも選挙をすべきでは➤ 本会議の改善（時間、服装等）➤ 議員定数・報酬・年金の問題
地域	➤ オール奥州での選挙のカベ

28

3-3 計画策定に係る議員間討議 『議会』として取り組みたいこと⑤ 〔R5.3.8 ワールドカフェ個人ワークから〕

区分	取組希望項目
体制	➤ 立候補したい方のサポート窓口の設置 ➤ 兼業へのサポート（お金とかではなく、時間とか…） ➤ 事務局の充実 ➤ 会社員が議員になりやすいように企業側と交渉をする ➤ 「議員の予備校」のようなものができたらよい ➤ 関心のある人が気軽に相談できる窓口を（HPで周知し、議会事務局に）設置する ➤ 浦幌町の個人研修の取組に奥州市の協働のまちづくりアカデミーと議員が連携し、なりたい人の発見と疑問の解決を手助けしたい。（市議会だよりでの周知） ➤ 奥州市議会はよくやっている（広聴広報活動、政策提言、SNSによる発信など） ➤ 議会におけるDX推進 ➤ 議会・委員会として、人がいる場所に出向く ➤ 立候補的な方々へのサポート窓口の設置 ➤ 選挙の仕組みの学習会 ➤ 常任委員会を分散して開催する（総合支所の活用等で地域の方が傍聴できるように） ➤ 議場を使っのコンサート、政治カフェを開催するなど、時には議会を楽しみながら活動することも大事

29

3-3 計画策定に係る議員間討議 『個人』として取り組みたいこと① 〔R5.3.8 ワールドカフェ個人ワークから〕

区分	取組希望項目
環境	➤ 議会のイメージを柔らかいものにしたり、アットホームな雰囲気にしたり、身近に感じてもらうこと→発信・次なる担い手の発掘
施策実現	➤ 市民の要望を市政に反映させるように活動する ➤ 議員として市全体を考え、行動する姿を示したい。 ➤ 市民参加のため課題を設定し、関心を得る努力をする ➤ 住民福祉の向上の取組
広聴	➤ 客観的なデータ提供による市民の素の意見の聞き取り ➤ 行政⇄市民のパイプ役（情報共有） ➤ どんなことでも話し合ったり相談できる「政治カフェ」を開催する ➤ 市民・住民の声、組織や団体のやっていることや要望をよく聞くこと、調査すること（広聴活動） ➤ 普段の活動と市民との接点づくりに努めたい ➤ 市民とのふれあい（議員がフツオの人と思ってもらえるように） ➤ 日頃から市民の話をよく聴く ➤ なり手不足1本に絞って懇談会を開催する

30

3-3 計画策定に係る議員間討議 『議会』として取り組みたいこと② 〔R5.3.8 ワールドカフェ個人ワークから〕

区分	取組希望項目
広報	➤ 日頃から議員活動を発信（SNS・報告会・チラシなど） ➤ 地域報告会の開催 ➤ 議会報告会、市政報告会をやる（特に、楽しい話題、夢のある話題に限って話す） ➤ 選挙の時だけ市民と接するのはよくないとの思いから、通信の発行・配布と報告会の開催を自分に課している（大変ですが、事後の充実感があります） ➤ 支持者に偏りがちな市政報告会を会派のメンバーのエリアでも開催する ➤ 市民と議会との橋渡しの役割。報告会等の実施により現状を伝え、市民の考え等情報収集につなげる ➤ 地域に入り、議会の取組の報告会をマメに行う。その中で困りごとの聞き取りをする。 ➤ 議会で起きていること、自分がやってきたことを報告する活動（議会報告活動） ➤ 議会報告会をこまめに開く ➤ 問題に対する態度をはっきりさせ、賛同を得る ➤ 議員になりませんかのPR ➤ 講演会・支持者への市政・議会報告会 ➤ 地域の方と活動の情報共有、伝えること、話し合いを ➤ 市政報告会にて自分の市政に対する思い、考え方を広く市民に知ってもらうことが、ひいては議会の理解につながられるのではないかと、そのことがなり手不足解消になると思う。

31

3-3 計画策定に係る議員間討議 『個人』として取り組みたいこと③ 〔R5.3.8 ワールドカフェ個人ワークから〕

区分	取組希望項目
職業	➤ 議員の魅力を発信していく ➤ 地域代表の在り方を考えていきたい ➤ 議会が市民生活や事業者の活動に深く関与している重要な役割を持っている機関であり、その議会を構成しているのが議員である。やりがいのある仕事であることを友人、知人等に機会を捉えて話していくこと＝適任者の発掘・説得 ➤ 仕事のアピール ➤ 議員に立候補してみてくださいと様々な場面で声をかけてみる ➤ 議員として魅力、存在感を ➤ 議員の必要性を訴える
地域	➤ 地区の係活動を分散させ、若者中心に多数の地区民が多方向で地区を見直せる体制をつくる（個人の考え方を変える） ➤ 地域活動が縮小していることから、議員側が行動する ➤ 振興会、地区センターへの顔出し ➤ 地区振興会への参画と情報共有

32

3-3 計画策定に係る議員間討議 『議会』として取り組みたいこと④
〔R5.3.8 ワールドカフェ個人ワークから〕

区分	取組希望項目
後継者	➤ 地域の議員のなり手を探す→見つけた人材に少しずつ議員のなり手としての意識付けをする→将来議員になってもらう ➤ 候補者の一本釣り ➤ 次の候補者の一本釣り ➤ 後輩たちへの声かけ ➤ 素のまま（誰でも手を挙げられる） ➤ 人材育成 ➤ 特にないが、当面なりたい方を探す ➤ 不足している若い人・女性へのアプローチと巻き込みで地域への関心、議会への関心につなげたい ➤ 必死になって後継者（なり手）を探す ➤ 個人・有権者への働きかけ ➤ 改選に向け自分自身が議員選出に向け取り組む ➤ 地域の方々と一緒になって後継者を見つける ➤ なんとか後継者を探す

33

4-1 議員のなり手不足に対して取り組む内容

➤ 地方議会議員のなり手不足対策の具体的な取組

- ①議員の定数・報酬の見直し：議員の定数は面積や議員一人当たり有権者数など適正な議員数を考えるための根拠となりうる要素が多数あります。奥州市における適正な定員数を検討する必要があります。また議員の報酬については、報酬が低いと、財政的な理由から立候補を躊躇する人が増えます。報酬を適正化し、議員としての活動を支えるための経済的な保障を提供することが重要です。
- ②議会活動の透明化：議会の議決事項や議論内容を市民に対して明確に開示し、市民参加を促すことで、議員への関心を高めることができます。これにより、議員を目指す人が増える可能性があります。
- ③若者や女性の参政機会の拡大：若者や女性など、議員になりにくいとされる世代や対象に対して参政の機会を提供することも重要です。例えば、議員の仕事を体験できるインターンシップの提供や、育児支援などの施策を進めることで、多様な立場の人々が議員を目指しやすくなるでしょう。
- ④議員としての教育・研修の充実：議員として必要な知識やスキルを身につけるための教育・研修を充実させることで、議員という仕事に対するハードルを下げるができます。

34

4-1 議員なり手不足に対して取り組む内容

➤ 地方議会議員のなり手不足対策の具体的な取組項目

- ⑤ **地方議会活動のPR強化**：地方議会の活動内容や成果を積極的に広報することで、地方議員という職業への理解を深め、興味を持つ人を増やすことができます。特にSNSなどの新しいメディアを活用することで、若年層にも情報を届けやすくなります
- ⑥ **地方創生に資する議員像の提案**：地方創生やまちづくりといった観点から、地方議員が果たすべき役割を明確に示し、その魅力と重要性をアピールすることも有効です。これにより、地元への愛着や貢献意識を持つ人々が議員を目指すきっかけになる可能性があります。
- ⑦ **地方議会の働き方改革**：議員活動を一部在宅で行えるようにする、議会開催時間を見直すなど、働き方を多様化することで、家庭や仕事との両立が難しい人でも議員を目指しやすくなるでしょう。

この7つの項目について、具体的な取組を展開していきます。
すでに議長マニフェストにおいて着手している取組もありますが、それに加えて必要と考える取組を令和6年度から実施していきます。

35

4-2 具体的な取組内容

➤ ① 議員定数・報酬について

議員定数と報酬について、これまでの検討結果をもとに別にお示しします。

36

4-2 具体的な取組内容

② 議会活動の透明化

赤：議会として取り組みたいこと 黒：個人として取り組みたいこと
(R5.3.8 ワールドカフェにおける意見より)

事項	具体的な取組	取組例
議会の公開	・議会HPやSNSを活用した情報発信 ・インターネットによるライブ配信、見直し可能な環境整備	・議会活動の見える化 ・市議会だよりの充実
議会報告書の公開	・討議内容や議決結果の公開 ・市民が理解しやすいわかりやすい言葉と視覚的な要素を用いた報告	・議会活動の見える化 ・市議会だよりの充実
議員の意見・質問の公開	・ブログやSNSによる議会・議員活動の発信	・議員の姿勢を考えする行動する姿勢の周知 ・行政と市民のパイプ役としての情報発信 ・議会・議員活動報告
市民との対話の機会の提供	・市民と議員との対話の場の創出、市民が直接議員に意見や質問を伝えられる機会の提供 ・オンラインでの対話会や公開フォーラムの開催	・市民と議員のワールドカフェ（出張型、場所固定型、若者・女性、多世代など） ・政治カフェ

37

4-2 具体的な取組内容

③ 若者や女性の参政機会の拡大

赤：議会として取り組みたいこと 黒：個人として取り組みたいこと
(R5.3.8 ワールドカフェ意見より)

事項	具体的な取組	取組例
政策意識の啓発	・議員活動の重要性を知ってもらうための、若者や女性に対する啓発活動 ・学校教育や市民講座など、政治への理解を深める機会の提供	・若者や女性との合同調査 ・小中学生の模擬議会 ・中学高校生、女性への出前講座 ・議員の魅力、仕事、必要性のアピール
女性や若者向けの参政支援制度	・女性や若者が議員に立候補しやすくするための支援制度 ・子育てと議員活動の両立支援	・女性や中学高校生への職業PR ・出産・育児に伴う欠席や休暇制度の創設
議会体験プログラム	・地方議会の活動を体験できるプログラムの実施	・若者や女性との合同調査 ・模擬議会 ・議会傍聴
ネットワーキングの機会提供	・介護や育児などで議場に來ることができない場合のウェブ会議による参加などネットワーキングの機会提供	・WEB会議の導入

38

4-2 具体的な取組内容

④ 議員の教育・研修の充実

赤：議会として取り組みたいこと 黒：個人として取り組みたいこと
(R5.3.8 ワールドカフェ意見より)

事項	具体的な取組	取組例
専門家による研修会の実施	・ 専門家や経験豊富な先輩議員からの講義やワークショップのを定期的に行うなどの議員の知識や技術を高める機会の創出	・ 個人や会派で議論が尽くせない課題等に対する研修会
自己啓発の推奨	・ 資料提供、オンラインコースへの参加を推奨など議員自身の自己啓発を促す機会の創出	
フィールドワークの導入	・ 実際の現場を訪れるなど地元企業や住民とのとの対話の機会の確保	・ 地域の組織や団体の要望調査
議員間の情報共有と協働の推奨	・ 議員間で情報を共有、協働を通じた議員の能力向上や視野の拡大	・ 議員間討議による資質向上

39

4-2 具体的な取組内容

⑤ 地方議会活動のPR強化

赤：議会として取り組みたいこと 黒：個人として取り組みたいこと
(R5.3.8 ワールドカフェ意見より)

事項	具体的な取組	取組例
ウェブサイトやSNSの活用	・ オンラインのプラットフォームを活用して、議会活動の進行状況や成果をリアルタイムで公開することが有効です。 ・ 特に女性や若者世代にアピールするためのSNSの活用	・ 議員活動の見える化 ・ 議員間討議等の状況の情報発信
パンフレットやニュースレターの配布	・ 議会の活動内容をまとめたパンフレットやニュースレターを定期的に作成、配布	・ 議員活動の見える化 ・ 「議員になりませんか」のPR
議場公開や見学会の開催	・ 実際に議会の場を見てもらい、議会の仕事を身近に感じてもらう機会の創出。 ・ 市民の反応や意見を聞く機会、市民と議員との直接的な交流の場の設置	・ 市民向け出前講座 ・ 議場コンサート
地域メディアとの協力	・ 新聞やラジオ、テレビ局による定期的な議会活動の報道 ・ メディア、市民、議員の3者によるイベントの実施	・ 議員間討議等の状況の情報発信 ・ 多世代との意見交換会 ・ 公共施設へのデジタル掲示板の設置

40

4-2 具体的な取組内容

⑥ 地方創生に資する議員像の提案

赤：議会として取り組みたいこと 黒：個人として取り組みたいこと
(R5.3.8 ワールドカフェ意見より)

事項	具体的な取組	取組例
地域の声を反映した政策提案	・市民の声を直接聞き、それを反映した政策提案の実施とその結果の市民へのPR	・政策決定プロセスの見える化 ・市民意見、地域課題若者の意見を起点とした政策提言 ・地区振興会への参画と情報共有
革新的な施策の実施	・過去にこだわらない時代に合った新しいアイデアや施策の積極的な取り入れ ・ICTの活用など先進事例の導入など時代に合った取組の推進	
透明性と公正さの確保	・議員の活動内容や政策の進行状況の定期的公開 ・議会の議事録や活動報告のインターネット公開	・これまでの課題に対する結果報告 ・議会報告会、議員活動報告会
後継者問題	議員の必要性和やりがいを伝え、これからを任せられる後継者の養成	・後輩への声掛け ・若い人・女性へのアプローチ ・地域全体で後継者育成 ・個人・有権者への働きかけ

41

4-2 具体的な取組内容

⑦ 地方議会の働き方改革

赤：議会として取り組みたいこと 黒：個人として取り組みたいこと
(R5.3.8 ワールドカフェ意見より)

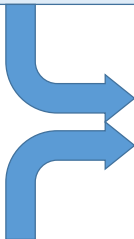
事項	具体的な取組	取組例
デジタル化の推進	・議会資料のデジタル化やオンライン会議の導入 ・議員の働き方を効率化し、より柔軟な働き方の推進 ・デジタルデータの活用	・オンライン会議の導入 ・DXの推進
議会活動の時間短縮	・必要な討議時間を確保しつつ、全体の活動時間を短縮するなどの働き方の改革 ・事前準備の確保や不必要な資料の省略などタイムマネジメント、コストパフォーマンスを意識した効率的な働き方の検討	・夜間や休日会議の開催 ・本会議の時間、服装等の見直し
議員の能力開発	・専門的な知識や技能を身につけることによる議員自身の働き方の改善 ・新議員などに対するフォロー体制の確立	・立候補希望者のサポート窓口 ・議員の予備校
多様な働き方の尊重	・他の仕事を持つ人や家庭を持つ人が議会活動と両立できるための多様な働き方の尊重 ・議員の働きやすさと議会の効率性を向上	・バリアフリー化、子育て支援、会議規則の見直し ・服装の見直し ・兼業の理解

42

5 取組の進め方

なり手不足解消に向けた取組の実践 → 基本は各委員会での実践！！

◎議長マニフェストの実践においてすでに着手しているものあり、またそれぞれの委員会所管において取組を実践していくことが効率的！



議会・議員・事務局の
「チーム奥州市議会」
で取り組んでいく！！

(あわせて) 議員個人でも実践！！

◎議員個人での取組も重要。自身の活動報告、企業訪問、座談会など市民との接点を増やし議員活動のやりがいやその魅力、女性や若者の参政の重要性を伝えることが重要！

43

2 なり手不足対策として取り組むスケジュール（その2）〔令和6年度〕

期日	計画策定・取組実践
R 6 年 4 月	{役員会} 新任期役員取組事項確認 {役員会} 取組実践①(なり手対策PR1)
5 月	{役員会} 取組実践②(なり手対策PR2) {役員会} 取組実践③(なり手対策PR3、定数・報酬方針検討1)
6 月	{役員会} 取組実践④(定数・報酬方針検討2) {全体会} 取組実践⑤(定数・報酬方針検討3) {役員会} 取組実践⑥(定数・報酬方針検討4)
7 月	{役員会} 取組実践⑦(定数・報酬方針検討5、市民懇談会・パブコメ内容検討1) {役員会} 取組実践⑧(市民懇談会・パブコメ内容検討2、なり手対策PR4) {全体会} 取組実践⑨(市民懇談会・パブコメ内容報告)、各委員会等取組実践状況報告
8 月	{役員会} 取組実践⑩(なり手対策PR5、市民懇談会ワールドカフェ6回開催) {役員会} 取組実践⑪(市民懇談会・パブコメまとめ)
9 月	{全体会} 取組実践⑫(市民懇談会・パブコメ報告)、各委員会等取組実践状況報告 {役員会} 取組実践⑬(課題研究1)
10月	{役員会} 取組実践⑭(課題研究2、なり手対策PR6) {役員会} 取組実践⑮(課題研究3)
11月	{役員会} 取組実践⑯(課題研究4、なり手対策PR7) {全体会} 取組実践⑰(課題研究報告)、各委員会等取組実践状況報告 {役員会} 取組実践⑱(市民懇談会・パブコメ内容検討1)
12月	{役員会} 取組実践⑲(市民懇談会・パブコメ内容検討2) {全体会} 取組実践⑳(課題対応方針報告、市民懇談会・パブコメ内容報告) {役員会} 取組実践㉑(市民懇談会ワールドカフェ6回開催～1月まで)

44

2 なり手不足対策として取り組むスケジュール（その3）〔令和6～7年度〕

期日	計画策定・取組実践
R 7 年 1 月	{役員会} 取組実践⑳(市民懇談会ワールドカフェ6回開催(続き)、なり手対策PR8) {役員会} 取組実践㉑(市民懇談会・パブコメまとめ、定数・報酬最終方針検討1)
2 月	{役員会} 取組実践㉒(定数・報酬最終方針検討2、なり手対策PR9) {全体会} 取組実践㉓(市民懇談会・パブコメまとめ報告、定数・報酬最終方針報告1)
3 月	{役員会} 取組実践㉔(定数・報酬最終方針検討3) {全体会} 取組実践㉕(定数・報酬最終方針報告2) ※最終方針決定期限
4 月	{役員会} 取組実践㉖(課題研究5、なり手対策PR10) {役員会} 取組実践㉗(課題研究6)
5 月	{役員会} 取組実践㉘(課題研究7) {役員会} 取組実践㉙(課題研究8)
6 月	{全体会} 取組実践㉚(課題研究報告)、各委員会等取組実践状況報告 ※条例改正時期限
7 月	{役員会} 取組実践㉛(なり手対策PR11)
8 月	{役員会} 取組実践㉜(なり手対策状況検討、なり手対策PR12)
9 月	{役員会} 取組実践㉝(課題研究9) {全体会} 取組実践㉞(なり手対策状況報告)、各委員会等取組実践状況報告 ※不出馬表明期限
10月	{役員会} 取組実践㉟(課題研究10)
11月	{役員会} 取組実践㊱(課題研究11・任期まとめ1)
12月	{全体会} 取組実践㊲(課題研究報告・任期まとめ2)
R 8 年 2 月	市議会議員選挙告示
3 月	市議会議員選挙投票

奥州市議会 市民フォーラム

テーマ 議員のなり手不足について
～議員定数と報酬の在り方～

- | | | |
|---|------|--------------|
| 1 | 前沢地域 | 令和6年12月7日(出) |
| 2 | 衣川地域 | // |
| 3 | 水沢地域 | 12月14日(出) |
| 4 | 江刺地域 | // |
| 5 | 胆沢地域 | 12月21日(出) |



奥州市議会マスコットキャラ

奥州市議会市政調査会

①市内 5地域全体のアンケート集計結果

○フォーラム参加者 延べ 91 名

○アンケート結果

※提出分のみ集計 重複回答・未記入部分があるため合計は一致せず

◆年代別

10 歳代	10 名 (11.5%)
20 歳代	1 名 (1.2%)
30 歳代	3 名 (3.4%)
40 歳代	7 名 (8.0%)
50 歳代	4 名 (4.6%)
60 歳代	24 名 (27.6%)
70 歳代	33 名 (38.0%)
80 歳代	3 名 (3.4%)
無回答	2 名 (2.3%)

◆議員定数について

多い	24 名 (27.9%)
ちょうどいい	56 名 (65.1%)
少ない	2 名 (2.3%)
無回答	4 名 (4.7%)

◆議員報酬について

多い	3 名 (3.3%)
ちょうどいい	22 名 (24.2%)
少ない	58 名 (63.7%)
無回答	8 名 (8.8%)

◆ワールド・カフェに参加してみて

満足	32 名 (38.0%)
やや満足	33 名 (39.3%)
どちらでもない	14 名 (16.7%)
やや不満	3 名 (3.6%)
不満	1 名 (1.2%)
無回答	1 名 (1.2%)



② 地域ごとのアンケート結果および意見

1 前沢地域（開催日：令和6年12月7日 場所：前沢総合支所）

○参加者 20名

○アンケート回収 17名

※提出分のみ集計 重複回答・未記入部分があるため合計は一致せず

◆年代別

10歳代	2名（11.8%）
40歳代	5名（29.4%）
50歳代	2名（11.8%）
60歳代	4名（23.5%）
70歳代	4名（23.5%）

◆議員定数について

多い	5名（31.3%）
ちょうどいい	10名（62.5%）
少ない	1名（6.2%）

◆議員報酬について

多い	2名（10.5%）
ちょうどいい	8名（42.1%）
少ない	9名（47.4%）

◆ワールド・カフェに参加してみて

満足	10名（58.8%）
やや満足	4名（23.5%）
どちらでもない	2名（11.8%）
やや不満	1名（5.9%）
不満	0名（0.0%）

1 【議員定数について】

- ・人口比率に合わせた議員の定数を設ける。
- ・合併前の区ごとのような小選挙区制を。
- ・年配の議員の方が「引退する」と宣言すれば、若い世代が立候補しやすくなり、定数を変えずとも良い議会になると思う。

- ・無投票ということは定員が多すぎるということ。少数激戦がいいのでは。
- ・定数は今のままでいいと思う。
- ・市の人口がさらに減少した場合には、人口スケールに合わせていくべき。
- ・現状の 28 人でいいと思うが、人口は減少していくのでそれに伴った削減が必要なのでは。
- ・地域の議員なので地域格差がないような定数になればいい。
- ・わからない。
- ・全国平均の 25 人くらいでは。
- ・地区割りなどにかえて小選挙区制を。
- ・他市と比べて、人口に対して 26 名でも良いと思う。ただし旧市町村の人口に対して議員の定数を定める方向が良いと考える。
- ・28 人のままで良いと思うが、28 人が頑張っても市の歳入を増やすとかしなくてはいけないと思う。例えば企業を誘致したり学校を建てて人口を増やすなど。税金負担は増えるのに、人数が変わらないのであれば評価できない。
- ・議場へ入場できるのは 28 人とし、他に入場しない議員を多数準備する。
- ・人口割合も大切だが、面積も考えなければ。地域ごとに最低定数は必要。
- ・今回初めて参加したので、よくわからないが今くらいの規模が良いと思う。

2【議員報酬について】

- ・36 万円の他に実際の収入があるため、その情報発信も必要。市民評価による出来高制はどうか。
- ・ボーナスなどもそのほかにあると聞いた。年収を正しく情報発信すれば若い世代も議員になりたいと思うのではないか。
- ・市内の平均賃金と比較すると多い。ボーナスも入れた額を正直に資料に反映させないと。36 万円にはボーナスは入っていないなら印象操作になる。
- ・頑張った議員に対して出来高払いのような成果に報酬もあっていいのでは。兼業で何とかやりくりしているという議員の声も聞いた。
- ・他の仕事もしなければ暮らしていけない金額。選挙のリスク、責任等を考慮すると少ないのでは。
- ・36 万円からさらに税等も引かれて手取り 19 万ほどでは、あまりにも責務と活動内容に見合っていないのでは。批判もあると思うが大幅な引き上げを検討すべき。
- ・生活給としては少ない。
- ・報酬は少ないが、確定申告で 40~50 万円位戻るでしょう。
- ・民間と比べると高い。
- ・議員活動以外にも生活費が多くかかることを初めて知った。比較の仕方ではあるが、議員報酬より少ない収入で生活している人も多いと考える。それでも生活に支障のない収入はあるべきと思う。

- ・落選のリスクもある中、現在の報酬では安定的ではないので、議員になりたいと思わない。ただ月額報酬だけでなく、ボーナスとか他の手当でもあることを情報公開しなくてはいけない。
- ・議員数を増やすなら、報酬を少なくする必要がある。
- ・議員活動に対する活動費補助を増やすと良いのでは。
- ・現状のままでは、専門議員のなり手を増やすことにはつながりにくいと感じる
- ・活動項目ごとに手当を設けては。

3【なり手をふやすには】

- ・報酬面では出来高制、定数面では小選挙区制のような各地域から議員を出すことが必要だと思う。
- ・議会が市民のあこがれの職場となるように、議員の皆さんが日常活動のなかで多くの市民と直接会って話してほしい。現状では極めて不足している。
- ・魅力ある仕事だと広くアピールする必要がある。立候補したいと思える環境づくりが大事（報酬・地域のしがらみなど）。
- ・選挙のやり方を変える。
- ・なり手不足は議員だけでなく、地域の役員や市の他の委員でもみられる。報酬や定数の問題だけではなく、現状では若者だって生活に手いっぱい。高齢者も 80 歳でも勤めている人もいる。全地域で人材が不足している。
- ・市政が身近でないので、学校で政治について考える時間を設けるなど、市政と市民を結びつける取組が必要だと思う。そして議員報酬の引き上げ。
- ・議員活動の PR。
- ・議員一人ひとりの活動内容を広く市民に周知する。
- ・議員はもっと地域に入り、活動の内容を知らせるべき。広報だけでは足りない。
- ・活動内容報告や魅力の発信。
- ・市議会議員の実情をもっと発信していくべき。どうやったら市議になれるか、勉強会やフォーラムなどを開いて、なり手を要請してもいいのでは。
- ・落選リスクを回避するために、定数の何割かは 1 年間企業からの出向を認めるなど、新制度が必要かと思う。
- ・200 から 250 票くらいで当選できるようにする。
- ・PR 不足、学生への教育が必要、学生の意見を聞く場をつくる。
- ・中高生をはじめ、広く議員活動の内容を PR する機会を増やして、未来の奥州市がより発展していけるように。報酬だけでなく活動や仕事のやりがいを感じてもらうことを継続してほしい。
- ・もっと現議員の方が議員を志した理由、活動してよかったこと、大変なことなどを広報誌に載せるなどして PR が必要。

4【その他・ご意見・ご要望・ご感想など】

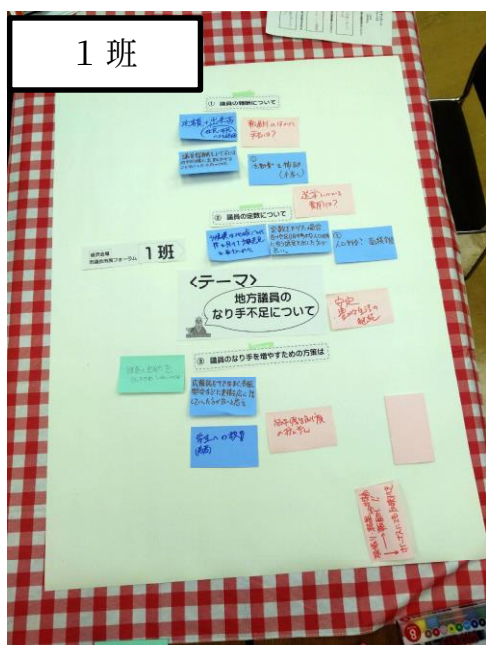
- ・選挙に関する費用（支給される費用、されない費用）を明確にする。
- ・報酬は36万円以外にもあることを伝える。
- ・SNSを用いた情報発信、意見収集を行う。
- ・なり手不足問題を解決するには税金を上げる必要があるのではないか。企業は業績が悪ければ給与が上がらず、そういった企業には人材も集まりません。
- ・フォーラム参加者が男性に偏っている。事前準備の段階で募集方法を考えてみては。
- ・もろもろの意見交換ができて、議会への関心が高まりました。
- ・フォーラム自体の広報活動も大事ではないか。ぜひ他会場の情報も知りたいです。
- ・若い人や女性の参加者も増やすように。
- ・高校生の意見も聞けて良かった。
- ・議員と話ができて良かった。奥州市で生まれ育っている人間として、議員にはこれからは頑張ってほしい。政治について知りたいと思っている高校生も少なくないと思うので、このようなフォーラムは今後もぜひ開いてほしい。
- ・議員報酬だけで生活給をまかなえるのであれば、若い人たちが増えるだろうけれど、何か他にもやらないと生活できないくらいでは、若い人たちは増えないと思う。
- ・議員になる魅力は何か。
- ・大選挙区制から小選挙区に戻し、議員の空白地が生じないように願う。
- ・コロナ禍以降、話し合いの場が少なくなっている。
- ・地元議員以外の現職議員との話し合いも必要。
- ・今回何もわからず参加させていただいたが、参加された皆様からいろいろな考えや意見などを得ることができ、とても良い時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。なり手不足に関してはどうしても、これからの人口減少（高齢化社会）を考えると、市議になる若い人は少ないと考えますので、なり手が多くなるように、市議会議員の皆様には頑張ってほしいと思います。
- ・みなさんの色々な意見を聞いたほか、議員さんの生の声が聞けて良かった。こういう場は色々な地域でたくさん行うべきだと思うので、Web会議みたいな形を活用しながら行うべき。そうすれば議員も運営も市民も負担が少なくなると思います。
- ・飯坂議員は、議員は報酬だけではなくやりがいだとおっしゃいました。責任感というか人間性なのかと思われました。誰でもができることではないように感じます。高校生の参加があったことで、奥州市はまだ大丈夫かもしれないと心強く思いました。もっと情報発信してほしいですし、今回のような取組を増やしてほしいと思います。
- ・時間がせわしい。
- ・現職議員の話を直接聞く機会を得られて良かった。様々な意見を聞けてよかった。
- ・自分の勉強のために参加したが、思った以上に色々な意見交換ができて良かった。
- ・日々の活動ご苦労様です。議員は有償ボランティアと捉えている部分がありますが、

市民のためにご苦勞をいただきたい。

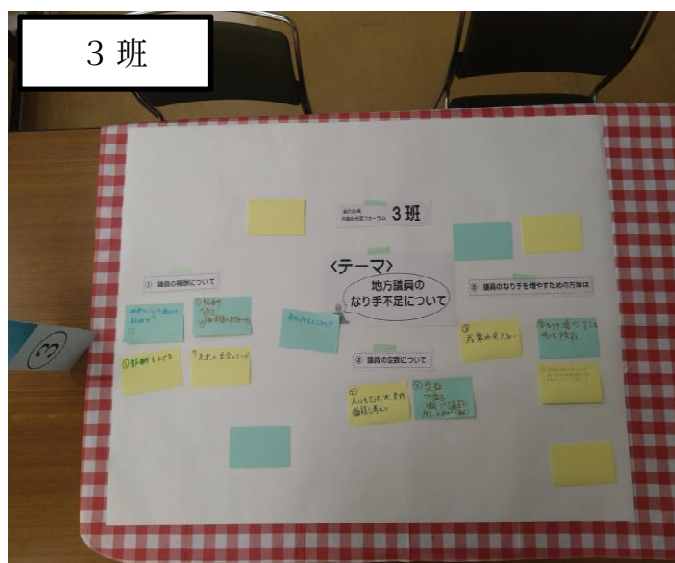
★ 市民と議員の懇談会の様子（前沢）



★ 各班で出された意見を集約した模造紙



3 班



4 班



5 班



2 衣川地域（開催日：令和6年 12月7日 場所：衣川総合支所）

○参加者 15 名

○アンケート回収 13 名

※提出分のみ集計 重複回答・未記入部分があるため合計は一致せず

10 歳代 2 名 (16.7%)

60 歳代 6 名 (50.0%)

70 歳代 4 名 (33.3%)

◆議員定数について

多い 3 名 (23.1%)

ちょうどいい 10 名 (76.9%)

少ない 0 名 (0.0%)

◆議員報酬について

多い 0 名 (0.0%)

ちょうどいい 2 名 (15.4%)

少ない 11 名 (84.6%)

◆ワールド・カフェに参加してみて

満足 7 名 (53.8%)

やや満足 5 名 (38.5%)

どちらでもない 1 名 (7.7%)

やや不満 0 名 (0.0%)

不満 0 名 (0.0%)

1 【議員定数について】

- ・報酬にもよると思う。
- ・人口減のため調整する。
- ・地域と接点が少なくなるので、減ずることはしない。
- ・報酬を下げて定数を増やすのもありと思う。
- ・少なくすると議員のいない地域が増える。
- ・地域の要望を聞いて歩くために、各地域に限なくいてほしい。
- ・人数を少なく報酬を多く。
- ・衣川のような人口比で少ない地域からも議員 1 名は選出されるようにしたい。ただ市の人口推移によっては定数減もやむを得ない考える。
- ・定数と報酬の総額で比較。定数は安易に減らさない。

- ・人口減、財政難、人材不足のため定数を少なくする。

2 【報酬について】

- ・報酬に関係なく興味を持つ人はいると思う。
- ・報酬額を市職員部長級にした方がよい。
- ・もっと多く支払うべき。活動範囲が広がっている。地域との密着度を考慮するともっと多くても良い。
- ・手取りは少ないので、生活に見合った報酬にしてほしい。
- ・年金・退職金 0、物価高、担い手確保のため報酬は上げるべき。
- ・活動にお金がかかりそう。
- ・報酬額は 40 万くらい。

3 【なり手を増やすには】

- ・活動内容を伝えたり、意見を聞いたり、交流する場面を増やす。
- ・議員各々の活躍がなり手を増やすのでは。
- ・議員の活動内容がわかるように、コミュニケーションを取れる場を増やす。
- ・学校など若い世代に対して、議員活動の内容を教えたりする。
- ・議会広報に議員のやりがい、動機、活動状況、課題等を載せては。また、特に女性議員が少ないので、この広報を大いに活用した方が良いのでは。
- ・議員のなり手を増やすために議会事務局の P R がほしい。議員の背中をもっと紹介してほしい。
- ・報酬を高くすればよい。金のある市にすればよい。企業、働く場所を多くした方がよい。
- ・議員活動を知る場、地域で話し合う場をもっとセットするべき。話せる場、市民の声が聞ける場が必要。
- ・若手を取り込むような、議員の所在を明らかにしてはどうか。
- ・議員の 4 期引退ルール。新しい議員が挑戦できる環境づくり。
- ・報酬増や S N S や広報の活用。小中校への授業などで若いうちから関心を。
- ・議員を地域代表から政策代表にするための S N S 活用。落選による失業リスク軽減、数カ月の立候補準備期間を休職とする。議員活動の可視化、ネットで在室状況、予定を周知。不適切発言は事務局が削除。議会事務局が S N S ポータルをつくり、議論を活発にする。
- ・教育の場で育てる。

4 【その他、ご意見、ご要望、ご感想】

- ・資料不足、議員の仕事の量、スケジュール、選挙費用
- ・今後はテーマごとに実施してほしい。
- ・市民フォーラムのような場を増やしていくことが、議員活動の理解を深め、新しい

議員誕生につながる。

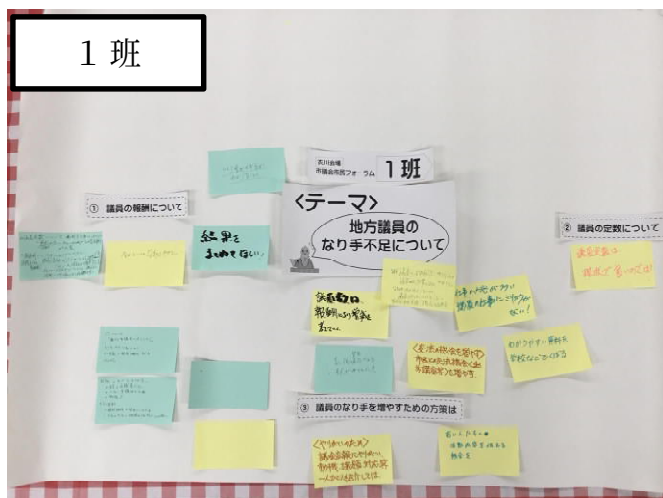
- ・少人数の意見交換は有意義だったと思う。このような機会を設け、年代別に集うのはどうか。
- ・時間が短かった。雑談大いにやるべき。
- ・年間2回ぐらい予定してほしい。
- ・このような機会に地域人として学ぶことが多かった。議員の状況がよくわかった。このような機会を今後も続けていった方が良いのでは。
- ・衣川の大きな課題は人口減少対策であり、議会でも人口減少対策に本腰を入れていただきたい。議員と住民の交流機会を増やす。
- ・自分はまったく興味がなかったし、わからないことだらけだったけど、議員の人柄や議員がどういうものか、よくも悪くもリアルな声を聞くことができた。
- ・ありのままの意見が聞けてよかったです。時間があればフォーラムのまとめを公表してほしい。
- ・議員のなり手不足について、リラックスしながら話し合いをすることができた。このような場がもっと増えればいいと思った。

★ 市民と議員の懇談会の様子（衣川）

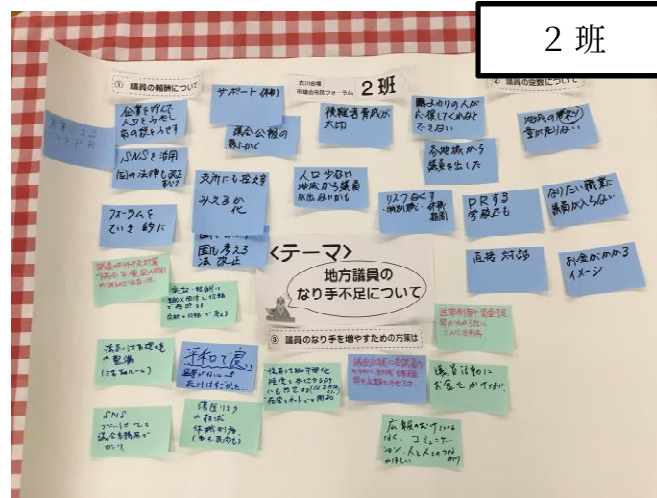


★ 各班で出された意見を集約した模造紙

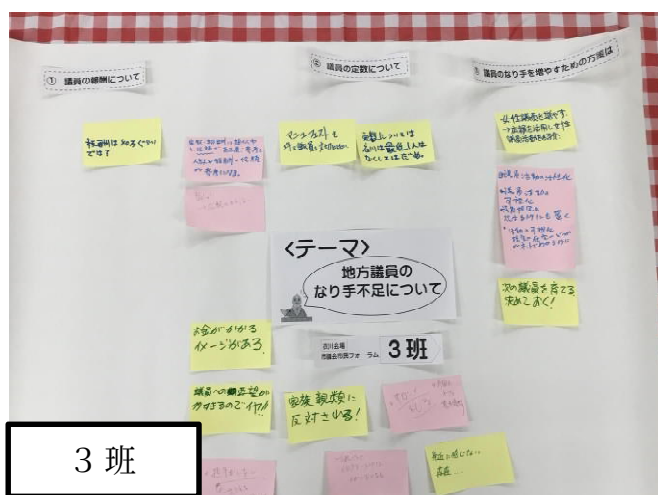
1 班



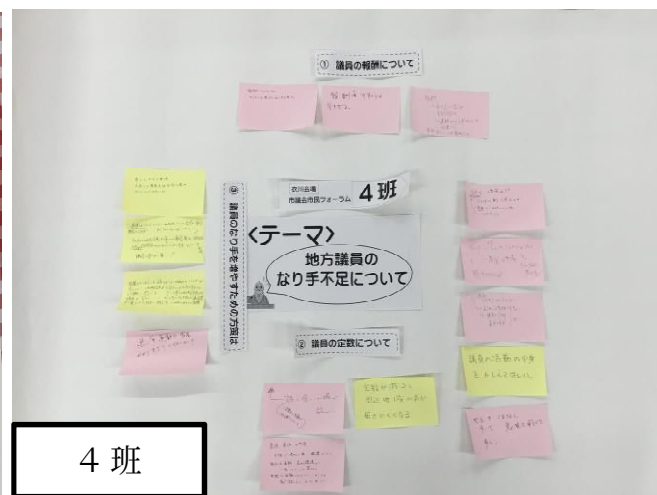
2 班



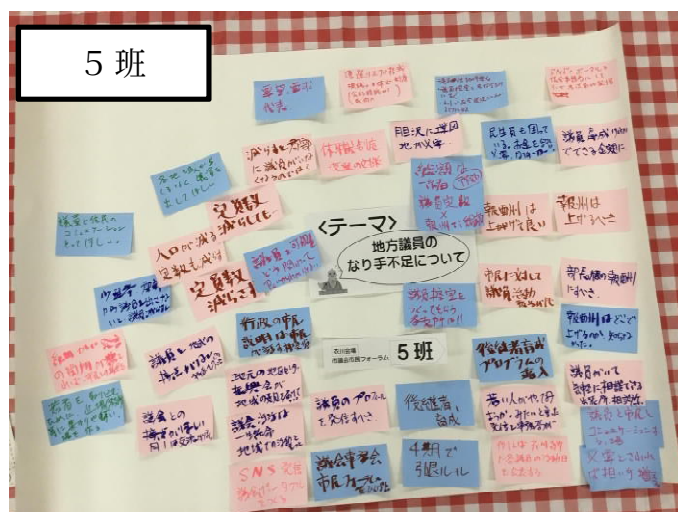
3 班



4 班



5 班



3 水沢地域 開催日：令和6年 12月 14日 場所：奥州市役所本庁)

○参加者 13名

○アンケート回収 13名

※提出分のみ集計 重複回答・未記入部分があるため合計は一致せず

◆年代別

10 歳代	3 名 (23.1%)
20 歳代	1 名 (7.7%)
60 歳代	1 名 (7.7%)
70 歳代	5 名 (38.4%)
80 歳代以上	3 名 (23.1%)

◆議員定数について

多い	2 名 (15.4%)
ちょうどいい	11 名 (84.6%)
少ない	0 名 (0.0%)

◆議員報酬について

多い	0 名 (0.0%)
ちょうどいい	1 名 (7.7%)
少ない	10 名 (76.9%)
回答なし (どちらともいえない)	2 名 (15.4%)

◆ワールド・カフェに参加してみて

満足	4 名 (33.3%)
やや満足	6 名 (50%)
どちらでもない	2 名 (16.7%)
やや不満	0 名 (0.0%)
不満	0 名 (0.0%)

1 【議員定数について】

- ・各地域から公平に選出することが、奥州市全体の活性化になると思う。
- ・人口密度によるものではなく全地域を対象に。
- ・各地域から出てこられるような選出方法を。
- ・定数削減に向かうことやむを得ない。
- ・話を聞く中で、定数を減らして報酬を上げるべきだという考え方に納得したところがあった。ただ、少なくしたことで市民の意見が聞こえにくくなるのはどうかと思う。

・ちょうどいいのですが、地域テーマをはっきり取り上げて多くの方々と団結して実行していただきたい。その活動が最近弱くなったように感じるので、ぜひ頑張ってください。

- ・一関、北上、花巻と比較して多い。2名減で26名としたい。
- ・判断根拠として、類似都市や全国的に採用されている人口視点に軸が置かれているようなので、どうしてもその水準に目が向いてしまう。
- ・定数減について機械的にではなく、地域性を考える必要がある。
- ・人口減少に応じて定数減にすべき。
- ・定数を削減しすぎると、減った定数分の議員やその周りの市民の声が少し減ってしまうのではと思う。安易に急進的に減らすことはあまり良くないと思う。
- ・地区センターが市内30カ所だそうだが、できればその線と言いたいが、現状でやむを得ない。

2【議員報酬について】

- ・適切な報酬額はいくらかと問われたら困るが、少なくとも一般の方々の生活と同等か、多少上位の生活ができる程度の報酬は必要かと思う。
- ・生活に困らないほどの報酬額がないと、若い人が議員になるのは難しいと思う。
- ・40万円以上にするべきと思う（参考：旧水沢市 平成15年は約40万円）。
- ・定数を減らした分の報酬を、議員報酬に上乗せするべきだと思った。
- ・多いとも少ないとも言えないが、市民の皆様がどのような仕事をして汗をながしているかを考えていただきたい。
- ・2名分減とした場合、約1千万円減少する。この分を他の議員に配分、総額では現状維持とする。
- ・報酬額について誤解が存在しているので、社会保険料、公租公課など諸控除の状況を説明していくことが重要です。
- ・議員活動を行うにあたって生業として行うことが大切。そのためには安定した報酬となるなどのしくみが必要。
- ・誰もが議員報酬で生活できるレベルをキープすべき。
- ・手取りとして考えるととても少なく感じてしまいます。額を上げる、または福利厚生強化が必要ではないかと思う。
- ・実態を聞いて少ないと感じた。増やすべき。

3【なり手をふやすには】

- ・議員の活動内容の実情を知る機会がなかったので、今回の試みは大変良かった。
- ・今日のフォーラムのように、議員と顔を合わせて話ができる機会をもっと作れると良い。
- ・議会や議員が何をしているのか見えないとの意見があるので、継続的な市民との対

話や交流が必要。

- ・正直、報酬となり手不足を合わせてしまうのは違うと思う。なりたいと思う人がいるから、その分報酬がついてくるのでは。
- ・なり手を増やすことは大変大事。ただこの地域に自分の思いを捧げるようなテーマが少なくなってきた。その改善が求められる。
- ・議員としての魅力をもっと PR してほしい。
- ・地域単位、振興会単位での擁立使命を認識し、責任をもって担い手を発掘すべき。
- ・若手に議員を身近な魅力のある職業として感じてもらう。地域として考えていく必要がある。
- ・組織・団体から強い働きかけを行う。
- ・議員活動の内容の理解と楽しさを知らせる。
- ・市議会議員に対する若者のあこがれ、興味、関心の度合いを上げる。
- ・市議会の更なる情報発信とともに、地域自体の魅力も増やしていくことが必要。
- ・報酬を増やし、若手も立候補できる状況をつくるべき。

4【その他・ご意見・ご要望・ご感想など】

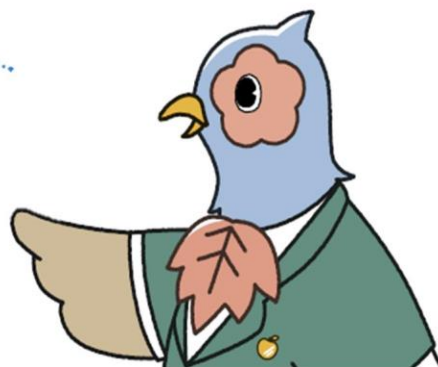
- ・意見交換するには導入の仕方が重要。短時間での意見交換は難しいもの。このような機会はぜひ今後も継続してほしい。
- ・議員と話ができる場に自分が来られて嬉しかった。もっと沢山のの人にこのような場に来てもらいたい。議員には議会活動をもっと知れる場を作ってくれととてもありがたい。今日お話ししたことを家族や友だちにも話し、広めたいと思った。
- ・議員の活動が見えないとの意見に対して、議員と市民の対話交流会、各地区に出向いて直接話をする。
- ・もう少し話し合いをする時間がほしいと思った。いろいろな意見が聞けて良かったと思う。このような場所を増やしていくといいのではないかな。
- ・一般人も議会に入れて意見を聞く場を作る。そうすれば報酬を上げる必要なし。
- ・市長の言葉を聞きたかった。町全体で大事なことに取り組んでいきたいですね。第一歩、大歩、進んで下さい。
- ・20~30 代の参加が望ましい。
- ・議員の本気度が感じられる。これも新人議員誕生が一つの要因と思われるので、精力的にテーマも変更して継続してほしい。
- ・議会や議員について、いろいろな方の意見を伺うことができ、大変有意義だった。これからも市民との意見対話を大切にしてください。
- ・地区振興会からの出席は少なくても良い。幅広い人選がほしい。
- ・席の移動を多くしてほしい。
- ・初めての参加でしたが、自分の意見についても深めることができたので充実した時間になりました。またあれば参加してみたい。

・初めての機会を得て満足。良い勉強になった。

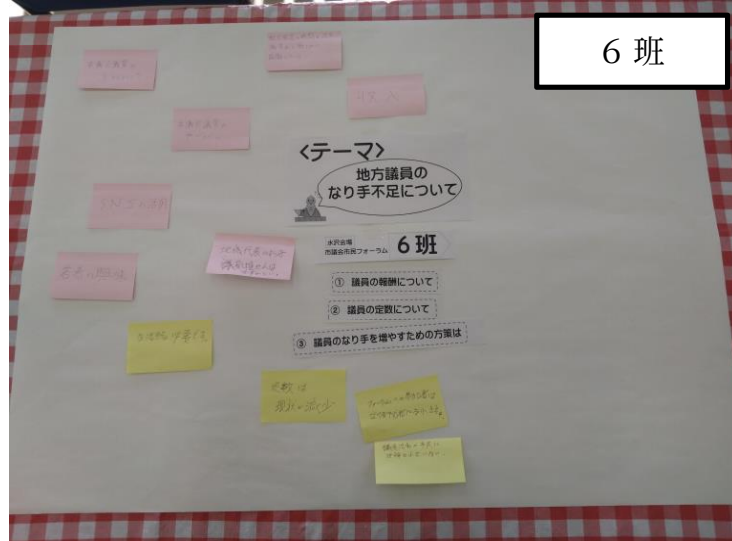
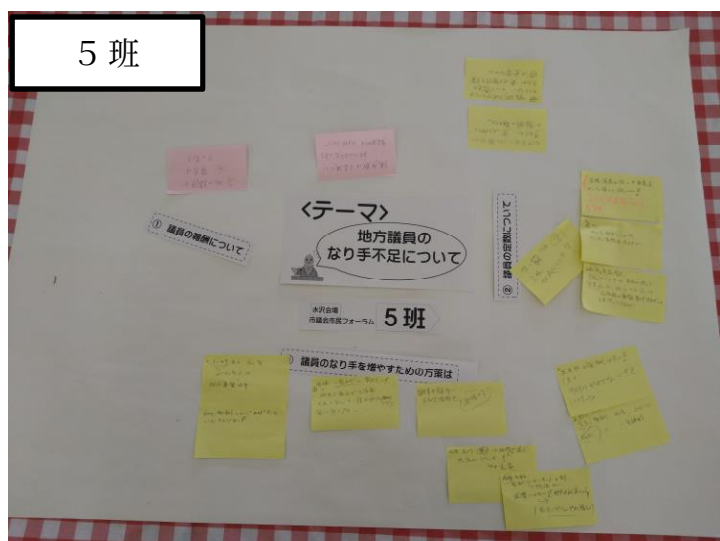
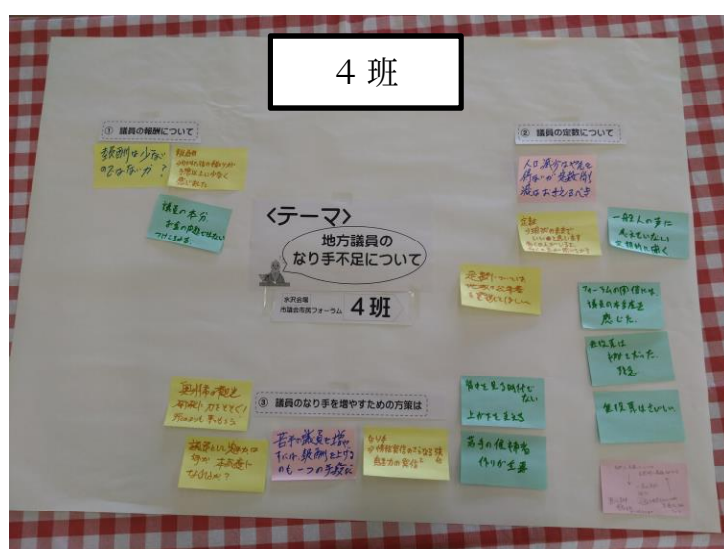
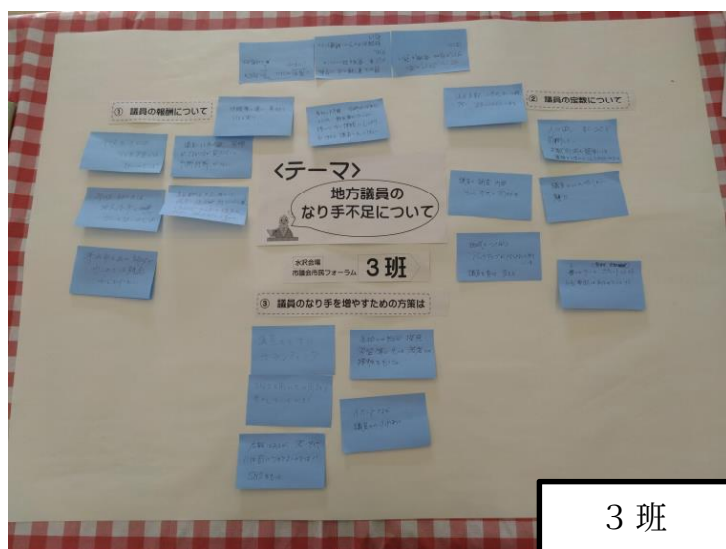
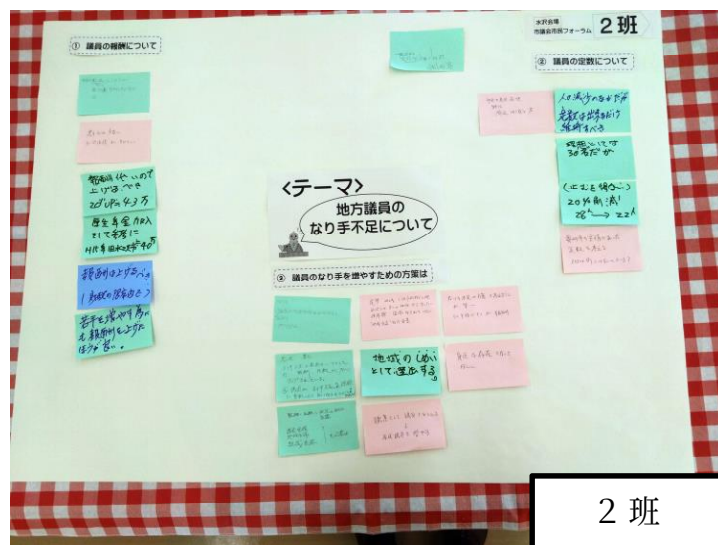
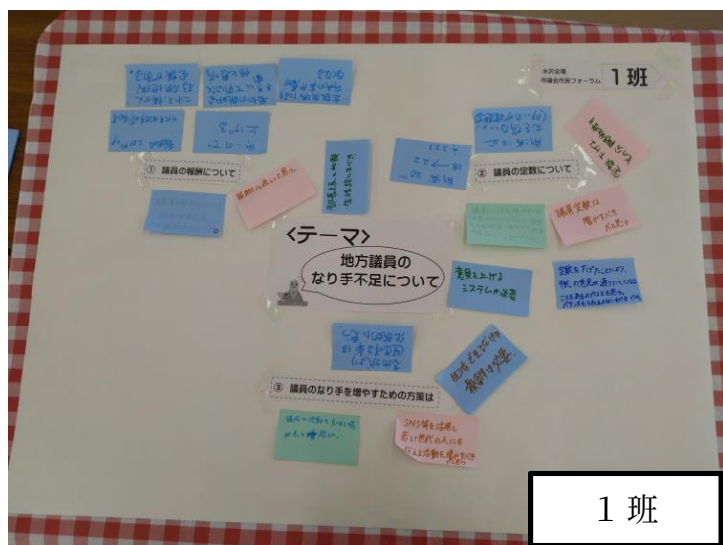
★ 市民と議員の懇談会の様子（水沢）



どうだったら、議員をやって
みたいと思えるのかな・・・？



★ 各班で出された意見を集約した模造紙



4 江刺地域（開催日：令和6年12月14日 場所：江刺総合支所）

○参加者 16名

○アンケート回収 15名

※提出分のみ集計 重複回答・未記入部分があるため合計は一致せず

◆年代別

30歳代	2名（13.3%）
40歳代	2名（13.3%）
60歳代	5名（33.3%）
70歳代	5名（33.3%）
80歳代以上	1名（6.8%）

◆議員定数について

多い	4名（26.7%）
ちょうどいい	8名（53.3%）
少ない	2名（13.3%）
回答なし	1名（6.7%）

◆議員報酬について（重複回答あり）

多い	2名（11.8%）
ちょうどいい	1名（5.9%）
少ない	14名（82.3%）

◆ワールド・カフェに参加してみて

満足	2名（13.2%）
やや満足	7名（46.7%）
どちらでもない	3名（20.0%）
やや不満	1名（6.7%）
不満	1名（6.7%）
回答なし	1名（6.7%）

1 【議員定数について】

- ・多様な意見、少数意見を取り入れるためには、今の議員数で良いかと思う。
- ・AIの活用や業務（振興会との関わり方の見直しなど）を行いつつ、人口の推移に比例した議員数にすべきだと思う。
- ・多少を議論する前に議員数の妥当性の根拠をしっかりと示す必要があります。

- ・今後の人口減や世帯減を考えれば、必然的に定数削減はやむを得ない。
- ・議員定数減と議員の担い手不足は別のことだと思う。
- ・多いような気もするが、広い江刺地域の意見や要望を吸い上げるためには、現実的に最低限必要な人数であると感じる。
- ・議員の活動と成果が見えないので、減らしたときにどのようなマイナス要素があるのか不明である。
- ・多力の問題ではない。
- ・これ以上、議員定数を少なくしてほしくない。
- ・広い面積の奥州市なので現状で良い。定数を削減すると増やしたいときに難しいのでは。
- ・奥州市の振興会が30地区だと思うので、30人とした方が良いのでは。
- ・地域選出という現状も理解できるので28人は必要。むしろ当選議員に地域担当を割り当てて地元の声を市政に反映させ、過疎地域の不安を解消すべき。

2【議員報酬について】

- ・議会や議員活動の拘束時間を考えて。
- ・現状の手取りを市民に周知して、理解を得たうえで報酬は上げるべき。思い切って月60万円以上にするとか、市職員の給与を参考にして上げていくのもいいと思う。
- ・0か100かで議論をもっとしてみたい。リスクが大き過ぎて議員になりたくない。
- ・報酬36万円＝これだけを見れば決して少なくない。手取り額19万円＝安いと思うがやむを得ないのか。
- ・経費節減とはならない報酬を上げるべき。議員活動を高めるべき。
- ・類似他市と比較して高くはないと思う。具体的な金額はわからないが、市職員の方の課長級の平均給与額くらいは必要だろう。
- ・これから活発な市議会になると期待して増額。
- ・多力の問題ではない。
- ・自営業の社長さんだけでなく、落選したら終わりではないなど、会社員も立候補できるように。
- ・4年間の限られた期間なので、保障として報酬はもっと多くあるべき。
- ・若い人が仕事をやめても将来が保証されているような報酬であればよい。現在の手取り額から見ると少ない。
- ・人事院勧告にそった方がいいと思う。上げた方がよい。
- ・手取り額19万円は少ない。健康保険と厚生年金は措置すべき。交通や活動費として10万円ぐらい出してほしい。
- ・現在の賃金では他の会社賃金と比較しても安いと思う。

3【なり手を増やすには】

- ・若者を議員にするには、会社を休職するしくみを作ったら良いと思う。他の自治体で行っているところはないのだろうか。
- ・市民と議会との意識や実情の認識の差を縮めるべき。選挙後の再就職を企業に義務付けるか、停職制度を活用できるようにすべき。
- ・政治にかかわる人を増やす。説明がもっと必要。主権者教育。
- ・今後も必要かと思いますが、より広く内容を吟味し、多くの方の参加を希望する。
- ・方法がよく理解できていない。
- ・各会派で勉強会を開き、参加者の中からなり手をさがす。
- ・話を聞くだけでなく、試験的でも良いのでアクションを起こすこと。
- ・人材育成。
- ・もっと自由度を上げるべき。簡単に文句を言われる状況ではなり手がない。
- ・若い人からうらやましいと思える議員活動をすれば、やりたいと思う人がでてくる
- ・身分保障をしっかり確立すべき。
- ・若い人が落選すると会社の仕事等すべてなくすので、社会復帰と給料保証を考える
といいと思う。
- ・年代別枠と女性枠を作って一定数の人数を確保する。議員がサラリーマンだった場合は、議員を雇用している企業に人件費補助を出す。
- ・賃金のアップ。地域に合わせた人員の振り分け。

4【その他、ご意見、ご要望、ご感想など】

- ・資料が議員数を減らす方向に作っていたと思う。中山間地域を見捨てるような今の市の政策を見直してほしい。
- ・同世代やそれ以下の参加があると良かった。いろいろな方の意見が聞けて良かった。ぜひ今回のフォーラムの意見を反映させていただきたい。
- ・20~30代に多く参加させないといけない。取組は続けてほしい。10代~40代限定の話し合いの場が必要です。
- ・おうしゅう市議会だより、毎回読んでおります。色々勉強になります。議会の内容がよくわかります。
- ・ワールド・カフェ方式は良い方法であった。
- ・時間が短いと思うのは、それだけ良い時間だったのだろう。議員自身の考え方が今後見えるように、個の活動の成果や活動記録が伝わるようにすることが、市民の理解、担い手、なり手対策につながる。言い訳の多い政治家は不要。
- ・人口が減り続けるのはほぼ決まっているなかで、悠長に維持している余裕はないと思う。人数を減らしても議会を維持するにはどうしたらいいかを主題にした方がよいとも思った。
- ・書く時間を話す時間に費やした方がよかった。各テーブルに書記をおいて、シートを代筆してもらった方が話す時間を増やせたと思う。議員と参加者の間に距離を感じ

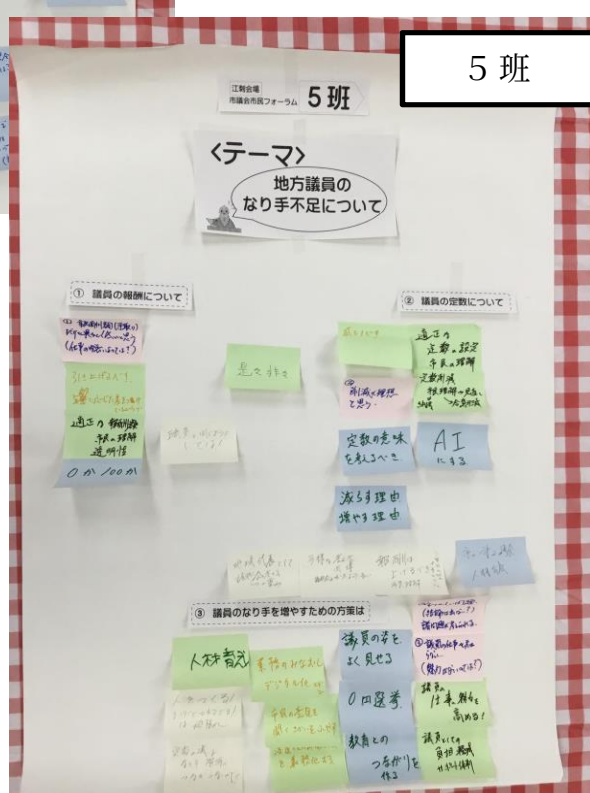
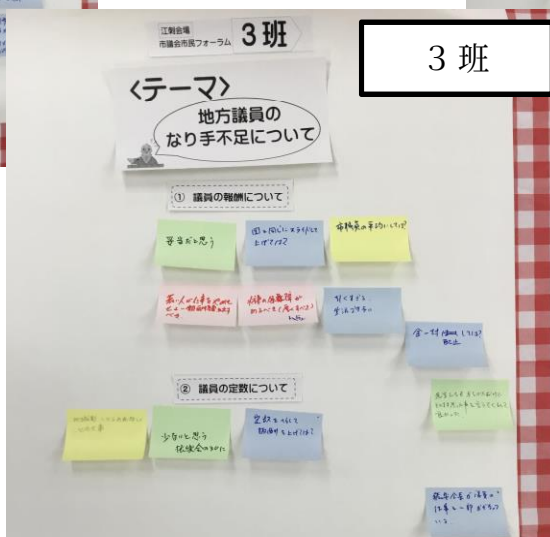
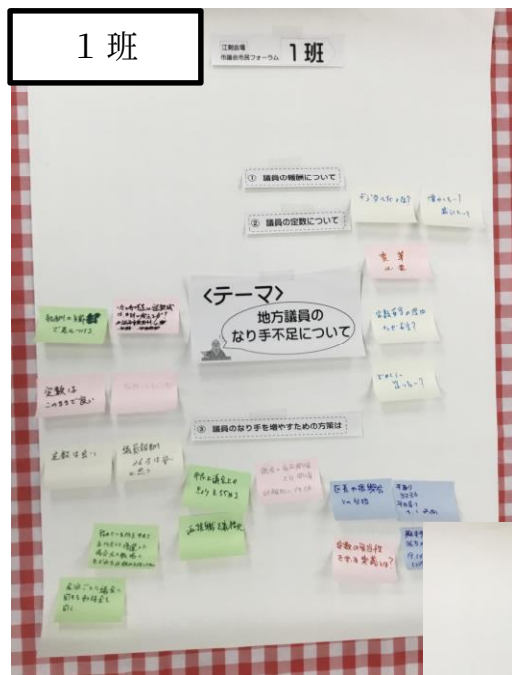
る場面があった。

- ・このような意見交換を議会としてどんどん開催してください。なり手不足の一助になります。
- ・広報、通信、ホームページなど議員の成果（自慢話）をもっと載せてもよい。
- ・班ごとの意見は大変参考になった。報酬の引き上げを感じた。
- ・色々の人の意見を聞いて参考になった。議員もちゃんと聞いてくれ、そのままの気持ちを言ってくれてよかった。
- ・話し合う時間が少なかった。少人数なので話しやすい雰囲気だった。
- ・ワールド・カフェ方式は初めての体験でした。様々な意見が出され、おもしろかった。ざっくばらんな話ができたと感じる。

★ 市民と議員の懇談会の様子（江刺）



★ 各班で出された意見を集約した模造紙



5 胆沢地域（開催日：令和6年12月21日 場所：胆沢総合支所）

○参加者 27名

○アンケート回収 27名

※提出分のみ集計 重複回答・未記入部分があるため合計は一致せず

◆年代別

10歳代	3名（11.1%）
50歳代	2名（7.4%）
60歳代	8名（29.6%）
70歳代	14名（51.9%）

◆議員定数について

多い	10名（37.0%）
ちょうどいい	15名（55.6%）
少ない	0名（0.0%）
無回答	2名（7.4%）

◆議員報酬について

多い	0名（0.0%）
ちょうどいい	10名（37.0%）
少ない	16名（59.3%）
わからない	1名（3.7%）

◆ワールド・カフェに参加してみて

満足	9名（33.3%）
やや満足	11名（40.7%）
どちらでもない	6名（22.2%）
やや不満	1名（3.7%）
不満	0名（0.0%）

1 【議員定数について】

- ・人口減少が確実視される中では致し方ない。地域・職場の理解が重要。
- ・人口が少なくなるので、それに合わせて。
- ・定数削減により、少数意見や小さな声がつぶされるのが悲しい。検討が必要
- ・人口比率に合わせていく。
- ・人口減のため。

- ・議員のなり手がいないから定数減とはならない。現定数と市の発展に住民と力を合わせて臨んでいただきたい。
- ・今の定数が適切とすれば、今後は人口の推移に応じて変動するのが自然と考えます
- ・将来人口が減るのは確実なので、定数を半分にするなど少数精鋭にして、減人分の報酬を報酬単価に上乗せする。
- ・市民の声が届かなくなる。
- ・人口が減っている現状では、定数が少なくても可。
- ・だいたい多いというのではなく、人口減に合わせて人数を変えていけたら。
- ・現在の人口比率のまま定数を変えたら良い。人口が減れば減っていく。
- ・報酬をアップさせようとする、定数を減らした方がよいのか。
- ・地方議会で無競争が散見されるが、定数の見直しも必要と思う。ただし、周辺部の意見や要望が通りづらくなる懸念あり。
- ・人口に応じて。
- ・人口減に伴い、議員定数も減るのは仕方ない。
- ・小選挙区制を採用して、各地域からまんべんなく議員が選出されれば、それぞれの意見が反映されやすくなると思う。
- ・市民の声の吸い上げは振興会が行っている。人口減、財政難。どんな考えを持っているか不明。22人くらいが良い。

2【議員報酬について】

- ・地域、家族の認知を高める。財政状況が厳しいが。
- ・生活ができないと考える。
- ・議員として市民ニーズに応えるような活動を有効的に実施しているなら、報酬は高くした方がよい。
- ・手取りが20万円を切ると知って驚いた。これでは確かに生活できない（副収入があれば別だが）。この額ではそれなりの議員活動で終わっても仕方ない。
- ・議員の定数と報酬をセットで考える。つまりアップするには定数を減らすことも一方策と考えます。
- ・議員の稼働率は低いので、その間バイト等をして家計を助ける工夫をする。議員報酬で生活を支えるのはどうか。
- ・負担が多く見える。
- ・議員の現在の額 1.1倍/28人 → 1.1倍/?人。市の収入によって考える。
- ・この報酬額では、若手には難しい。
- ・少しずつ上げていけばよいのでは。
- ・お金ありきで活動している方はいないと思う。しかし、無償ボランティアではやり手がでない。
- ・若い人にしたら少ない。

- ・金額の感覚はまだよくわかっていないところもあるが、子育て世代などのことも考えるとアップした方がよいのか。
- ・家族が多かったり他の職業と兼任したりしていなければ、少ないと思った。
- ・額面は多く見えるが手取り 60%程度。期末手当を加えても若年者は大変。
- ・人口に応じて。
- ・各種控除後の手取り額 19 万円の例を見ると、議員を職業とする気にはなれない。
- ・議員年金の復活を。
- ・活動時間と報酬の关系的には適正であると思う。さらなる改革で活動時間を増やし、兼業可を促進するのも良いと思う。
- ・定数減でまかなうなど、現状の予算額の中での報酬アップなら良い。

3 【なり手を増やすには】

- ・議員活動の見える化をはかる。地域の理解、コミュニケーションをはかる。地域事情はあるが、奥州市民全体での一体化に努める。
- ・定数と報酬に限らない。
- ・若い人だけに頼らず、60 代、70 代の高齢者の活用を考えるべき。
- ・議員との交流ができる場を増やす。
- ・議員さんと若者とのコミュニケーションが必要。
- ・地域住民の理解と応援。後援会からの強い推薦。選挙費用の圧縮。
- ・この様なフォーラムを、色んなレベルや色んな機会をもって、市政の在り方について語り合うことで、住民の自治意識を高めていくことが必要ではないか。
- ・市議会議員を職業とするには、報酬が少ないなどハードルが高いので、年配や退職者でも立候補できるよう年齢制限を設けなくて、元気な人に、立候補して頂くことも必要か。なお、定数減とするには小選挙区の復活が必要と思う。
- ・常に適任者を探す活動をする。
- ・交流の場を多くして、活性化を図る。
- ・地域に働く場所を探す。若者の定住を考える。企業に理解を得る。
- ・現時点で、若い人たちに勧めることは難しいと思う。
- ・消防団員もですが、若い人が理解や参加できる状況でなければ難しい。
- ・議員の活動内容を、子どもでもわかるくらいお知らせに力を入れてほしい。紙媒体でも良いが、SNSでの発信は今後必要だと思う。
- ・報酬を上げる。
- ・Uターンの取り組み。SNSの活用。学生との関わり。
- ・実際に、学生などに今の政治について討論させてみたり、考えたりしてもらおう。
- ・SNSの活用。
- ・地域で日常から情報交換が必要。
- ・地域代表的選出を考える。

- ・今回のような機会を増やし若者を呼んで、多くの人の前で自分の意見を述べられるように場慣れをさせることも。
- ・市民との対話。
- ・議員や議会がSNSを通じて情報発信。
- ・やりがいがある職業となっておらず、伝わっていない。発信力の弱さ。
- ・議会の時間を減らす。

4【その他、ご意見、ご要望、ご感想など】

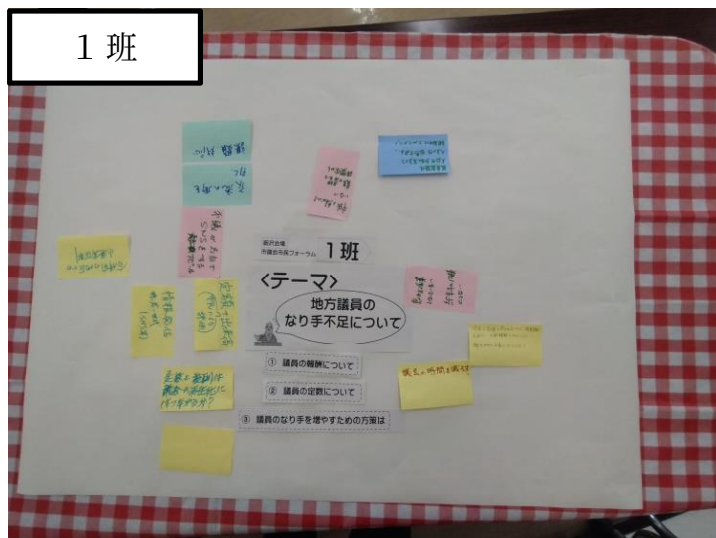
- ・高校生のような若い方の出席、頼もしく思いました。
- ・いろいろなことが聞けて、勉強になりました。
- ・議員や議会と市民との距離感をなくすため、SNS等の活用を進める。情報の共有化が必要。
- ・様々な人の考えが聞けて良かった。
- ・もう少し若い人の参加があっていいのではないか。
- ・議員と会社員など、兼業が許される雰囲気が広まればどうなるか。いろいろな意見を聞けて有意義でした。高校生の参加はすばらしい。
- ・一定の時間で次のラウンドに移る形式は、必要でもあり良いようでもあるが、話が中途半端になる点が残念。あまり深まらないまま急がされている感じだった。ただ、このようなカフェは意義がある。色々なレベルで色々な機会でもつことで、市民の自治意識も高まるのではないのでしょうか。
- ・大変参考になりました。
- ・結局、市の収入増があれば解決するのか。
- ・勉強不足が多く、勉強になりました。
- ・グループでの作業が久しぶりでびっくりでした。
- ・ラウンドの時間が少なく、途中で終わったよう。
- ・今後もぜひ。
- ・攻撃されることもなく、否定されることもなく、なごやかな雰囲気の中、意見が聞けて良かったです。普段会えない議員ともお話ができて良い機会をもてました。ありがとうございました。
- ・いろんな意見があり面白かった。
- ・実際に議員とお話することができて良かったです。またこのような機会があれば参加してみたいです。
- ・若い世代を中心に政治や議員について、興味や関心を持ってもらうことが必要なのかと思った。
- ・現職議員はじめ地域有識者が、日常から市、地域の実情をオープンにして有権者と情報交換を広めていただきたい。
- ・色々な考えがあり参考になった。

- ・市民と議員の交流の場が必要。社会保障制度の充実。市議会だよりにより二次元コードを掲載して多様な意見を吸い上げる。
- ・時間が短い。

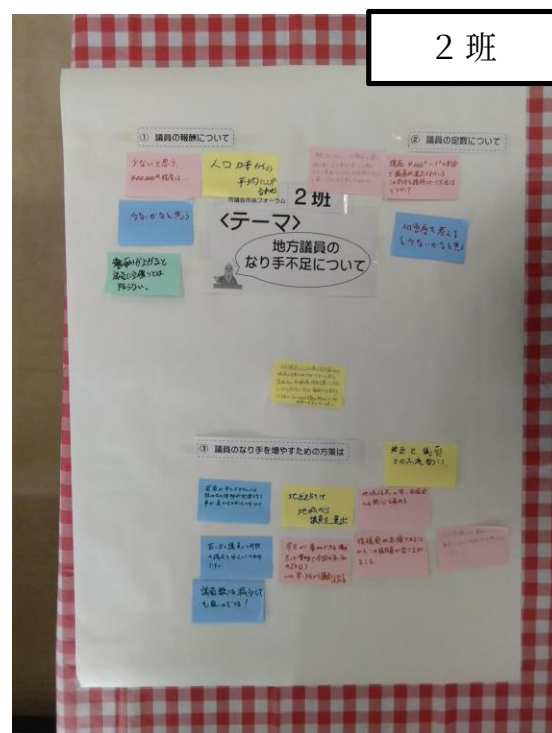
★ 市民と議員の懇談会の様子（胆沢）



★ 各班で出された意見を集約した模造紙



8



3 班

[illegible]

4 班

[illegible]

5 班

[illegible]

7 班

[illegible]

6 班

〈テーマ〉

地方議員の なり手不足について

鹿児島県
市議会市民フォーラム

6 班

① 議員の報酬について

① 報酬については
活動の割合による
定額か？

定額制を廃す
ねど、前年の定額
少数意見がつく
今の低い額に引き上げ

収入と考えると、若人
は少ない
報酬として、60代以降
に元金あってもいい

① 市の収入に
よって決める

② 議員の定数について

② 地域の需要
に応じて増減
をみるので
おおよそ

① 人口増加に合わせて
削減の方針！

定数は多すぎる
25〜26人

今の定数に
いいのではなかろうか？

③ 議員のなり手を増やすための方策は

政策活動の
見える化が必要

SNSでの報告
とてもよくわかる
公約の進捗？

具体的に
何としているか
わからない

地域に一人
欲しい

政策活動の
見える化が必要

※議員の選挙方法

① 議員を減らす？
議員会の削減意見
を表明する

6 班

議員間討議の結果について

R7.3.27
市政調査会全体会



1

(1) 議員間討議の結果、定数・報酬に係る方針について

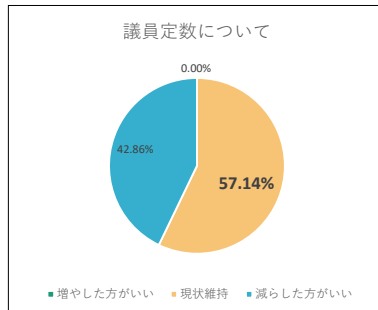
(2) 今後の予定について



2

(1) 議員間討議の結果、定数・報酬に係る方針について

①-1 議員定数について ～「現状維持」の内容～



増やした方がいい	0名
現状維持	16名
減らした方がいい	12名

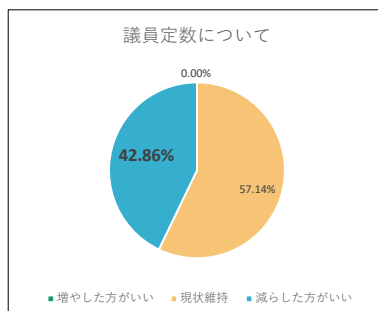
①「現状維持」の理由のうち主なもの

- 市民フォーラムでの市民意見を尊重
- 若手や女性が立候補できる環境維持のため
- 地域要望にならない地域の小さな要望や意見に対応するため
- 常任委員会の定数と常任委員会数を考えて
- 議員の権能を考えると市民の意見を市政に流すパイプを狭めるべきではない
- 人口減少といえども活動範囲は変わらず、むしろ社会の多様化への対応が必要
- 残された時間を考えると、次回改選期からは難しい
- 将来の人口減に併せて減とすべきだが、時間がないこと、また若い人たちが立候補しづらくなる。もっと市民に向き合う時間が必要、早めに取り組むべき

3

(1) 議員間討議の結果、定数・報酬に係る方針について

①-2 議員定数について ～「減らした方がいい」の内容～ (1)



増やした方がいい	0名
現状維持	16名
減らした方がいい	12名

①適正と考える議員定数

26名：6名 24名：1名 22名：2名
26～22名の範囲で（段階的減も含む）：3名

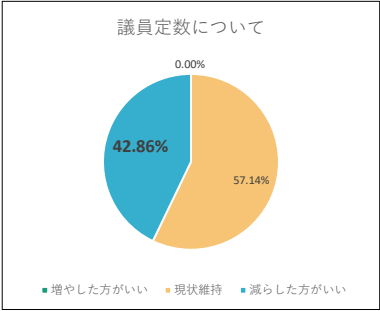
②「減らした方がいい」の理由のうち主なもの

- 人口減少、財政規模にあわせて
- 近隣他市の事例、全国の平均値にあわせて
- この議論は前回の無投票選挙から始まっているため、少しは削減すべき
- 定数減と同時に報酬増を

4

(1) 議員間討議の結果、定数・報酬に係る方針について

①-2 議員定数について ～「減らした方がいい」の内容～ (2)



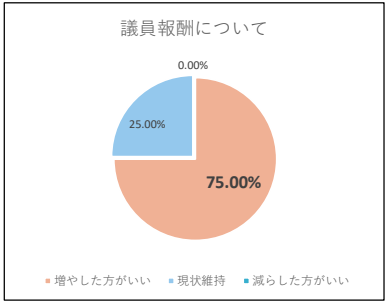
増やした方がいい	0名
現状維持	16名
減らした方がいい	12名

- ③「減らした方がいい」の実施時期のうち主なものと人数
- 次期選挙から 9名
 - できるだけ早く 1名
 - 段階的に（R8.3月→現状維持、R12.3月→26名、R16.3月→24名）1名
 - 減らした方がいいが1年では間に合わない 1名

5

(1) 議員間討議の結果、定数・報酬に係る方針について

②-1 議員報酬について ～「増やした方がいい」の内容～ (1)



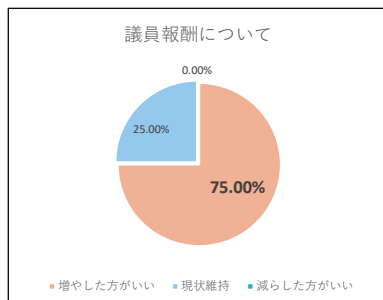
増やした方がいい	21名
現状維持	7名
減らした方がいい	0名

- ①適正と考える議員報酬額
- 40万円：8名 41万円：1名 42万円：5名
50万円以上：3名 40～42万円：3名 40万＋政務活動費：1名
- ②「増やした方がいい」の理由のうち主なもの
- 若い世代が世帯を持ち、子どもを進学させられる額
 - 近隣他市の事例、市政調の調査結果などから
 - 定数を減らして報酬を増やす
 - 子育て世帯のサラリーマン並みの報酬を
 - 議員は報酬で立候補するわけではないが、ある程度保障されるべき

6

(1) 議員間討議の結果、定数・報酬に係る方針について

②-1 議員報酬について ～「増やした方がいい」の内容～ (2)



③「増やした方がいい」の実施時期のうち主なものと人数

- 次期選挙から 14名
- できるだけ早く 3名
- 定数減のタイミングで 2名
- 定数減後の4年間で（定数削減を優先） 1名
- 次の選挙終了後に 1名

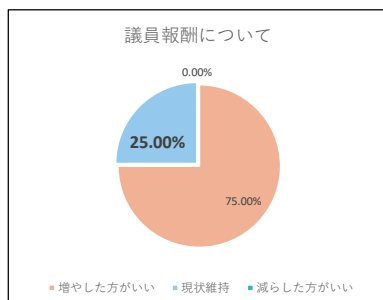
※定数維持とするなら報酬も維持との意見あり

※「報酬増：次期選挙」かつ「定数減：次期選挙」 8名
報酬増と定数減はセットと思慮、もし定数維持となった場合
報酬を増やした方がいい 21名→13名
現状維持 7名→15名

7

(1) 議員間討議の結果、定数・報酬に係る方針について

②-2 議員報酬について ～「現状維持」の内容～



①「現状維持」の理由のうち主なもの

- 市民意見を尊重して
- 議員定数を変えないのであれば、市民理解は得られないと思う
- 他産業に比べれば議員報酬は低い方ではないが、子育て等を考えると低いと思う。
- 政務活動費をあげてほしい
- 報酬に市民は敏感なので理解してもらう努力が必要
- 市民理解を得る観点から、残された時間を考えると次回改選期からは難しい

8

(1) 議員間討議の結果、定数・報酬に係る方針について

③議員間討議の結果

◎議員定数について

- ①増やした方がいい 0名
- ②現状維持 16名
- ③減らした方がいい 12名

◎議員報酬について

- ①増やした方がいい 21名
- ②現状維持 7名
- ③減らした方がいい 0名

↓
定数＝現状維持となった場合

- ①増やした方がいい 13名
- ②現状維持 15名
- ③減らした方がいい 0名

振り返りシートの結果を見ると・・・

①議員定数については、

- 「現状維持」が半数以上
- 一方、「減らした方がいい」も一定数ある

②議員報酬については、

- 増やした方がいいが3/4
※定数減かつ報酬増の方が12名（次回選挙からは8名）
定数減、報酬増をセットと考えるならば、定数維持とした場合には報酬も現状維持と考えられる



9

(1) 議員間討議の結果、定数・報酬に係る方針について

④市政調査会役員会での結論・・・議員定数

◎令和8年3月の議員選挙は現状維持（28人）

ただし、次期選挙後の2年間程度で、適正な定数の検討と市民理解を得るための方策を実施し、定数減となった場合、3年目には条例改正等の諸般の手続きを完了するなど、検討の早期着手と令和12年3月実施の議員選挙においては議論を尽くした定数で選挙を迎えること。

【役員から出された意見】

- ・定数は減らすべき ・9月定例会まで時間がない ・市民理解がまだ足りない
- ・定数が現状維持であっても、報酬が低く報酬増が必要なのであれば、その理解を市民に求めるべきで、そういう検討も必要
- ・前回無投票という現状から定数減という市民の声がある
- ・現状では現状維持が妥当だが、もし次回選挙が無投票などなり手不足のようなことが生じれば、すぐに検討を始めなければならない
- ・現状維持だが、定数と報酬は連動させず、定数は定数で本当に必要な人数の検討が必要
- ・定数を減らすならば、市民の声が届くための別の手法、方法の検討が必要で定数削減はそれから



10

(1) 議員間討議の結果、定数・報酬に係る方針について

④ 市政調査会役員会での結論・・・議員報酬

◎令和 8 年 3 月の議員選挙は現状維持（36万円）

ただし、振り返りシートの結果を見ると「定数減」かつ「報酬増」と考える議員が多いことから、次期選挙後に定数と合わせて報酬の検討も即座に着手し、議論の結果をもって令和12年3月の選挙を迎えること。

なお、役員からは定数と報酬は切り分けて検討すべきとの意見が出されていることから、定数減ありきではなく「定数維持」かつ「報酬増」の道筋も含めて検討すること。

【役員から出された意見】

- ・ 定数維持なら報酬も維持
- ・ 9月定例会まで時間がない（報酬検討には当局でも一定期間必要であること）
- ・ 定数が現状維持であっても、報酬が低く報酬増が必要なのであれば、その理解を市民に求めるべきで、そういう検討も必要
- ・ 定数を減して、その枠の中で報酬増
- ・ 次回選挙後、すぐに令和12年3月選挙に向けて検討を
- ・ 市民合意が得られていないため現状維持だが、定数と報酬それぞれ別々の議論を



11

(2) 今後の予定について

市民への報告、なり手不足対策について

① 市民への報告

これまでの検討結果をまとめた報告書を作成し、市民への報告を行う。
市議会HPのほか市議会だよりへの掲載、市民フォーラムでの報告などを想定する。

② なり手不足対策

令和8年3月の議員選挙は定数・報酬ともに「現状維持」という結論だが、市民との対話を重視した「市民フォーラム」などなり手不足対策は引き続き実施する。

※特にも「市民フォーラム」は今後も継続してほしい旨の声をいただいている。市民と議員が接する貴重な場として捉え、今後も効果的な開催方法を検討していく

12

令和7年度
奥州市議会
市民フォーラム

テーマ

「なるぞ！なれるぞ！！市議会議員」

令和7年8月9日(土)



奥州市議会マスコットキャラ キジロク君

奥州市議会市政調査会

当日の次第

令和7年度 奥州市議会市民フォーラム



キジロクくん

日時：令和7年8月9日（土）
午後1時30分～4時00分
会場：奥州市役所江刺総合支所
多目的ホール

次 第

1 開会

2 挨拶 <奥州市議会 市政調査会 会長 ^{いいざか かずや} 飯坂 一也>

3 基調講演

講師：大正大学 地域創生学部 公共政策学科

教授 ^{えとう としあき} 江藤 俊昭 様

演題：「住民参加の意義と市議会議員選挙の役割」

4 パネルディスカッション

テーマ：「なるぞ！なれるぞ！！市議会議員」

ファシリテーター（進行役）：一般社団法人いわて圏 代表理事 ^{さとう しゅうへい} 佐藤 柊平 様

パネリスト：奥州市議会議員

[^{さとう みゆき} 佐藤 美雪 ^{ししど なおみ} 穴戸 直美 ^{かんの いたる} 菅野 至 ^{かどわき よしひろ} 門脇 芳裕 ^{さとう まさのり} 佐藤 正典
^{たかはし よしゆき} 高橋 善行 ^{ささき ゆみこ} 佐々木 友美子 ^{あずま りゅうじ} 東 隆司 ^{おいかわ はるき} 及川 春樹]

5 意見交換

6 謝辞 <奥州市議会議員 ^{すがわら よしかず} 菅原 由和>

7 閉会

令和7年度奥州市議会市民フォーラム

【振り返りシート】まとめ

Q1 市民フォーラムの進行方法は適切でしたか

☐ 非常に適切だった	6人	18.2%
☐ だいたい適切だった	24人	72.7%
☐ あまり適切でなかった	2人	0.6%
☐ まったく適切でなかった	0人	0.0%
無回答	1人	0.3%

自由記載欄

- ・時間が短すぎる
- ・時間の前倒しを考えてはどうか
- ・一般市民にはむずかしいかも？
- ・講演、パネルディスカッション
- ・こんなものでしょう
- ・とてもよい進行だと思いました

Q2 基調講演の講師の説明はわかりやすかったですか

☐ 非常にわかりやすかった	14人	42.4%
☐ だいたいわかりやすかった	17人	51.5%
☐ ややわかりにくかった	1人	0.3%
☐ とてもわかりにくかった	1人	0.3%
無回答	0人	0.0%

自由記載欄

- ・「民主主義は希望と参加ではじまる」に納得しました
- ・議員には良い講演だと思いました
- ・“圧”が強すぎたのでは？なり手を得ようとする流れで、こうした話が良かったのかどうか…
- ・議員に対するレクチャーと感じた。一般市民には難しい演題だった。
- ・議会の果たす役割を再認識することができた
- ・たいへんわかりやすく、良い講演でした
- ・犬山市のフリースピーチのビデオはとても興味を感じた
- ・議員、議会の重要性、多様性を再認識。やっぱり議員は大変な仕事！定員割れ当然！
- ・よく理解できたつもり
- ・参考になった。もう少し講演に時間を割いてほしかった。もしくは、講演をパネルディスカッションをわけて、各々より詳しく行ってほしかった。
- ・わかるが、新鮮さに欠けた。基礎的なことなのでやむを得ないか。
- ・言葉選びは高校生にもわかりやすかったが、用語はわからなかった。
- ・とても興味深い基調講演でした！
- ・“政治と生活は結び付く”→このような体験をたくさん積み重ねられたら…。
- ・“民主主義は市民の希望と参加で始まります。議会に期待してください”→誰がやっても同じという雰囲気があり、政治に期待できない。よって立候補者少なく投票率も低いのではないか。
- ・学校では、人数の少ないところでも、児童会の選挙を行っていました。ある時期から小学生に“選挙はなじまない”を指導主事が“指導”しました。その結果、小学校での児童会選挙はことごとくなくなりました。それが低投票率の原因ではないかもしれませんが何らかの影響はあるのではないかと考えています。

Q3 市民フォーラムによって奥州市議会に対する理解度は向上しましたか

☐ 非常に向上した	6 人	18.2%
☐ 少し向上した	23 人	69.7%
☐ あまり向上しなかった	3 人	0.9%
☐ まったく向上しなかった	1 人	0.3%
無回答	0 人	0.0%

自由記載欄

- ・市民といっても片寄った市民を捉えているのでは。支援団体か
- ・1年生議員としては頑張っていると感じました
- ・別世界と思えた市議会が身近に感じました
- ・大切ななり手不足。現職の活動内容を聞きたかった。
- ・議員の個性が見えて、身近に感じれた。次回は簡単なレジメが欲しい。
- ・奥州市の経営は、権限は議会にある。議員には大きな責任があり、大変な仕事！
- ・既に承知しているので（まったく向上しなかったを選択した方）
- ・少しだけですが、向上しました

Q4 市民フォーラムへ次回も参加したいですか

☐ ぜひ参加したい	6 人	18.2%
☐ 参加したい	20 人	60.6%
☐ あまり参加したくない	4 人	12.1%
☐ まったく参加したくない	0 人	0.0%
無回答	3 人	0.9%

自由記載欄

- ・多方面の問題を聞いてみたい
- ・興味がわくような講演を望みます
- ・その時によりますが
- ・パネルディスカッションのウエイトを増やしてもらいたい
- ・多忙なため、日程が合えば！
- ・議会の重要性がよく理解できて良かった
- ・50：50
- ・熱心に活動している市議会議員さんに勧められるので
- ・ぜひ参加したいと思いました！

Q5 議員のなり手不足について、あなたの考えをお聞かせください

自由記載欄

- ・そもそも議員が何をやっているのか市民に見えていない。もっと、街に出て市民と会話をすべき。
- ・議員報酬を上げること
- ・議員活動のやりがいや楽しさを広く周知する必要があるのではないか
- ・講師は定数を安易に減らすのはおろか…ということであった。しかし適正な数の検討は進めるべき
- ・人口減少に伴った議員定数の削減を報酬の引き上げ
- ・低額な議員報酬については問題点のひとつと思う。市としての税収を増すためにも、市へ企業を誘致し若者も奥州市に住み続けたいと思わせることが求められていると思う。
- ・今回のフォーラムのように、市民の皆さんに議員の仕事内容ややりがいが垣間見れる機会を増やしていくことを希望します
- ・議員報酬の改善はもちろんだが、このようなフォーラムに若い世代の参加呼びかけが必要と思われる
- ・地域代表ではなく、まずは市全体の議員を意識してほしい。議員は職業が不安定だ。生活基盤を確保するためにも報酬の検討を。予算のかかわりがあれば議員定数削減も！
- ・端的に魅力度をどうアップしていくか
- ・議員擁立は地域の最大課題であります。が、現職の後継者の育て方も必要事項であると思います
- ・高校から大学及び専門学校等へ進学傾向が伸びている現状です。そこで、各学校へ議員活動PRをし、将来やる気ある議員を育てる。
- ・人口減少も影響しているのでは
- ・もっと住民との接点をもって、より身近に議会を感じてもらうことが第一と思う。そのためには、小選挙区制にした方が良い。
- ・なり手不足は、議員だけの問題ではなさそうだと思います。後継者育成が大事。これは家庭にありそうです。核家族化をなくすことかな？
- ・仕事と議員活動の両立という話があったが、議員活動をやればやるほどできないという方がいた。本音だと思う。
- 先輩の跡を継いだという人が大半だった。自らの人はいるのだろうか！？もし、跡を継ぐように言われなかったらどうしたのだろうか？
- ・知名度やその役割がわからない人が多いと思う。主権者教育や議員の学校など、知名度の向上や参加しやすい環境づくりをぜひ行ってほしい。
- ・議員が市民ここへの接近、面談不足（皆無）
- 市民の側も議員へ直接話す機会を作ろうとしない どうでもいいという空気になるため。市民も私も。
- ・議員になるための“学校”は良い制度だと思いました。
- ・女性の定員を増やすのは良いと思う
- ・女性議員の議席数の増加によって、議員のなり手不足について少し解消すると思う。

Q6 次回以降のフォーラム開催をより良くするため、ご意見、ご感想などご自由にご記入ください

自由記載欄

- ・若者、女性の参加も促してほしい
- ・特になし
- ・市内の振興会に動員依頼した方々がほとんどで、一般市民の参加が少なかったと思いますので、一般市民が参加できるような題材を考えてほしいと思います
- ・最後は身近なぶっちゃけ話があつていい雰囲気になったと思う。
- ・議員のぶっちゃけトークは是非入れてください。
- ・議員が本気になって活動しているか。活動報告などの程度実施しているか？
- ・市民はどう思っているか、市民の声を聞いては。アンケート等をとっては。
- ・今回がなり手不足の解決へ向かってくれることを期待します。無投票もひとつの方法であると思います。
- ・議員、議会の報道が少ないのも、なり手不足の一因かと思う
- ・講師先生への質問時間をとってもらいたい
- ・少子高齢化社会にあって、なり手不足は当然のことではないでしょうか？異常なことであるかもしれませんが、それを受け入れて、より良い議会運営を工夫するしかないかもしれません！

あなたには後継者が居ますか？子どもや孫と一緒に暮らしていますか？後継者のいない家庭は、なり手のいない議会と同じように思えました。

- ・議員に対しての質疑を興味深く聞いた。楽しく聞けた。時間的にも適切。ちょうどいい。
- ・市議会、市議員への意見、要望欄も設置したらどうか？それを集約して次回公表して議会としての見解を示す。地域の声を市政に届け、実現させることも重要ですが、地域の数多くの地域活動団体（ボランティア、生活サークル、老人クラブほか）の声も拾い上げてみてはどうでしょうか
- ・今回の形式なら、市議会の現状を知ったうえでそれに関しても質問できるので、良いと思う。
- ・もっと住民（市民）の参加数の枠を増やしてほしい。
- ・参加人数をもっともっと増やして、多くの方に共に学んでもらいたい。無関心からは何も生まれにくい…

（その他欄外に記入のあった事項等）

- ・今後、企業の誘致。税制面を考えたうえでも農地転用。規制緩和。
- ・振興会の役員ですが、地域の活動に参考になりました。
- ・無投票をラッキーと思っている議員はいないかな？ 楽しい先進地視察が多すぎませんか。 それにしても女性の参加が極めて少ないですな。 自己紹介ほか1分で話せというのは無理でしょう！ 前回のようなグループでの話し合いなくて静かさが支配してます。設問を理解してください。見当違いの回答はいかなものか。

市政調査会役員ほか議員の声（主に運営に関して）

- ・会場の確保は早めにする必要があった。
- ・参加者は女性、若年層が極端に少なかった。
- ・今回のテーマ（なるぞ！なれるぞ！！市議会議員）のフォーラムに参加すると「選挙に立候補するのでは？と思われたくなくて参加を見送った」という声があった。
- ・実施する時間帯について、夜も検討してみてもいいかもしれない。
- ・簡単なタイムテーブルを資料に載せたほうがよかった。
- ・子ども連れでも受入可能な旨を打ち出せばよかった。
- ・子どもの見守り体制もあれば理想。
- ・長時間となるため、出入り自由とするなど気軽に参加できる雰囲気づくりもあればよい。



当日の様子



開会前の様子



開会前の進行の確認中



司会をする阿部加代子議員



開会をする及川春樹副会長



挨拶を述べる飯坂一也会長



集まっていたいた 44 名



基調講演をする大正大学の江藤俊昭教授



パネルディスカッション



ファシリテーターの一般
社団法人いわて圏の
佐藤柊平氏



パネリストの議員は9名











終始なごやかな雰囲気の中で進行したパネルディスカッション



質問もいただきました



謝辞を述べる菅原由和議長